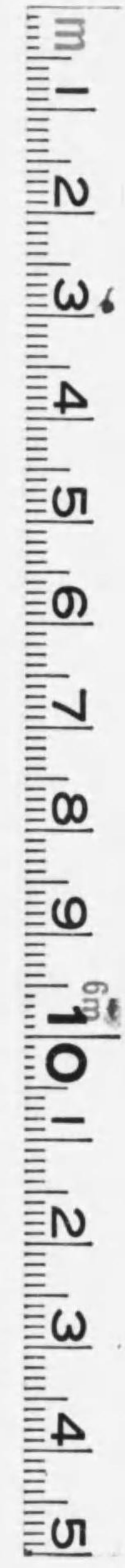




雪ゆき艇ねい行ぎやう脚きゃく

特 253
601

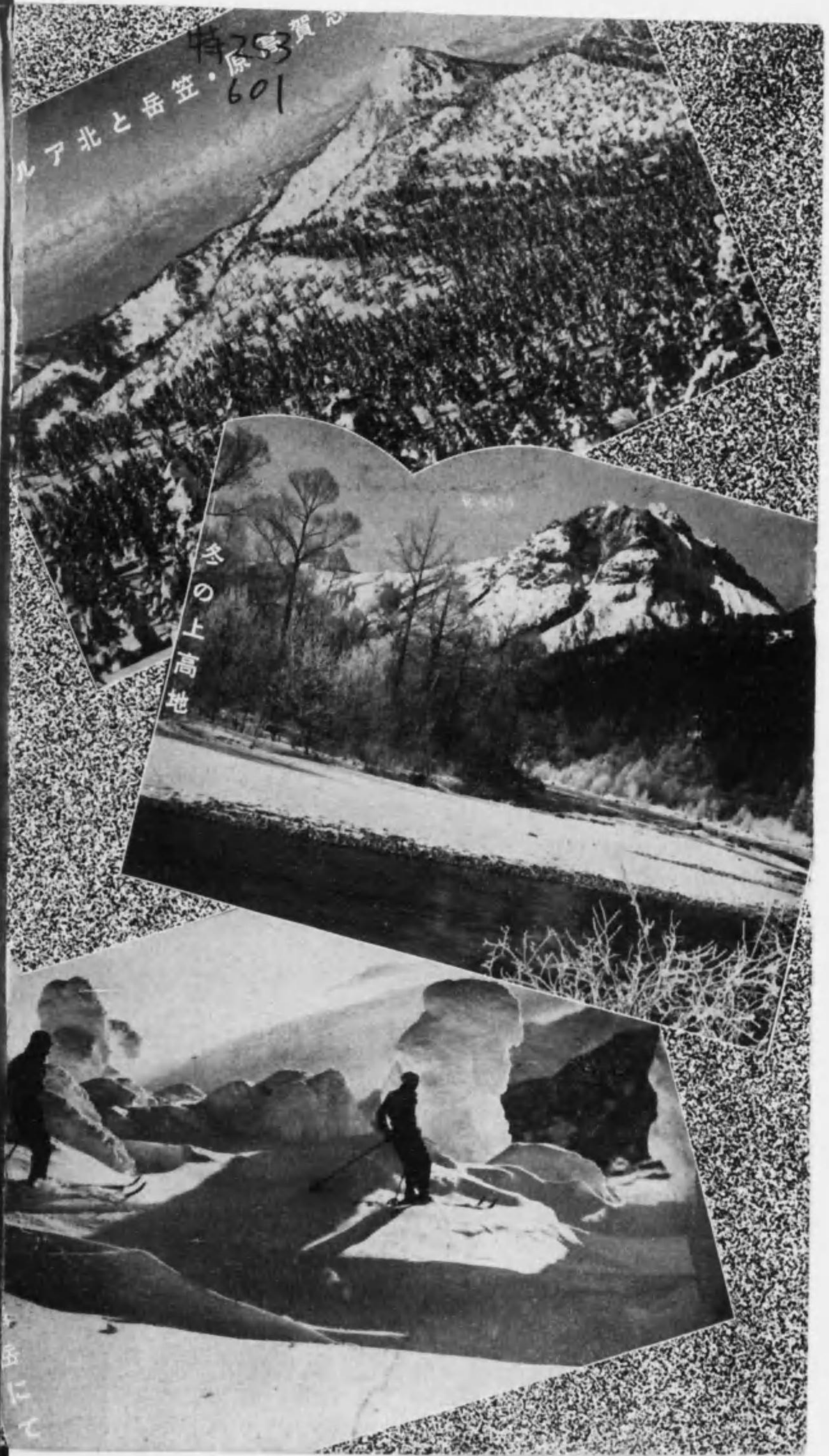


始



② スーリシドイガ濃信

3
2



目次

乗鞍岳(表紙)	馬場忠三郎
梅池小原(裏表紙)	百瀬藤雄
志賀高原	小竹高賢
菅平・霧ヶ峰	柴崎高陽
棒池附近	近藤藤子
冬の上高地	穂刈三壽雄
信州	福島觀光協會
信越線方面	
菅平・旗本附近	
長野・野澤・飯山附近	
志賀高原	
妙高高原	
北アルプス方面	
乗鞍岳附近	
大町と小谷温泉	

白馬山麓附近	四〇
中央線方面	四六
霧ヶ峰・美ヶ原・蓼科高原	四六
木曾谷附近	五四
三、スケート場案内	五九
松原湖	九
諏訪湖	九
蓼ヶ原	九
其他のスケート場	九
四、スキー用品一覧	三
五、雪質ミワツクス	三
六、スキー地案内一覧	六五
信越線方面	六五
北アルプス方面	七一
中央線方面	七三
伊那方面	七七
七、スケート場	七八



一、スキーと信州

スキーは國民的スポーツ

スキー術が北歐諸國から日本に傳來してから未だ三十年に足りないのに、其の發達は日本の國力の進展と同じ様に實に驚嘆すべきものがある。明治四十三年奧國のテオドル・フォン・レルヒ少佐が高田師團に軍事研究の爲め配屬せられたのを機會に、少佐が高田師團の將兵にツダスキーのアルバイン式スキー術を教授してから間もなく、北海道では北大の遠藤博士がノールウエー式スキー術を指導し、やがて雪に恵まれた本邦北方地區には激しい勢でスキー熱が昂まり、其技術の向上も年と共に躍進し、スポーツとしては既に國際的に北歐のスキー王國の鐵壁陣に迫らんとし、一面實用として一般に普及され、今日では吾々の冬の生活には缺くべからざるものとなりつゝある。

嚴寒肌を衝く雪中に、老弱男女何人でも容易に樂しめるスキーの醍醐味を一度味はつた人は、恐らく其の魅力から一生解放されないであらう。曾つてスキーを知らなかつた日本人は、冬を最も嫌惡し雪を樂しむ者は僅かに俳人か、人間に在る詩情の對照として歌に、繪畫に樂しまれた程度にしか過ぎなかつた。處が、スキーやスケー

トが傳はつてから、日本人は何人も冬を樂しめる様になつた。冬のスポーツは吾々日本人の生活を明るく、豊かにしたとも云へる。スキーが雪國で兒童の正課として採用されてから、兒童の體位は驚く程向上したと云ふ。新しい日本建設の基礎となるべき國民體位の向上が喧しく論議される秋、新興ウインター・スポーツによる心身の鍛錬は、必須の題目でなくてはならない。

スキーは贅澤でない

理想を云ふならば、日本人の凡てが冬季、スキーかスケートをやる事となれば、恐らく國民の體位は數年後に於て素破らしい向上を見る事とならう。然し本邦の如く國は狭少であつても、南北に長く、北は寒帯に近く、南は熱帯に近い状況にあつては冬の恩恵に浴する事が、北歐の夫れの如く容易でない。且つ其の裝備が他のスポーツの様に必ずしも簡單には行かない。殊に非常時局に當面してゐる今日、物資の酷しい統制を受けて裝備には若干の不自由さはある。附録には裝備の用品一覽表を掲出してあるが、之は必ずしもスキーを樂しむ一般の人々に全部必要なものと云ふ意味ではない。適當なゲレンデでスキーを樂しむ事だけならば、スキーと若干手を加へた

軍靴さへあれば充分である。事變前迄のスキーヤーの必要以上の派手な装備など、寧ろ當時既に識者の眉を擧めさせたものであつたが、時の流れは自然に此の弊風を整理して呉れるだらう。大都會からのスキー地への交通費・用具の準備など、一應相當の金額を要する様に思はれるが、大自然の魅力を充分に味はひつゝ、然も他のスポーツに見られない爽快さ、之によつて得る心身の鍛錬を思へば、此の消費額の決して高價でない事が誰にも領ける事である。殊にスキーと靴さへ調達すれば、一般のスキーヤーにとつては其手入如何で、殆ど半永久的に使用されるものである。

スキーの聖地上信越地方

さてスキーを何處で楽しむべきかであるか、吾々は大都會の人々に先づ之を推奨する建前から手前味噌の様ではあるが、上信越地方のスキー場を第一に挙げたい。殊に長野縣を中心とする地方は此處に喋々を要する迄もなく、本邦一の大高原地帯を爲し、中部山岳國立公園を主脈として、至る處絶好のスキー地を形成し、標高があるので雪質の條件は頗る良好、且つ往々處百箇所に近い温泉場が點々としてスキーヤーを待ち、施設も完備してゐる。東京・名古屋・大阪地方の大都會からの距離も亦近い。中央線からすれば、未曾御嶽を中心とする山鹿・蓑原・福島等の大スキー場。又蓑科・霧ヶ峯を中心とする

越大なる草原地帯、美ヶ原・鉢伏の北アルプス展望臺地、更に信越線筋よりすれば、淺間山麓より上信國境にかけて鹿澤・菅平への聖地。草津温泉よりすれば、餘りにも有名な志賀高原・野澤温泉・飯山より妙高山麓に至る大スキー場、若し夫れ北アルプスに至つては、乗鞍・白馬兩山麓の大斜面を基地としての冬山コースは、將に日本の誇りと云つてもよからう。其他大小數百のスキー場は、殆ど至る處に點綴されてゐる。實に此の地方こそスキーの聖域である。

其他スケイト場としては、有名な諏訪湖を初め、蓑ノ海・松原湖等著名なリンクが數多く散在してゐる。

近年スキーヤーの間に流行して來たスキー・ツアー・コースの豊富なる事、此地方の様に惠まれてゐる處も少ない。薄暮、銀盤に反映する夕陽の中を雪煙上げて滑降すれば、杜の彼方には既に湯煙の中を點々とする温泉街の灯が見える。此の世にも得難い法悦三昧境を味はれん事を切に人々に奨めたい。

以下漸次此地方の代表的スキー場を主とし、之にツアー・コースの案内を添へて紹介する事とした。

一、スキー地案内

信越線方面

菅平・鹿澤附近

鹿澤温泉 群馬縣吾妻郡 嬭懸村 (地圖上田)

淺間山の絶ゆることない噴煙を眺めやり乍ら、樹氷と粉雪に快哉を叫ぶことの出来るのが、この鹿澤一帯の有つ特色である。土地の人達は舊鹿澤温泉のことを山の湯と呼ぶ。春の芽吹時も良く秋深い頃も捨て難い。然し冬の鹿澤の雪に經驗を持つたことのある人には、他の季節より数段の魅惑を感じる。この地一帯は淺間山と四阿山との間に展げられた海拔一、五〇〇米の吾妻大高原であるため、日本海方面から吹いて來る濕氣を越後境に落したその餘りである。そのため水分の少ない乾雪で、恐らくは北海道の夫と同程度との評がある。降雪は平均一米内外であるが、三月上旬の多雪期には三米の積雪を見

る。一體に妙高山麓方面に比して好天に恵まれることが多い。

鹿澤の温泉は周圍を山に疊まれた狭い谷間に湯尻川の流に沿つて建つてゐる。附近の山は夏は牧場として使用するために樹木も少く風當りも烈しい。寒さも従つて強い故、スキーヤーは防寒具に意を拂はねばならない。

省營自動車の開通以來、交通は便となつた。近年菅平に壓された感はあるが、この持つ味はまた菅平と異なつたものがあり、スキーのユートピアたることに變りはない。

スキー・シーズンは十二月中旬より四月末迄可能である。

(交通)

田中驛八軒 横根八軒 鹿澤四軒 新鹿澤

上田 輕井澤 新鹿澤温泉 鹿澤温泉

(宿泊設備)

紅葉館 收容人員約二五〇名
二食付二圓・三食付二圓五〇錢

〔スキー・ツアー・コース〕

A 鹿澤―角間峠

鳥居峠へは鹿澤の温泉から夏道を牧場に沿ひ一時間程上れば右手に角間山を見る。風當りの強いためウインドブラストを呈してゐることも折々ある。峠より右の尾根沿ひに上信國境の雄大な鹿澤と菅平とをつなぐ縦走コースがある。以前は角間川に沿ひ眞田に降つたが、現在では鳥居峠への快適の滑降を試みる人が多し、然し風當りの強いためブラストを呈する所もあるが痛快なコースである。鹿澤よりこの路を来て頂上に向つて進めば、角間山(一、九八〇・八米)に達する。温泉からの半日行程として面白い遊び場である。山頂の眺望も湯ノ丸山、南方の三方ヶ峯同様、北アルプスの銀屏と菅平の雄大な景の上に四阿と彌岳、それに上信の山波が壯麗な展望となつて興へられる。角間峠から眞田への道は、密林中につけられたカーブの連続で幾多の難場もあるが雪質は良い。約二軒程の滑降で前面の展望も得られて、北アルプスの壁壁が望まれる。此の道は曲折の多いため、谷に墜落せぬ様な注意が要る。コースとしては一般向のものである。

B 地藏峠―鳥居峠

信越線田中驛下車、新張りまでバスを利用する。奈良原温泉を宿泊地とするもよいが、此の附近は積雪の少ないためスキーを揃へることは覺悟せねばならない。

湯ノ丸山(二、一〇九米) 鹿澤温泉から山頂迄は二、五時間乃至三時間にして達せられる。

登路は宿から夏道を角間峠へとり北側の尾根を登るもの、或は地藏峠より牧場添つて達するものと、練習場スロープから湯ノ丸山下の平原に達し、尾根の最も風の強く當らぬ箇所をデグデグに登るものとあるが、何れにしても頂上附近は強風のため、ウインドブラストしてゐるため注意を要するがアイゼンを穿けば楽になる。頂上の眺望は鹿澤の最たるもので、角間峠より素晴らしい、何等遮るものないアルプスの眺めは北は白馬より槍・穂高・乗鞍と白銀の峻嶺、信越國境の山、八ヶ嶽・蓼科・淺間と快哉を叫ぶ展望である。
三方ヶ峯(二、〇四〇・一米) 鹿澤附近の山は森林を多く持たぬ裸山が多いが、此山のみは頂上近くまで針・潤の混生林の林相を持つ。従つて陽光と風を遮断するためその影響も少なく、スキーに適したものと云へる。道は温泉より地藏峠へ出て左へと落葉松の植林中の防火線を登り切り、臺地状の明るい箇所に出、籠ノ登山との鞍部に出て、天然林の中を登れば頂上に立つ。頂上は樹はなく、氷雪と粉雪の交錯であるが、頂上直下の火口原への滑降と、籠ノ登山の鞍部目指してのシュブールを曳く快適さは印象的である。眺望も角間山・湯ノ丸山に劣るものではない。

山の鹿澤

正月頃でも四十番茶屋附近までは負ふことも多い。峠には小屋もあり、休息をとつてあとは湯ノ丸牧場の雪一色の原を牧場を右手に幾敷山の裾に沿つて進めば、鹿澤の宿が炊煙を見せる。宿は紅葉館一軒のみで、内湯もあり電燈も来てゐる。見透しのきく折は心配もないが、吹雪、又は日暮の折なぞ注意して行かぬと迷ひ易い。鹿澤は海拔の高いのと気温の低いため霧氷の麗しい藝術品が朝陽に光る、之は是非見るべきだ。鳥居峠へは角間山から大槍・小槍を経て滑降するもよからうし、前記の角間峠への道をとリ、奥和熊の小屋に向ふのもよい。奥和熊から鳥居峠までのコースは、多少の凸凹を有つ缺點はあるが、幅もあるため飛ばすことが出来る。鳥居峠より國境コースとして、菅平の四阿山と繋ぐのも推奨出来るが、之はむしろ四阿・鳥居の方が順である。

鳥居峠

鹿澤は新鹿澤に比して周囲の二千米級の山にスキーを持つてゆくのには良い根據地である。スキーに最も面白い山は三方ヶ峯・湯の丸山・角間山・鳥居峠(二、〇六五・六米) 風衝もあり、スキーのみに頼むのは無理で、頂上近く到つてはアイゼンが必要である。鹿澤の山々の展望臺としては絶好であるが、雪庇の危険も處によつてはある。

新鹿澤温泉 群馬縣吾妻郡 嬭懸村大字田代 (地圖上田)

新鹿澤の温泉は鹿澤温泉から角間山・鍋蓋山の山麓を繞つて北方の長野街道に向つて四軒の點に位置してゐる。温泉は鹿澤温泉から引湯したもので、高原に憧憬をもつ人の温泉地何れも共同湯であるが、鹿澤のみが内湯の設備がある。一、五〇〇米の海拔のあるため雪質にも恵まれ、附近の村上山を中心として廣大な恰好の練習場があり、此處を根據地として日歸りに登行出来る銀嶺が多い。初心者が近くの山に軽いツアーを試みようとするならば、交通の便と悪天候の折でも安心して宿に到達出来る點等から、新鹿澤は鹿澤より初心者向である。スキーシーズンには十二月下旬より三月下旬、宿舎も四軒あり、収容力も一、五〇〇名位ある。省管自動車の開通以來、交通至便である。

信越線 經由

上田 電三六分 眞田 電四五分 新鹿澤温泉
例年一月二十日迄省管バス運轉の豫定
信越線輕井澤經由
輕井澤 電二二時間 上州三原 省管バス四〇分 新鹿澤温泉
上越線澁川經由
澁川 省管バス三時間 新鹿澤温泉 (早朝・深夜の)

〔宿泊設備〕

旅館四軒・一、五〇〇人・二食付二圓以上・三食付二圓五〇錢以上・日歸り中食八〇錢以上
其他三軒・七〇人
案内人一日二圓五〇錢
田代に郵便局あり、電信・電話・一般通信事務を取扱ふ

〔スキー・ツアー・コース〕

名	稱	難易	行程	所要時間
日ノ丸	九車坂峠まで	一般	一〇軒	上り四時間 下り二時間半
奥和熊小屋	屋へ	同	四軒	上り一・五時間 下り〇・五時間
山ノ湯	（地藏峠へ至る）	同	九軒	上り二・五時間 下り一・五時間
四阿山	登高	中級	一一軒	上り四時間 下り一・五時間

備考 シールを要す。

草津スキー場 群馬縣吾妻郡 草津町 (地圖草津)

上野の草津に來り誰も聞かぬ湯採みの唄をきけばかなしも 牧水
牧水の短歌にその情緒を聞くまでもなく、草津は古より

〔スキー・ツアー・コース〕

- A 草津(一五時間) 香草温泉(二時間) 芳ヶ平(一五時間) 湯峠(四〇分) 横手山(三〇分) のぞき(四〇分) 熊の湯 丸池 上林温泉 湯田中 (志賀高原の項参照)
- B 草津 芳ヶ平 草津白根山 萬座温泉 萬座峠 五色温泉 山田温泉

菅平 長野縣小縣郡 長村菅平 (地圖須坂)

日本のダボスと謂ひ、シユワルト・ワルドと誇る菅平は、上田市の北方に位置する四阿火山・猫岳の裾に西方に展開された海拔一、四〇〇米・廣袤九〇九平方軒の大高原であり、白樺・落葉松の森に春は清楚な鈴蘭の匂ふ清浄な境地である。夏は七十度を越えず、暑さ知らずのためキャンパーの樂園となる。冬は白雪に覆はれ、又空中の過冷部の水滴が昇華現象を伴つて樹枝に氷結し、樹氷の壯觀を現出する、ここから仰ぐ北アルプスの銀屏風は素晴らしい大展望である。近年樹氷の間を縫ひ、銀盤に躍るスキーヤーの群が増加したことは驚く許りである。
菅平は一帯が主として柔い芝生をもつ牧場地帯であるから、涯しなきまでに横がる廣いスロープは、スキーヤ

知られた名湯であると共に、現在ではスキー場として、又はハイカーの憩ひ場所としてその繁榮を誇つてゐる。草津は海拔一、二〇〇米の高原で、西に白根山、北に湯峠が聳立し、岩菅・四阿・萬座と噴煙絶ゆることなき淺間山の諸山蜿蜒として圍繞し、東南は開潤なる高原に接し、遠く奥秩父の連山も、利根・日光の山岳も高原を劃す水平線に其の容姿を小さく現はす。

スキーは十二月下旬より三月下旬迄可能で一米内外の粉雪を有つ。寒氣は相當に厳しいだけに、雪は理想的なもので、その上練習場も周囲の山に豊富に絶好の地勢を形造つてゐる。途中の交通機關の不備さも補つて餘りある程の桃源郷である。主なる練習のためのスロープは△運動茶屋ゲレンデ(町の西端) 夜間スキー場△天狗山ゲレンデ(町の西端) △淺間山ゲレンデ(北端) △東公園附近ゲレンデ(東端) △殺生附近ゲレンデ(西方) 是等のスキー場の中には婦人・子供にも適し、順次は是等のスキー場を巡れば十軒乃至十五軒の興味あるコースが採れ、高原美と保健に恵まれた行樂は快味でさへある。

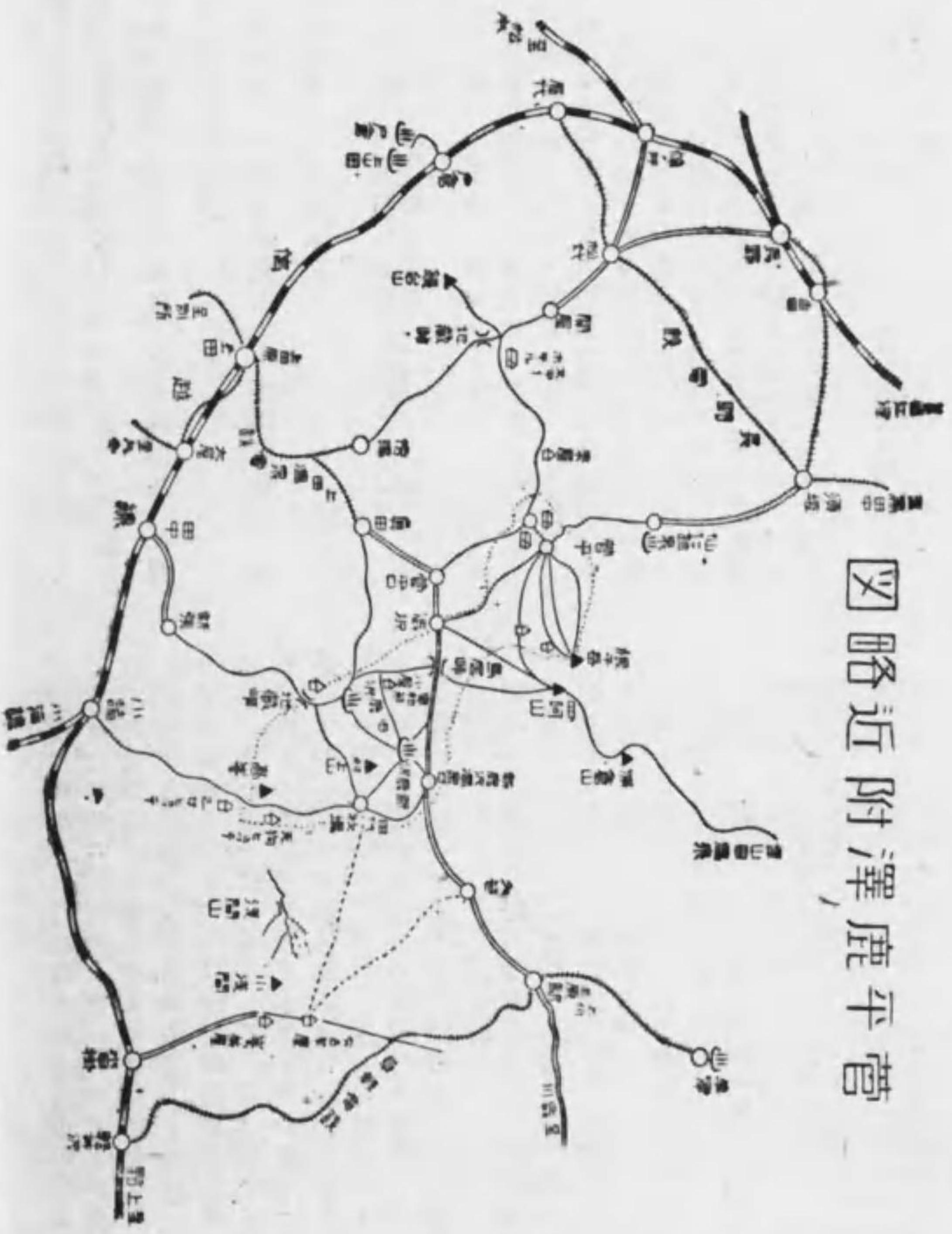
〔交通〕 輕井澤(草津) 二時間半 草津温泉 上越線澁川驛(省バス二時間四〇分) 草津 信越線上田驛(電三六分) 眞田(約二・五時間) 草津

1の頭に終生忘れ得ぬ程の印象を烙印することだらう。其處には何等の障害物もないスロープが處々に散在するのであるから、日本ダボスの稱も宜なる哉である。このダボスは四阿山(二、三三二・九米)と猫岳(二、一九五米)の有つ斜面である。四阿山は阿妻山とも書き、猫岳は根子岳、又は彌子岳とも稱してゐる。菅平を訪れる人達に、必ず一度は訪れて見るべき山である。四阿山は之に比して菅平、又は新鹿澤よりの距離の點が遠い恨みと、滑降の險しめるスロープの少ないことにも原因はあらうが、取つき悪い山であるが、その展望の大なることと、山のもつ豪快さに於ては四阿山に一日の長ありとの觀がある。

菅平は四阿・猫岳に登らずとも、各所各様のスロープと粉雪を長い期間に互つてあるため、初心者にも十二分に樂しめることが、菅平がスキーの聖地としてその名譽を恣にしてゐる所以である。

スキーシーズンは十二月下旬より三月末迄であるが、雪質及雪量は概ね次の通りである。

期	積雪量(糶)	雪質
自十二月下旬	三〇—七〇	軟雪
自一月下旬	七〇—一〇〇	乾粉雪
自二月中旬	一〇〇—一五〇	粉雪
自二月下旬		
自三月上旬		



菅平鹿澤附近略図

自三月中旬 一五〇〇—二〇〇〇
 至三月下旬 一七〇〇—二七〇〇
 〔交通〕 秋 深 潤 雪

〔宿泊設備〕
 上田 電道三六分 眞田 省営バス一五分 菅平 口 距離約一・二時 菅平
 上田 四〇 眞田 一五 菅平 口 上り 約一・二時 下り 約一・三時

旅館名	室数	収容人員	宿泊料	辨當料	日歸席料
菅平ホテル	二六	二〇〇	一泊二食二、〇〇〇、三〇	〇	〇
山の家	二二	一八〇	一、八〇〇	〇	〇
對岳荘	二六	一〇〇	二、五〇〇	〇	〇
正木旅館	二二	七五	二、〇〇〇	〇	〇
高原ホテル	一九	一八〇	二、〇〇〇	〇	〇
菅平	二二	二〇〇	二、〇〇〇	〇	〇
菅平	二〇	二〇〇	二、〇〇〇	〇	〇
長壽園	五	三〇	一、八〇〇	〇	〇
山樂荘	四	三〇	二、〇〇〇	〇	〇
北嶺牧場 休泊所	三	二〇	一、八〇〇	〇	〇
其他	四〇	二五〇	一、八〇〇—二、〇〇〇	〇	〇
民家 宿舎	三九軒	一、三四〇	一、八〇〇	〇	〇

貸スキー及靴 約二〇〇〇 一日に付四〇〇
 貸スキー靴 六〇〇
 案内人一日二圓 (菅平スキー倶楽部に申込みれば便宜を)

得られる。菅平郵便局にて電信・電話・一般郵便事務
 通信機關を取扱ふ。

四阿山 四阿山は猫岳に較べて稍兄貴分で高距にして百五十米の差であるが、シユカプラヤクラスト、又はプツシユ等の變化は冬山としては猫岳より本格的なものがある。それが四阿山の特徴ともなれば、一方大衆性のない因乏なしてゐる。

四阿山の登路は、菅平・溢澤・新鹿澤と猫岳より來るものとの大體四つのコースがある。新鹿澤への滑降路は稍快くない故歸路コースは菅平・溢澤の何れかに下ることが奨められる。

菅平より登るには何れの山もさうである様に出發は朝早い程よい。牧場の第二の柵附近迄は猫岳の登路と同じ路をとり、此處より右に轉じて牧場を横切り大明神澤に下り、渡つて白樺の樹氷に飾られた疎林を登る。頂上に近く地圖には崖の記號があるが大した心配も要らなく、白樺・樺の森を抜けて頂上である。溢澤から來るコースとは八合目附近で合する。頂上は風が強くウインドクラストをしてゐるのが常で、其處に祠が二つ雪に埋もれてゐる。眼下に田代池の水が綠色に雪中に光つてゐるのが見え、目を上げれば上信の二火山淺間・白根が噴煙をあげ、北に浦倉・土鍋・御飯と銀一色に輝く瀟々である。四阿山よりこの尾根を通過して山田温泉に至るスキーコ

イスがあるが、之は難行なものである故、餘り奨められないが、御飯岳鞍部にもヒユツテ建設の計畫が進捗してゐる。之が實現の曉には、このコースは菅平と志賀の雪の二大高原を結ぶ重要な動脈ともならう。

四阿山のコースの中、猫岳よりするものは一旦兩岳の鞍部に下るため勿體ないが、一舉菅平の二山を踏破出来るのが嬉しい。天氣の良い日は試みて良いコースである。

猫岳 菅平は日本のシニワルツ・ワルドであり、ダボスであるといふ。それは猫岳の奥く白銀の山腹を指して云つてゐるといつても過言であるまい。菅平へ来てスキー初年兵や山馴れぬ人は別として、誰しもが一度は足を印せしめたり、欲望を抱くのが猫岳の頂である。

猫岳の登路としては、文部省體育研究所前を通り牧棚に並行してその裾を登り、七合目附近の小屋に取付き頂上に登り、歸路は西側の尾根をダボスへと滑降にその痛快味を味ふのが普通である。高くへ上る度振返れば夢科・八ヶ岳の續きと、目前に煙をあげる淺間の姿が休容を次第に現して来る。岳樺の美しい樹氷が旭日に輝く様は目に沁み入る様な美しさ、雪は勿論の粉雪である。指導標もないが牧場内より八合目迄蜿蜒として續く牧場の土手が、一番良くリードして呉れる。七合目附近の避難小屋は雪の中である。頂上近くはシユカプラをなしてゐるが危険もない幅のある山稜を行つて頂上のお宮の前に

至る。兄貴分の四阿山には大明神澤を隔てて對し、妙高・飯綱・北アルプスの姿が馬鹿に印象的に目に躍り込む。八ヶ岳・鹿澤の山々が白い波の様だ。その中に淺間の姿が、煙と共に一段と忘れられぬ景色を造つて呉れる。

歸途は二、一二一メートルの隆起を目標に、猫岳特有のモンスターの間を抜けて滑り、あとは目の下のダボスに一氣に滑降すればよい。然し霧の深い折、吹雪の時は方向を誤らぬ様注意せねばならない。

(スキー・ツアー・コース)

- A 菅平(一五時間) 大明神澤(一時間) 一九一七峯(二時間) 四阿山——菅平
- B 菅平(三〇分) 牧場入口(二時間) 〇分 猫岳小屋(三〇分) 猫岳頂上——ダボス尾根——菅平
- C 澁澤(四五時間) 四阿山——菅平
- D 菅平(四〇分) 大松山(四五分) 西組(三〇分) 郡界尾根(三〇分) 大笹街道——菅平
- E 澁澤——四阿山——猫岳——裏ダボス——仙仁——須坂
- F 菅平——大笹街道——仙仁——須坂

スキーヤーが菅平へ行き、往復共に路を同じうするのは菅平を知らざる者と云へる。菅平から保基谷を越えて地蔵峠へ、四阿山を経て澁澤か鳥居峠・新鹿澤へ、或は須坂へ下る等、面白く變つた興味を持つてゐるコースが多い。菅平へ入るスキーヤーは、自己の技術に應じてコースを選択することをお奨めする。

須坂へ下るコースは、仙仁のバスの来る所までダウンヒルのみの滑降コースで、迷ふ心配は毛頭ない。大洞川沿ひの馬橋の道が、馬の排泄物と雪少なに惱まされる時があつても、この須坂口は菅平口に比して二・三割方多い積雪量のあるため條件は良い。

裏ダボスの外れに至る迄、銀色に輝く霧氷・樹氷の落葉松林を抜けて道に沿ひ、仙仁川の谷に臨みながら滑降を續け、山の神の茶屋を過ぎれば仙仁迄はあと四軒、仙仁から須坂迄はバスで約四〇分、須坂から志賀高原へ、野澤へと雪嶺への選擇は自由である。

(参考時間)

- 須坂(バス) 〇分 仙仁(一五時間) 菅平
- 菅平(六分) 山(一五時間) 仙仁(一〇分) 須坂
- G 菅平(四軒) 保基谷(一時間) 保基谷頂上(三軒) 鳴尾牧場
- 一時間 地蔵峠(一時間) 地蔵峠(一〇分) セキヤ(一五分) 松代
- 上信高原スキー場には左記の山小屋がある。

所在地	小屋名	番人の有無	備考
菅平 猫岳	根子岳小屋	なし	
菅平 四阿山麓	四阿山麓小屋	あり	
中央上信國境	奥和熊小屋	あり	
前上信國境	角間峠小屋	あり	休憩料を要す
高峯スキー場	地藏峠小屋	あり	
車坂峠	天狗小屋	あり	
	乙女小屋	あり	

長野・野澤・飯山附近

飯綱スキー場 (地圖長野・妙高山)

傳説と小鳥の種類の多いことで著名の戸隠山とその東の飯綱山は、その裾野に飯綱原・戸隠の盆地が發達して一帯に高原性を帯びてゐる。飯綱には沼澤多く、濕原植物が豊富で、春から秋にかけてハイキング、冬は雪野原となつてスキーヤーを悦ばせる。

晴れた日には善光寺平を眼下に、北アルプスを目前に得られる飯綱高原は餘り知られてはゐないが、附近に素

朴な山の人々の住む部落が点在して興趣を添へる。このスキー場へは長野善光寺裏から七曲り・荒安部落を経て約二時間にして到達する。スキー場には茶店もあり、番人も在任してゐる。スロープの主なるものは入坂附近と奥に一軒許り入つて大平附近とある。大平には山小屋とヒュッテがあり、シャントウエの設けもある。飯繩スキー場よりは俳人一茶の生誕地柏原にも出るも、妙高山麓の笹ヶ峯スキー場に出てそこで遊ぶのも一興である。

柏原へは大座法師池畔の茶屋の前を通り、緩い坂を上り切ると眺望のよい一ノ鳥居へ出、次で大久保の部落に着く。寶光社・中社の部落に至れば、戸隠神社の神官の家が部落の大部を占めて、宿泊もさせて呉れる。中社では一茶の句にある「信濃では月と佛とおらが蕎麥」と自慢した蕎麥に味覺を樂しむもいふ。そこより戸隠街道を北に念佛池を通り、黒姫山麓の鳥居川畔大橋に出て、此處で笹ヶ峯に行くコースと岐れる。これよりは川に沿ひ夏道に滑降をつゞけ、やがて部落に出て柏原驛が見えるが、一杯清水から長原のスキー滑降は、雪質の良い時は柏原驛まで一氣に滑り込むことが出来る。

〔交通〕
 長野 四軒 荒安 三軒 入坂 二軒 大平
 長野 一五軒 鉦子口 五軒 寶光社 一軒 中社
 長野 バス 一時間 鉦子口 バス 三〇分 寶光社 二〇分

地蔵峠 埴科郡豊榮村(地圖長野・須坂)

川中島の戦で名高い海津城と、維新の先覺者象山を生んだ松代町より約八軒、海拔一、〇〇〇米の高原に展望佳き地蔵峠を占め、犀・千曲の二大長流と、武田・上杉兩雄の雌雄を争つた古戰場を北方眼下に俯瞰し、善光寺平を距てては戸隠・飯繩・黒姫・妙高を前衛とし、其の背後に白馬を北端とする日本アルプスの銀嶺を一陣のもとに收めることが出来る。

初心者より熟達者迄に適する各種各様のスロープの變化を備へてゐる。積雪量は最大一米程であるが、一帯の草原地であるため決して危険はない。期間は一月―三月中旬迄。

〔交通〕

A 信越線篠ノ井驛(バス)松代(バス)セキヤ(徒歩)地蔵峠
 B 信越線犀代驛(長野電鐵)松代驛(バス)黄バス本社(バス)セキヤ(徒歩)地蔵峠

C 黄バス長野車庫―松代―セキヤ
 A (スキー・ツアー・コース)
 菅平―地蔵峠縦走尾根コース
 菅平と史蹟の松代とを結ぶ青年徒歩旅行コースが、冬季はスキーの聖地菅平へ至る爽快なスキーコースとな

〔宿泊設備〕

大平ヒュッテ・收容一五〇名・一泊一圓五〇錢以上
 寶光社・中社宿坊・收容千名・

〔スキー・ツアー・コース〕

A 大平 三時間 飯繩頂上 三時間 瑪瑙山 二時間 怪無山 三時間 中社
 B 中社 六時間 大橋 七時間 大洞峯 二時間 巢鷹山 三時間 笹ヶ峯
 大橋 一時間 杉ノ澤 四時間 池ノ平
 (大橋 四時間 杉ノ澤 四時間 池ノ平)

飯繩附近略図



保基谷岳頂上の展望は最も雄大で、銀屏の南・北アルプスから、遠くは富士、眉を接して四阿山・猫岳・淺間の展望を擅にすることが出来る。コースには五〇〇米毎に指導標を備へ、スキーヤーに便してゐる。

菅平 四時間 保基谷口(菅平) 一時間 保基谷岳頂上 一時間 鳴尾牧場 一時間 地蔵峠下 三時間 地蔵峠口(赤柴) 一時間

B 鏡臺山行六キロ日帰り尾根コース

月に名を譲られた鏡臺山の尾根傳ひのコースで、初心者でも樂しめる。往復六―七時間を要し、北アルプスの全貌を専らにする事を得る。指導標の設備はないが、防火線を進むためにコースを誤ることはない。

〔宿泊設備〕

地蔵峠ホテル(ヒュッテ形式)・收容力五〇名・料金一泊二食付九〇錢
 民家(スキー場より一・五軒)三軒・收容力二五名

野 澤 下高井郡往郷村(地圖飯山)

信越線豊野驛から飯山鐵道により千曲川を渡り東すること約三軒にして參差たる杉の樹間より、白く湯氣の立昇る野澤温泉がある。信越國境に近い裏日本式深雪地帯で、降雪は三―四米にも達し、信州隨一の積雪地で、飯

山同様に降雪は十二月中旬より四月迄に及ぶ。

毛無山(一、六四九米)・大次郎山(一、六六二米)・水尾山(一、〇四二米)等の山を繞らせる野澤は、西方のみ潤然と開けて大スロープを展開し、冬期はスキーヤーの雲集するスキー場となる。殊に野澤ジャンプを中心にして全日本選手権大会や、明治神宮競技学生選手権等の大会も行はれる。他方に於ては初心者スキーヤーの講習會も催される。

野澤温泉はその温泉もよいし、質朴な都會化されない田舎町の醸し出す情景もいゝが、何としても冬の野澤は数多いスロープが到る處に點在して、初心者から熟達者迄が一樣に雪に親しめるところにある。

日影スキー場 温泉より東北に約十五分で、スキー相談所も開設して便宜を圖るし初心者向で、A・B・Cの練習場に分れ理想的のものである。賣店の設けも數軒ありスキー場情緒もある。

左上にユートピア・スロープがあり、その上手に雪の王者シユナイダーの残した熟練者向きのシユナイダー・スロープがある。之より二軒登ればスキー・パラダイスとも稱すべき上ノ原の高原である。ここに來て初めて野澤のスキーの眞價が味はれたと云ふべきで、見渡す限り續く雪原に、針葉樹や生ひ茂る白樺の樹氷をつける間を、千二百米の高原地帯に縱横無盡に滑り廻ることは實に痛快である。野澤の展望臺である毛無山は温泉よ

飯山 下水内郡 (地圖飯山・妙高山)

飯山は千曲川に沿つた所謂谷街道の二萬石の舊城下で、高田と共に我國に最も早くからスキー地として名聲があつた。スキー場は町より西方に當る一帯の山地で、神明岳・長峯・坊主山・大聖寺山の好スロープを持つてゐる。飯山は妙高山麓と共に日本に於ける屈指の多雪地方であるため、スキーシーズンも長く、十二月の中旬より四月迄は積雪を見る。

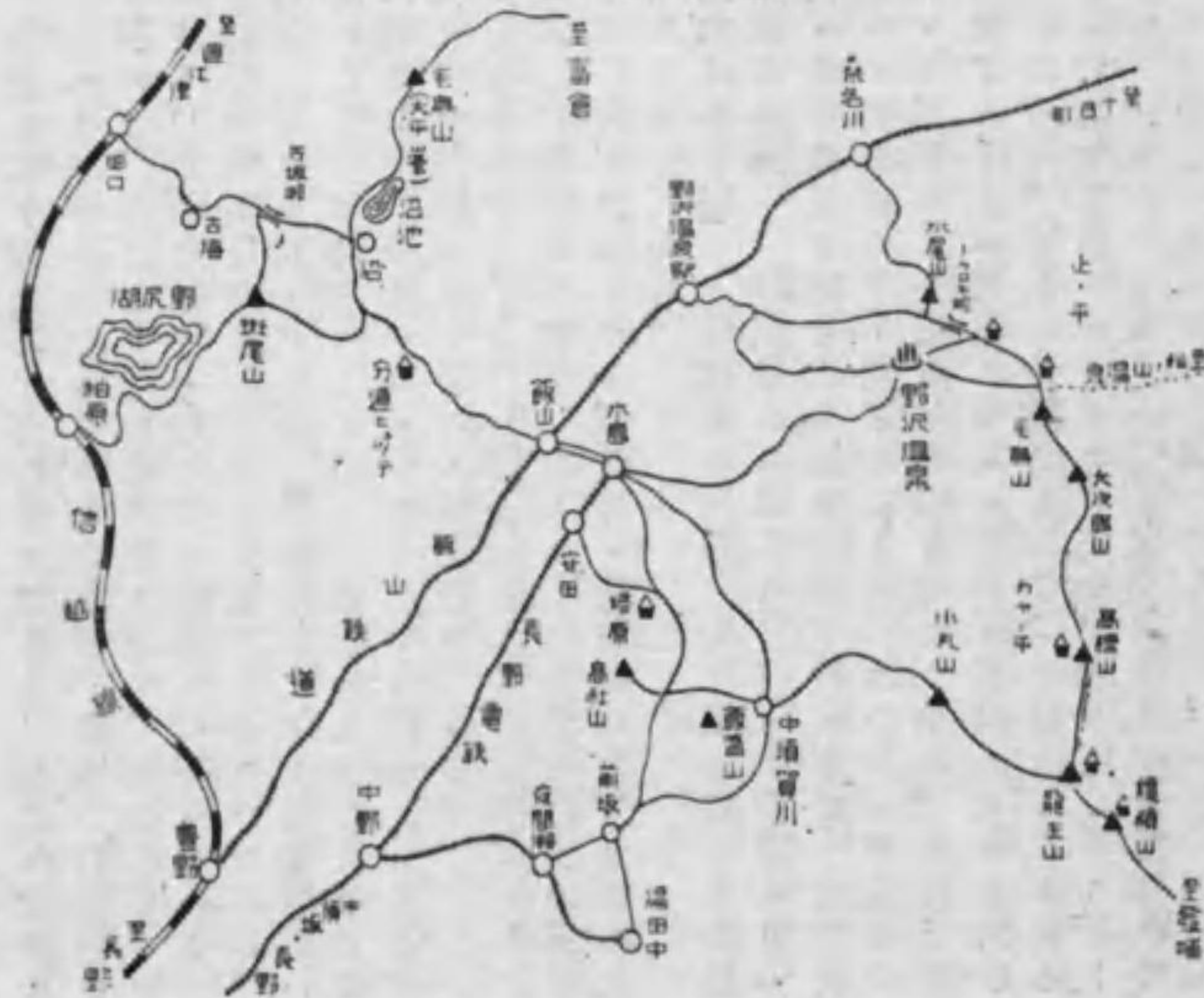
スキーコースとして優秀なものに奈良澤・十六平・坊主山を經て牛ヶ首から大平のスロープに出て、奈良澤に下る軽い一日行程のものや、町の北端より藤木・硫黄・大川を過り沼ノ池を坊主山まで下るのがあり、之は完全に滑降欲を満足させてくれる。(妙高の項参照)

飯山より分道ヒユツテ・沼を經て萬坂峠を越え妙高山麓田口に出るコースや、町より千曲川を渡り高井富士の稱ある高社山の西北麓木鳥スキー場(長野電鐵安田、又は木鳥より約四軒)を通り、高社山を東に捲いて飯盛山との鞍部にあれば夜間滑スキー場で、長野電鐵夜間滑に約二軒にして出ることを得る。

〔交通〕 信越線野澤乗換、飯山鐵道飯山驛下車。

〔宿泊設備〕 飯山町内五軒・收容二〇〇名・一泊一圓八〇錢以上

野澤温泉附近略圖



り六軒、上ノ原小屋より一時間半の行程で、この山腹の北側の斜面から上ノ原への滑降は實に豪華で、近代感覺を満喫出来る。毛無山附近は東北に苗場山や上越國境の山稜を望み、西に北アルプスから妙高・戸隠・飯繩山、又は信越國境の連嶺等を望んで雄大である。附近のコースにはいづれも指導標が建てられて、迷ふ心配はない。

温泉には旅館(宿料二圓五〇錢以上)も多く、收容人員二千名に達し、各スキー場の設備もよく、上ノ平には上ノ平ヒユツテ(收容二〇人・料金一圓五〇錢以上)・上ノ平食堂(二軒)あり、ユートピア・スロープ(食堂一軒)及第一スキー場に食堂(六軒)の設がある。

〔スキー・ツアー・コース〕

A 野澤温泉——毛無山——高標山——龍王山——發咄

温泉(志賀高原・發咄より野澤温泉の項参照)

B 野澤温泉——上ノ平——宮ノ原——山伏峠——松之山温泉

〔交通〕

飯山鐵道野澤温泉驛(バス三五) 野澤温泉(冬季は徒歩) 長野電鐵 木鳥 驛(バス五)

志賀高原

志賀高原 下高井郡平穩村

(地圖中野・岩菅山・苗場山・飯山・須坂・草津)

上信越の三國國境に跨り、その面積數十方里と稱される廣大な國際スキー場志賀高原は、他スキー場に見られない地相を具備してゐるために、日本屈指の山岳スキー場として銀盤の王座を占めてゐる。嘗て來朝のノールウエーのヘルゼット中尉は「東洋のサンモリツ、」であると言賞されたが、志賀高原は諸所に限りなく湧く温泉を有してゐるだけに、サンモリツより優れてゐやう。志賀高原は山岳・溪谷・湖沼・原野・森林美を展列した雄大秀麗の大自然境で、多量の積雪と乾粉雪はスキーヤーにとつては最大の喜悅であり、ツアー、山岳スキーの殿堂で、スキーに親しむ者は必ず一度は訪れて、白一色の野に山に雪煙を浴びて亂舞する日を持つべきである。志賀高原へは信越線長野、又は屋代驛より長野電車で一時間、湯田中驛下車、バスにて上林温泉の終點まで至り、ここよりスキーを穿いて上りにかゝる。初心者向き十二潭のスキー場を通して波坂の九十九折の坂を登り切れば坊平で、休憩小屋もあり、シャランツエの設もある。

な起伏に富み志賀高原のセンターである。柔かい木肌の白樺の林と、勤々とした樅の巨木に飾られる露のかゝつた朝などは、樹氷が銀絲とまがふ許りに美しく輝く。附近には清楚な丸池ヒユツテと豪華な志賀高原温泉ホテルとが、鴨の群れ遊ぶ不凍の丸池を俯瞰して聳えてゐる。此處を根據にして琵琶湖畔の旭山、北に延せば池尻と變化あるスロープを到る處に求めることが出来る。沓打茶屋・坊平・波坂と一氣に滑り下れば、上林温泉迄六軒の道を十分足らずで到達出来る。

熊の湯附近 丸池から善光寺平やアルプスの展望を樂しみつつ、志賀ヒユツテや相當に廣い平床の原に出る。この原は吹雪の折は注意しないと方角を誤り易い程の廣さと平坦さをもつてゐる。ここを越えたと右手下に熊の湯を見出す。約二時間である。この温泉は維新の偉人佐久間象山先生に發見された由緒深い温泉であるが、湯は温い。

熊の湯は周圍に二千米級の山岳を繞らし、興味ある無限のスキーコースを放射状に展いてゐる。パウダースノーと樹氷の間を縫つて畫く壯大なステムボーゲンが實現出来る。此處より横手山・笠ヶ岳・志賀山・白根山へのルートは最も魅惑をそよめるもので、草津温泉へのコースは痛快な一日のスキーの旅がエンヂョイ出来るが、是等のコースは何れも山馴れた人へのみすゝめたい。熊の湯で三時間の暇の得られた時には、鉢山登山を試

る。山道を五丁程進めれば沓打茶屋があり、振返れば白馬から南へと延びた北アルプスの銀嶺が、壯麗な繪巻物をくり展げる。ここより旭山の山腹を廻り、丸池のヒユツテに着く、丸池は發哨・熊の湯・草津への要衝である。志賀高原の風貌はこのあたりより瞭如たるものがある。志賀高原は東京・名古屋・阪神何れよりも比較的近い距離にあり、短時間にして美しい高原的風景と展望と温泉に恵まれて、ウインター・スポーツの聖地として菅平と共に、上信越スキー場の人氣を奪つてゐる。

尙長池池畔(丸池・熊の湯間)に日本醫科大學ヒユツテが竣工し、醫務室を設け、山スキーに關する醫學的研究をする一方、スキーヤーの負傷・病氣等の救急處置に遺憾なきを期してゐる。

上林スキー場 信越線屋代驛、又は長野驛より長野電線に乗換へ、終點湯田中驛下車、バスにて湯田中・安代・湯の温泉を通り上林温泉下車、約五丁にして志賀高原への路波坂の下に開けてゐる十二潭の初心者向きの好スロープがあり平穩温泉郷に近いため賑ふ。此處では遠く北アルプスの連嶺と妙高・黒姫・飯綱の三山を望むことが出来る。附近に休憩所もあり、中食もしたゝめられる。尙志賀高原スキークラブでは、本年度このスキー場にポップスレー・コース(千五百米)のものを製作中であるが、新しい興味を惹き起すであらう。

丸池附近 丸池は海拔千五百米の高所にあり、裕かみて見るのも山の良さが味はえて面白い。近年、熊の湯旅館の外に瀟洒で山の氣分満點な鐵道省の山の家が、熊の湯と程遠からぬ箇所に建てられて、訪れるスキーヤーを満悦せしめてゐる。

夏道は丸池の手前より右折し、角間川に沿つて幕岩の下を通り、石ノ湯山莊を眼下に緩い道を上つて進んでゐるが、冬は幕岩附近が雪崩の危険もあるため、避けて前記のコースを辿ることが普通である。

發哨温泉 丸池から東北へ五軒・海拔一、六〇〇米、温泉の湧出量頗る多い。發哨は志賀高原に於て熊の湯・丸池と並んでの中心地である。横湯川を前にして、遠くに北アルプスを浮べて薬師ノ湯と天狗ノ湯の二軒の宿がある。丸池から大沼池へのコースに沿つて約五百米進むと、谷を隔てて發哨温泉を望む。之より横湯川の川岸に建する迄約三軒、キツクターンを繰り返す。川を越えて河原小屋があり、ここで旭山の裾を廻つて琵琶池の北岸に出る道と合する。小屋より宿迄は通稱蟻坂と稱する急阪で、一時間許りの登りとなる。此處のスキーとして著名なものに岩菅山登山と、高社山麓への十軒の滑降と、それに野澤温泉へ通ずる豪快なコースがある。

發哨附近のスロープとしては、東館山と西館山との鞍部通稱高天ヶ原で、宿よりは約五丁、樺・樺・白樺等を交つた森林で蔽はれ、熊の湯あたりには得難い静寂境を作り出してゐる。西館山は開闊な展望に恵まれ、殊に夕

映の一時はエクスタシイに浸らされる。西館山・東館山の林間滑走も愉快ではあるが、焼額山から尾根を辿る林間滑走は、最も推奨出来る快適コースである。

山田温泉附近 温泉で知られた山田温泉は、冬はスキー場としてスキーヤーの根拠地となる。志賀高原の南口に當り、海拔一、〇〇〇米の高地である。雪質も極めて良く、山田温泉スキー場は宿より約五丁、周囲に白樺の樹林を繞してゐる。面積は廣くはないが、緩急のステップを有して練習向である。其他日蔭山・田子池・山神等のスロープもあり、廻遊するに都合がよい。十二月下旬より三月末まで滑れる。

山田温泉は一方山スキーの發着地点として重要な地位を占めて、志賀高原に、萬座に、白根に、上州草津や、名も懐かし菅平に、縦横行くとして可ならざるなき四通八達のスキー・コースを有してゐる。山田は上信の心臓で、行く人も歸る人も、憩ふによいスキーヤーの港とも謂へる。中でも、

- A 山田——笠岳——熊ノ湯——丸池——上林
- B 山田——山田峠——上林
- C 山田——御飯岳——小串嶺山——四阿山——菅平
- D 山田——五色——七味——落葉松平——萬座——白根山——草津

研究・宣傳・施設されて来たために、滑峠越即志賀高原の観は失はれて来たが、依然として悦ばれてゐる。それは横手山の展望が素敵であるのと、粉雪上の滑走が他に一寸比類を見ないものがあるためである。「スキーヤーの一度は越えて見る峠」である様だ。このコースの逆を草津より来るものも多い。何れにするも良い滑降コースがあるためである。熊ノ湯よりぞきへ湯坂の登りに、縦の林を縫つてかゝるコースには、櫓を組んだ指導標と他に之を補ふ指導標もあつて、草津まで導いてくれる。

前面に雪白な横手山(二、三〇四・九米)の輝く姿が招く。笠ヶ岳の姿も下で見たものと變つて来る。のぞきは横手山から西方に延びて俗に松尾根と謂ふ支稜と峠道との交叉点である。この箇所より横手山腹のトラバースとなる。所謂横ツリで強風のためクラストしてゐる時も多く、雪庇の出でゐる時は雪崩の注意せねばならぬ。熊ノ湯よりのぞき迄一時間乃至一時間半の行程で北と頸城の兩アルプスは勿論、眼前に悠然と噴煙を上げる白根と淺間、懐かしい菅平や鹿潭の山々、このあたり目に入るものは……と陶然たるものがある。小屋はのぞきより稍熊ノ湯寄りに建てられてゐる。のぞきより頂上迄は切開きの急登である。頂上は廣洞で樹氷の群像も一異觀であり、景色のよいこと勿論である。若しスキーを志賀高原に入れたならば、一度は

E 山田——彌峯——御飯岳北鞍部——黒湯山——萬座峠——萬座

のコースは推奨に價する。

〔交通〕 長野電鐵須坂驛バス三〇分山田温泉

〔宿泊施設〕

旅館名	客室数	収容人員	料金(泊二食)	備考
山田館	三〇	一五〇	二圓三〇錢以上	乾燥室・ピンポンの設備あり
湯本	四〇	二〇〇	〃	乾燥室・ピンポンの設備あり
藤井	三〇	一五〇	〃	〃
風景館	四〇	二〇〇	〃	〃
北信館	三〇	一五〇	〃	〃
やま小	二〇	一〇〇	〃	〃
伊賀屋	一〇	五〇	〃	〃
笠ヶ岳ヒュッテ	一	二〇	一圓二〇錢	燃料のみ公徳販賣をなす

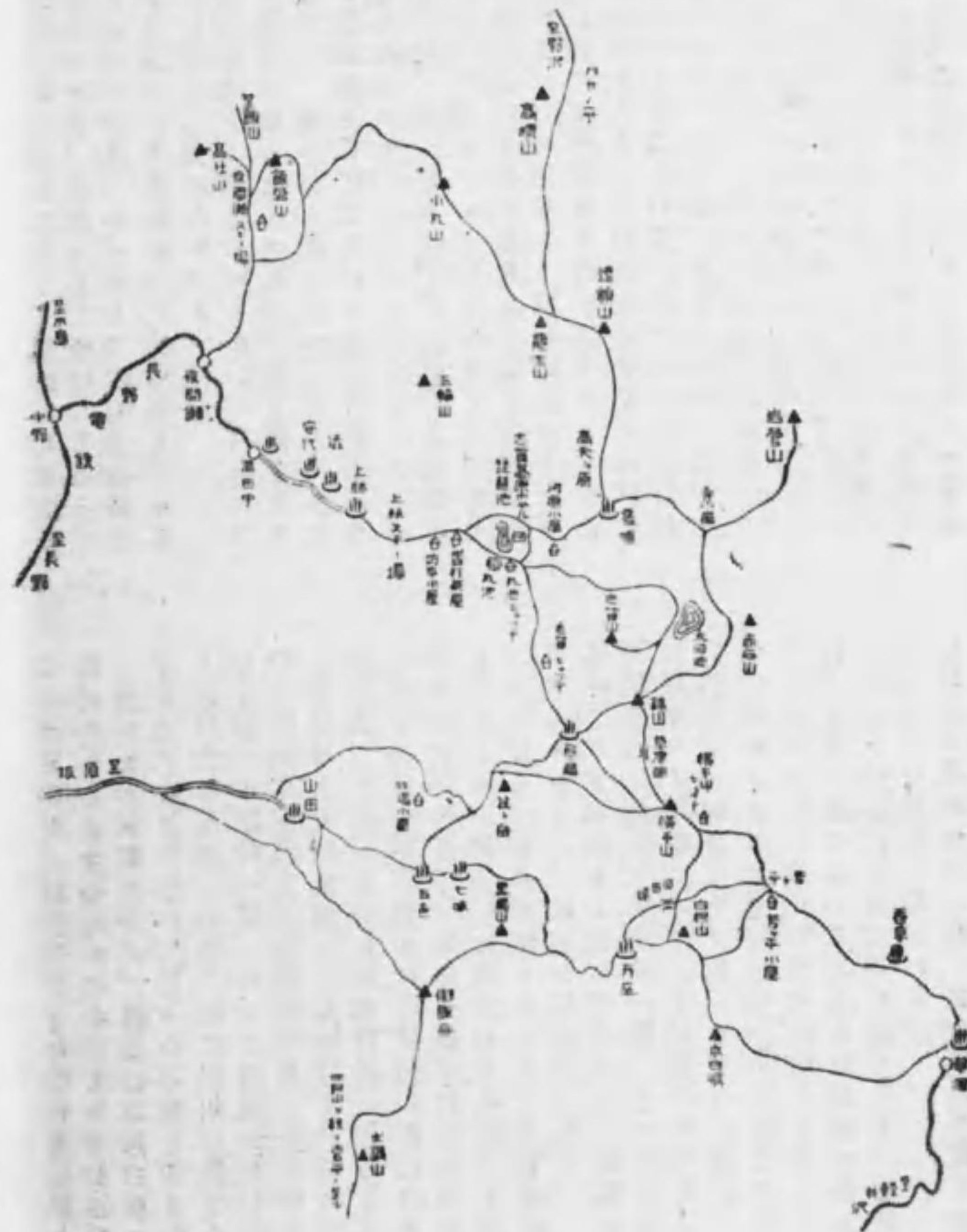
A (スキー・ツアー・コース) 熊ノ湯—草津 國境を越えて山の湯へのツアーは、この志賀高原で一番の交通量を持つてゐるやう。近頃は種々のコースが

登るべき山だ、例へばツアアは行はないにしろ。滑峠(二、二七五米)には小屋もあり宿泊出来る。海拔も多いため眺望もある。附近は草津白根の噴火のため木が立木のまゝ枯れて寥々たる感を惹き起す。ここより南に走る尾根に沿ひ、西に松川の溪谷を見つゝ井戸山を廻り山田峠へ出、峠より白根山を右に見て南に約一軒で萬座温泉と白根への道が分岐する。白根山へは山田峠より廣漠とした山稜で、枯れん／＼した木の間を縫つて滑る異つた快感は得られるもの、到る處噴煙をあげて居るために、吹雪の折は方角を誤り易く相當な苦勞も要る。草津へは小殺生の小屋を経て下山してもいい。萬座へは前記の分岐点より西へ約一軒の下りで達し、宿泊の便もあるし、志賀高原のスキー・ツアー・コースの重要な據点でもある。

滑峠より立木のまゝ枯れてゐる廣い尾根を東に、その夏道を南に廻り込んで約一軒、芳ヶ平である。芳ヶ平には中央大學のヒュッテも建設されてゐる。芳ヶ平は白根山から吹き下ろす風をまともに受けて風衝は強い。芳ヶ平よりの道は白根火山と越えて来た横手山の間に流を作る大澤川の流域の中を曲折して下る。常布瀨の附近は崖になつてゐるため注意が要るもの、この附近より次第に下流は谷も廣くなり、谷澤原の潤然と展くところ香草温泉がある。

香草より草津へは三軒、途中蟻の戸渡りを経る頃は湯

志賀高原附近略図



の香りもかなしい草津の街がある。芳ヶ平より草津迄は雪さへよければ一時間で到達出来る。

〔参考時間〕

上林温泉 登六軒 丸池 登六軒 熊ノ湯 登六軒 芳ヶ平 登六軒
 草津温泉 登八軒 芳ヶ平 登三軒 湯ヶ峠 登三軒 熊ノ湯 登四軒 丸池 登六軒
 上林温泉 登六軒 丸池 登六軒 熊ノ湯 登六軒 湯ヶ峠 登三軒 芳ヶ平 登六軒

B

熊ノ湯より笠ヶ岳鞍部迄は登り、白樺・樺等の巨木の森林の中を行くが、他は殆んど下りといつて良い。然し笠ヶ岳の鞍部より山田牧場への二軒は、辛い處もある。指導標も巨木の幹に数多く附けられてあつて、苦勞も要らない。山田温泉への降り口より、笠ヶ岳頂上へは約三・四十分のアルバイトで、上部に至る程急斜であると共に、岩石がゴロ／＼して来る。風衝も獨立した頂を成すだけあつて強い。従つてクラストをしてゐるためスキーは脱がされる。展望としては北アの連峯はもとより、猫・四阿の菅平の山は手を伸ばせば觸れん位に近い。淺間・白根の噴煙も望めば、横手山の委も眉を接して聳える。

鞍部へ下りて笠ヶ岳の嶺の延びる腹を捲いて下れば、前方下に展開した原が見える。之が山田牧場であるが之に下らず、牧場を下に見たまゝに依然尾根の中腹を捲

いて、中倉山の腹を北西に向けて滑降を二軒續ければ谷川沿ひの林道に出る。之を降つて山田温泉に出る。温泉からはバスが長野電鐵の須坂驛まで、約四〇分にして達する。

〔参考時間〕

熊ノ湯 登五軒 笠ヶ岳 登二軒 山田温泉 登二軒 須坂驛
 熊ノ湯 登二軒 笠ヶ岳 登二軒 山田温泉 登二軒 須坂驛

C

熊ノ湯に滞在して遊ぶ山は、横手と鉢山と笠である。中でも鉢山はその頂上に摺鉢形の小さな噴火口を有つ愛嬌ものの山である。噴火口は冬季間は凍結するため、周囲から底を目がけて滑り降りることと、榎・白樺・樺・白檜等の森林を滑り廻ることはお伽の國に遊ぶ思ひがする。

熊ノ湯より「のぞき」へのコースを約一軒、草津峠と湯峠との分岐點に達し、左折して潭の左岸を緩い傾斜で登る。進路を稍横手山寄りに行き、急斜面を登り切れれば頂上である。頂上より東北へと赤石山へ延びた尾根を行き、途中で志賀山への鞍部へ下ると、眼下に夏季は湯原状を示す四十八池ノ平が見え、鳥居の雪を被つた姿が見える。志賀山の裾を東へ林間を進めば、大沼池の明るい湖面が眼前に現れる。池から流れ出る横湯川に沿つて、狭い道を降つて榛の木平に出る。川を左に渡つて夏道へ出、清水平の小屋を見る。ここよ

り半軒程で急坂を下れば、發咄を右背後にして蓮池を
經て丸池に出る。

〔參考時間〕

丸池登六軒 三時間大沼池登三軒 一時間志賀山登四軒 一時間熊ノ湯
熊ノ湯登四軒 二時間志賀山登三軒 三十分大沼池登六軒 一時間丸池

D 岩菅山 登行

岩菅山に登るには大沼池の北側の榛ノ木平より左の尾
根を傳はり寺小屋に出るものと、一方發咄温泉から登
り寺小屋で合する二つの登路が考へられる。發咄より
は蟻坂の連續を約五〇〇米も登れば、高天ヶ原と謂は
れる發咄温泉に浴する人達の遊び場所である。榎・樺・
白樺と林を成してゐる處に出る。この高天ヶ原の東側
の尾根、所謂東館山を登り切れば一、二五米の寺小
屋の峯で頂が二つある。岩菅のは東北に延びた尾根の
樺・榎の茂つた間を縫つて岩菅の肩に出る。この尾根
には小山が多く、雪庇が難魚川側から來る風のため
魚野川の側に階段状に生成してゐるため、相當なアル
バイトは覺悟せねばならぬ。

岩菅の頂は難魚川迄密林に蔽はれてゐるので、黑白二
様の染分を呈して聳立してゐる様は、流石に志賀高原
第一の高峯であると首肯出來る。肩近くに至つてはス
キーをアイゼンに代つて頂上に向ふ。頂上の大展望は
絶稱に値するもので、滙てしない日本海の波の上にか

ら夢の佐渡島が浮び、芙蓉の峯も遠くその姿を現はす
といふわけで、南北アルプスは勿論双陣の内であり、
信仰の山御嶽の靈峯も端然たる容を見せる。歸途は往
路をとり、寺小屋よりの尾根を滑降して高天ヶ原で仙
人になつた心算で遊び、温泉によつて汗を流すこと
は、スキーヤーならではの味はれぬ處である。

〔參考時間〕

發咄温泉登六軒 三時間寺小屋頂上登六軒 三時間岩菅山登三軒 一時間（歸りは逆戻
り）

E 發咄より燒額・夜間瀨に

發咄はスキーヤーの憩ひの湯である。夜は遙か下の善
光寺平に懐しい灯がまたよく、切れる様な朝は霧水・
樹木の輝きで明ける。發咄はスキー根據地としてふさ
はしい。

發咄より燒額の頂に出て、龍王の尾根を飽きる程の滑
降をもつる事は、發咄より野澤に通ずるコースと共
に推すことの出來るものである。季節は春先の頃が最
もよいが、距離のあるために山馴れた人へのみ試みて
頂きたい。

發咄を早く發つて夏道を少し登り、茫漠たる高天ヶ原
の尾根に出る。小さな鳥居が人待ち姿である。西館よ
りその麓を小さくからんで、燒額の山頂へと長い尾根
を辿つて北に進む。緩い登りで榎や樺・榎・白樺自然

林の巨木に囲まれたコースで、樹木が殊の外綺麗に咲
く。目を放せば難魚川の谷を越えて、岩菅山の尾根と
一際高く裾から山頂が望まれる。燒額の頂上附近に至
れば展望愈々開けて、志賀高原が一望の下に整理され
て見え、北アルプスの各峯が一々指摘出來る程であ
る。山頂は三方林に囲まれて、西方のみ展けて居り、
そこに雪中に埋まり、平らな面を作つてゐる池があ
る。春から秋へかけての頃は、池畔に白樺・榎の古木
と可憐な植物に囲まれた、幽邃な境地を作り出してゐ
る。頂上より龍王の鞍部迄雄大な眺めを得る。針葉樹
林の間を痛快な滑降をして、平坦な龍王の頂上に出
る。（ここには指導標に頂上とあるが、三角點は西南
にあり一、九〇〇米である。）此處で野澤へのコースと目
指す夜間瀨へのコースが分岐する。道を左にとつて林
間を抜け切れば、眞白な見渡すあたり樹立もない原に
シールハイルの滑降を一本試みる。全く龍王山と小丸山
（一、四〇三米）の山稜こそ、スキーヤーには隨喜の涙
の出る滑降である。雪質も良く遮る何者もない、た
だ一箇所ギヤツプがあり、ここはスキーを脱いで渡る
が危険もない。小丸山から麓の須賀川の部落へは任意
の尾根、又は谷を下ればよいが、滑降に未練のある人
は飯盛山と高社山の鞍部へ出て、此處より夜間瀨のス
キー場を一氣に縦断して、積雪のコンディションさへ
よければ驛前迄スキーが穿ける。

〔參考時間〕

丸池登六軒 三時間發咄温泉登五軒 二時間燒額山登一軒 一時間高社山頂ス
キー場登三軒 三十分夜間瀨（又は湯田中）

F 發咄より野澤温泉へ

發咄より野澤温泉迄二九軒・登り一一軒・下り一七軒。
平地一軒の行程である。このコースは前述の發咄・
夜間瀨コースの龍王山の頂までコースを同じうする。
龍王より針葉樹の林を縫つて高標山を目指して下る。
此のあたりは發咄野澤コース中の最難所ともいへ
る。それだけに熟練者の技の見せ處である。密林を滑
り抜けて、遮るものない高原とも見えるところを飛
ばせば、下に熱平小屋を見、高標山の澤、ドブ平に
出れば高標山への登りで、樹林を緩く抜ければ高標山
の指導標に出る。

高標山は發咄・野澤間の略中央で、指導標を見失はず
カヤノ平の頂に出、カヤノ平の避難小屋を目ざして滑
り込む。無人小屋ではあるが、薪の用意はある。

之から無樹地帯の緩い登りと平坦な地帯の連續が稍暫
くの間あり、一、六七五・八米、城藏山東の三角點に着
く。樹林に滑降を繰り返して大次郎山三角點西方を村
界沿ひに通過する頃は毛無山は近く、ここで最後の登
り青木坂の急傾斜にかゝる。長いコースを來たものに
はなか／＼のアルバイトである。毛無山はこの附近

第一の高峯で、頂上に於ける展望は實に素晴らしいものがある。東方には天を限つて志賀高原の横手・岩菅山・烏帽子・苗場の諸山と上越の山崎、西には妙高・里姫・戸隠の三山を初め、戸隠・北アルプスの諸峯があり、頸城アルプスを越えて紺碧の海の上に、唄の國佐渡が青黛を引く。毛無山から針・潤の混森林の中を雪上に技術を楽しみながら、小毛無に下れば茫漠たる上ノ原の高原で、快適なスピードで雪煙を上げればカンバの小屋に達し、一本杉のスロープ、日影の茶屋を経て野澤温泉に達する。

龍王山には前記二コース利用のスキーヤーのために、四間に四間半の避難所が地元の間瀬スキークラブの手により建設され、寝具・薪炭の用意もあるため、スキーヤーの利便を増加するものと悦ばれてゐる。

〔参考時間〕

G 發咄温泉——鏡嶺山(登降七軒カヤノ平)大次郎山
 登降三軒(登降三軒)野澤温泉
 熊ノ湯——横手山——横手山ヒユツテ(登降六軒)萬座温泉
 泉(登降八軒)御飯岳(登降三軒)山田(又は牧)

苗場山 信州と越後の境に特徴ある山嶺を示し、山上の温泉やお花畑と、それに加へて展望の佳きで知られる苗場山は、冬は又素晴らしいスキー場となる。利用

する登路が主として越後側にあるため、越後の山の感が深い。

夏季は信州側の小赤澤や上の原口より登ることも出来るが、冬季の積雪期に於ては、越後の湯澤に下車、三俣口を這ぶのが最良であらう。道は夏道を辿つて芝原峠やきついハチマキ峠を越えて外ノ川小屋を足場とする。更に上の方に慈恵堂大のヒユツテがあるが、之は學校の許可が要る。神樂ヶ峯(二、〇三〇米)迄は緩い登りで、スキーはこの神樂ヶ峯と苗場山の鞍部のお花畑迄使へるが、これからはアイゼンの舞臺で、スノーリッジの箇所もある。頂上の一帯見渡す限りの雪の大沙漠でその展望は絶佳、上越國の仙ノ倉の一帯と、眼前の岩菅山の景観は凄いのがある。

若し志賀高原の發咄温泉を出て、岩菅山・烏帽子を通過して北に向つた尾根を下り、魚野川・難魚川の合流點切明部落に出て、信州側より苗場山頂に行く信越を結ぶコースも痛快であるが、たゞ一箇所岩菅・烏帽子間の岩場が、冬季は通過を拒否してゐるため、開通されてゐない。勿論たとへ通る様になつたとしても、エキスパートのみの領域ではあるが。

苗場の下山は神樂ヶ峯より飯川にかけて、梅林の間を雪煙をあげての粉雪のシュプールが一番の歴史である。芝原峠あたりからも鼻唄交りで湯澤へと飛ばせる。

〔参考時間〕

龍王山 避難所 龍王山	賞 費
湯田中・温泉	三、〇〇〇・二、〇〇〇以上
湯田中・温泉	三、〇〇〇・二、〇〇〇以上

高社山麓スキー場(夜間瀬スキー場) 下高井郡 夜間瀬村

(地圖中野・岩菅山)

高井富士の麗名を負ふ高社山は、その東に位する飯盛山との山裾を南へ擴がつたスキー場で、初心者・中級者向の好スロープを持つてゐる。高社山の山頂に立つことも容易である。積雪は十二月下旬より三月初旬までスキーが出来来る。此處より木鳥へ出るツアーカーは到着所に興味ある傾斜がある。スキー場へは長野電鐵終點湯田中下車、四軒・一時間、又は夜間瀬より二軒・四〇分程にして達する。宿泊、又は休憩に便して、高社ヒユツテがある。

信越線
 長野驛 湯田中(一時間) 高社山麓(二時間) 木鳥スキー場
 屋代驛 湯田中(一時間) 高社山麓(二時間) 木鳥スキー場
 長野驛 湯田中(一時間) 高社山麓(二時間) 木鳥スキー場
 長野電鐵 湯田中(一時間) 高社山麓(二時間) 木鳥スキー場
 長野驛 湯田中(一時間) 高社山麓(二時間) 木鳥スキー場
 高社ヒユツテ 収容五〇・一泊二食一圓五〇錢

旅館名	所在地	収容人員	宿泊料(一泊二食)
上林温泉	上林温泉	六〇〇	上林ホテル三、五〇〇以上
丸池ヒユツテ	丸池	二〇〇	其他二、五〇〇以上
琵琶池ヒユツテ	池	四〇〇	二、〇〇〇以上
志賀高原ホテル	ク	二五〇	スキーヤー・ペツド三圓以上。朝食・夜三圓。晝三圓。ピスト料一割。
志賀ヒユツテ	木戸池	七〇	一、〇〇〇以上
石ノ湯山莊	岩	五〇	二、〇〇〇以上
熊ノ湯	熊ノ湯	二〇〇	二、〇〇〇以上
鐵道省山ノ家	熊ノ湯	四〇	{一、五〇〇(宿泊のみ五〇〇錢)}
横手山ヒユツテ	横手山	六〇	一、〇〇〇以上
萬座温泉	萬座温泉	八〇〇	二、〇〇〇以上
發咄温泉	發咄温泉	三三〇	二、〇〇〇以上

湯澤驛(二時間)八木澤(一、五時間)鉢巻峠(一時間)外ノ川小屋(二、五時間) 慈大ヒユツテ(二、五時間) 神樂峯(二時間) 山頂(一時間) 鞍部(三、五分) 慈大ヒユツテ(三、五分) 外ノ川小屋——湯澤

妙高高原

妙高高原 新潟縣中頸城郡 香山村 (地圖妙高山)

東洋サンモリツとして其の名を譲られる妙高山麓は、本邦スキーの中心地信越國境に巍然と聳立する二、五〇〇米の峻峯妙高山を中心とした、千變萬化に富む理想的な大スキー場である。

妙高火山群、即ち頸城アルプス一帯の地域は、スキー適地として早くより發達し、妙高山麓に點在する關・燕・赤倉・池ノ平・妙高等の諸温泉を根據地として、毎冬多數のスキーヤーをその廣大な雪の裾野に集めてゐる。近頃この妙高高原は國際スキー場として登場、赤倉には巨費を投じて赤倉觀光ホテルが、妙高の靈山を背景に建設されて、近代色を漲らしてゐる。

さり乍ら、スキーヤーの氾濫する岳麓の温泉地帯を離れ山岳にその身を入れれば、寂莫な中に崇峻な冬の山岳美に接することが出来る。妙高高原が上・中・初心者と各層のスキーヤーを吸集出来る原因の一つでもある。

主峯妙高は勿論のこと、前山・赤倉山・大藏山・神奈山と山稜を劃し、黒澤・火打・燒山と續く。その堂々たる

連嶺は、スキーヤーにあらゆる點に於て滿悦を與へることであらう。

妙高は廣漠たる高原を持ち、之に吾國でも稀な深雪の地方である。積雪は南方より北寄りに多い。スキーは十月中旬より四月中旬迄はスキー可能である。

妙高温泉スキー場 田口驛より六〇〇米、十五分にして越後富士妙高の持つ豊富な温泉郷、妙高温泉に到達出来、この附近に大天井・三澤・毛祝坂・殿下スロップ・第二スキー場に初心者向のゲレンデがあり、殿下スロップにはジャムプ臺の設備がある。池ノ平の一本松ゲレンデにも近く、又袴岳のゲレンデにも短時間にして達し、ここでは山岳スキーの妙味を味はふことが出来る。此處より黒姫山・長範山・袴岳・斑尾山等の峻嶺を眺めやり乍ら、他方關川に臨んで風光にも秀れてゐる。夏季は避暑に適する。温泉は單純硫化水素泉で、皮膚病・濕疹等に効果がある。

池ノ平スキー場 妙高温泉から妙高の裾を飾る白樺林を登り、海拔約七百米、妙高山東麓に展開する大裾野の上に池ノ平温泉は位してゐる。田口驛より約四軒、温泉より妙高頂上迄は一軒の行程である。冬季は一帯スキー場として好適で、茅場・一本松・三ツ澤などのスキー場がある。一本松ゲレンデはスキー場として至つて大衆的で、眺望も大きく、茅場の大スロップ(別名シユナイダー・スロップ)は豪快な滑降を味はふことが出

来る斜面を有つ。茅場には縣營ヒュッテがあり、一本松には休憩所・シャントツエの設備がある。

赤倉温泉スキー場 田口驛より五軒で、冬季は驛前より赤倉ホテル御自慢のスノーカーが通じ、極の便もある。妙高西北に放射狀に展開する一面のスキー場である。附近に至る所スキーに好適で、久通宮別邸附近を始め、大小幾多のゲレンデは初・中・上級者いづれにも適し、大谷ヒュッテ附近では山岳スキーの醍醐味を與へて呉れる。十二月下旬より三月末迄滑ることが出来る。赤倉より關見峠を越えて燕温泉へのツアーは、變化に富み興味深い。

赤倉は北方に頸城平野の遠く展開するのを望み、他三方は信越國境の峻峯たる妙高・黒姫・飯綱の三山を初め、斑尾・袴等の諸岳を圍らして居り明鏡野尻湖は其の間に姿を浮上がらせて見える。避暑にも好適の地で此處には赤倉觀光ホテルを始め、數多い旅館がその豊富な湧出量誇る温泉を備へてゐる。

新赤倉温泉スキー場 田口驛より西北二軒半、赤倉温泉へ行く途中の新興の温泉である。上部の赤倉温泉より引湯して誕生したもので、冬季はスキー場の根據地となる。佐渡見山・稻荷山兩ゲレンデは雄大にして變化に富み、國際觀光ホテル附近のスロップと結び合せる時は、その壯大さを誇ることが出来る。西南は妙高・黒姫・飯綱・戸隠の翠巒に圍まれ、東北は遠く開けて上越

の原野を俯瞰し、遠くに洋々たる日本海を望み、上に詩の佐渡ヶ島を一眸の中に收め、展望開闊な高原である。

觀光ホテルスロップ 國際スキー場妙高高原の眺望絶佳の地にあり、赤倉觀光ホテル前面に展開する優秀な大スロップは、多くのスキーマンにも喜ばれる。新赤倉ゲレンデと結んだ滑降は快適である。

關温泉スキー場 妙高北腹湯川に臨み、三方に山嶺を繞らし、東方には越後平野が開き、遙かに日本海の靑波も一眸に、盛夏の候も涼しく絶好の避暑地である。關山驛より西南六軒半、五月より十一月迄はバスがあり、冬季は極が通ずる。温泉は食鹽含有炭酸鐵泉で湧出量も多く、附近の風景と俟つて、療養を目的とする人も多い。

スキー場としての關温泉は、緩急自在の練習場に富み、且つ一、〇〇〇米の高原と多量なる雪に見舞はれるために、好天日數の少なきを恨みとするが、他所に雪飢饉の聲をきく年に於てもその心配は更でない。關スキー場は本邦最古の歴史を有し、スキーテクニツクに於ては斯界の最高權威として關一派を形成して居り、現在でも學生の利用者が多い。

燕温泉スキー場 燕温泉は關温泉より更に約二軒、赤倉温泉より約四軒の行程で、妙高・神奈の山懷にある。附近には瀧が多く、その名を稱名・光明・惣等と呼ばれる。新緑、又は盛夏の避暑もさることながら、神奈

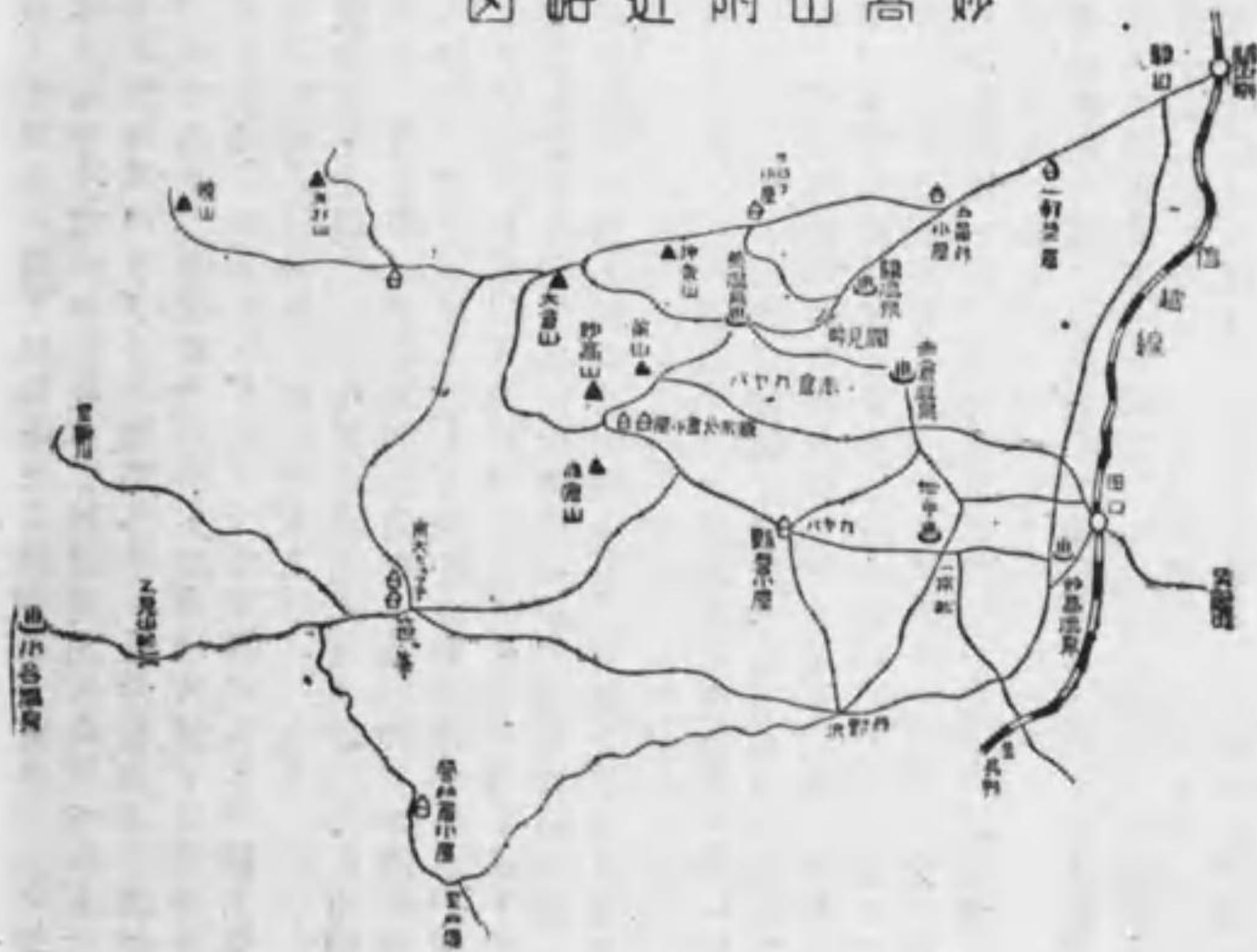
山の紅葉の美は稱へられる處である。冬期は山岳スキーヤーの活躍舞臺で、妙高・神奈への絶好の根據地で、雪質及積雪量共に恵まれ、林間滑走も楽しめる。

宿舎は削つたやうな断崖上に在り、そこに湧出する温泉はスキーヤーにとつては憩ひの泉である。

笹ヶ峯スキー場 新らしい妙高山麓のスキー場笹ヶ峯は、周圍を繞る妙高・火打・焼山・高妻山・黒姫山等二、〇〇〇米級の山頂登攀の根據地として、絶好の位置を占むるものであり、之を行ふことによつて此の地の價値が發揮されるのである。牧場を中心としての山小屋の生活にも、至極好適の場所であるが、西方の乙見山峠を越えて小谷温泉から白馬山麓へ、或は神奈山を越えて、關の温泉に浸るもよく、佐渡山・黒姫山のコルを越えて、雪の戸隠・飯綱の原に出るのも良い。最近京都帝大が此處にヒュッテを建設して活躍してゐるが、一般には牧場の事務所が開放されて悦ばれてゐる。笹ヶ峯は寒氣も厳しいが、それだけに素晴らしい粉雪を期待することが出来る。惜むらくは、その交通不便の點が缺點として挙げられるが、その缺點を償つて餘る程のスキーの理想郷である。

笹ヶ峯へは田口驛にて下車、關川の部落を過ぎ田口より二時間餘にして杉野澤の部落に入る。池の峯の上りを越せば牧場も近い。田口より雪のコンディションにもよ

妙高山附近略図



るが六・七時間を要する。
〔スキー・ツアー・コース〕

A 田口關山コース

このツアー・コースは、妙高原横断コースとして、高原の代表的温泉を巡ることが出来る特長がある。田口驛下車、一本松ゲレンデを通り、池ノ平温泉へ出て妙高々原を横切つて赤倉温泉に行く。赤倉も展望に恵まれた上に初心者向のスロープが多い。赤倉を中心としたツアー・コースは、關見峠から熊堂山・ホーズキ平のコースは簡單であるが楽しめる。關見峠附近に至れば、前方に神奈・火打山・日本海を眺め、背後に上越國境淺間・四阿・猫の諸岳が肩を並べて連なるのを見る。關温泉より關山迄の滑降は、本コースに於ける白眉である。

〔参考時間〕

- 田口驛 登六〇分 妙高温泉 登二軒 池ノ平温泉 登三軒 赤倉温泉 登一五五分 軒 關見峠 登一〇分 軒 燕温泉 登一〇分 軒 關山 登一〇分 軒 關山 登一〇分 軒

B 田口飯山コース

妙高岳麓のスキー場にあつて正面に緩いスロープを諸所に波うたせる袴岳の容姿を眺めれば、誰しもがその山頂の展望を想ふであらう、大なるを期待するであらう。この期待にそむかず、それは豫期通りに山嶺は素

晴らしく、且印象深い。足下に萬物皆白き中に、碧い眼とも見える野尻湖の静寂、北方天空を高く限つて妙高・戸隠を盟主とする頸城連嶺、南に悠久たる雲を示す淺間やスキーの聖地志賀高原の峯々を仰ぐ。田口より袴岳を越え、飯山へのコースは確かに白眉と稱すべきものである。道は沼より分岐して、パウダー・スノーの毛無山(大平峯一、〇四二米)を究めて、往年の沼池坊主山までのヘルベチヤ大滑降コースを、シユブールを残して滑降するか、富倉へ出て富倉峠を経て飯山にも愉しめる。

〔参考時間〕

- 田口驛 登二〇分 軒 袴岳 登一五五分 軒 万坂峠 登二軒 沼池 登一〇分 軒 飯山 登一〇分 軒 豊野 登一〇分 軒

C 笹ヶ峯小谷温泉コース

このコースは別記(小谷温泉の項)コースの逆になるわけで、小谷温泉より乙見山峠を越えて來るのが順である故、その方を参照して頂くこととする。

〔参考時間〕

- 中土驛 登二軒 小谷温泉(泊) 登四軒 乙見峠 登一五五分 軒 笹ヶ峯 登二軒 池ノ平温泉 登二〇分 軒 妙高温泉 登一〇分 軒 田口驛

D 初歩者のためのツアークコース

〔A〕田口—袴岳—田口
袴岳の山頂は眺望絶佳、コースの變化もあり、興味が
あり、且つ袴岳頂には練習も出来るスロープもある。

〔B〕田口—池ノ平温泉—田口
途中妙高温泉附近に練習場(殿下・大天井・三澤等)
あり、池ノ平温泉には一本松や茅場の大スロープが
ある。

〔C〕池ノ平温泉 登二・五軒一時間
茅場縣管ヒユツテ 登三・五軒
新二・五分 觀光ホテル

〔参考時間〕

田口驛 登二・五分 袴岳(頂上) 登三・五分 田口驛
田口驛 登六・〇〇 妙高温泉 登二・五分 池ノ平温泉 登三・五分 赤
倉温泉 登四・〇〇 田口驛

E 頸城山塊登山路

〔A〕妙高山
一 赤倉温泉—櫻坂—瀧谷—ブナ平—笹平
—南地獄谷大谷ヒユツテ—天狗堂—妙高頂上
—瀧谷—觀光ホテル—山ノ神スロープ—赤

〔C〕燒山

笹ヶ峯牧場—眞川—柳の茶屋—御殿場—燒
山頂上

〔D〕天狗原山

一 小谷温泉—松尾川橋—天狗原山
二 小谷温泉—大海澤—繁倉尾根—金山—天
狗原山—藥師岳—乙見山峠—小谷温泉

〔交通〕

場名	スキー	距離	時間	車馬賃
妙高温泉	田口驛	〇・六	一・五	馬力道一人ニ付 五〇
池ノ平温泉	田口驛	二・六	五・五	八〇—一〇〇
赤倉温泉	田口驛	五・〇	一・二〇	二・六〇—三・〇〇
新赤倉温泉	田口驛	三・〇	一・〇〇	三・〇〇—三・六〇
關山温泉	關山驛	六・五	二・〇〇	六〇—八〇
燕温泉	田口驛	八・〇	二・五〇	二・六〇—三・〇〇
笹ヶ峯	田口驛	一三・六	四・三〇	—

倉温泉

- 二 赤倉—天狗堂—前山—馬背—觀光ホテル
- 赤倉温泉
- 三 池ノ平温泉—茅場縣管ヒユツテ—白瀧上—
大谷ヒユツテ—天狗堂—頂上
- 四 關山温泉—關見峠—丸山—前山—天狗堂—
妙高山頂
- 五 燕温泉—前山—天狗堂—頂上
- 六 笹ヶ峯牧場—高谷池—黒澤池—大倉山—
大正池—妙高山
- 〔B〕火打山
- 一 赤倉、又は池ノ平温泉—大谷ヒユツテ—天狗
堂—大正池—三田原山—大倉山—黒澤池—
高谷池—火打山
- 二 關山温泉—クロフ小屋—神奈山—大倉山—
黒澤池—高谷池—火打山
- 三 笹ヶ峯—黒澤山—高谷池—火打山

〔宿泊設備〕

- 妙高温泉 收容人員 料金(一泊二食) 一、七五〇 二、〇〇より五、〇〇
妙高ホテル外七、スキー場へ五分、スキー場に土産
四軒あり。
- 赤倉温泉 1,000
- 赤倉觀光ホテル外九、スキー場賣店・食堂數十。
- 池ノ平温泉 1,800
- 妙高關外七、スキー場賣店・食堂數十。
- 新赤倉温泉 710
- ときは莊外四。
- 燕温泉 700 一、八〇より
- 明治屋外七。
- 關山温泉 1,000
- 越前屋外十。
- 赤倉大谷ヒユツテ 20 實費
- 乾燥室あり。
- 池ノ平縣管ヒユツテ 10 一、五〇
- 乾燥室あり。
- 笹ヶ峯岡長小屋 30
- 笹ヶ峯牧場、乾燥室あり、使用者は中頸城郡杉野澤
村岡田長助に一週間前に申込のこと。
- 加藤小屋
- 笹ヶ峯牧場、使用者は加藤裕宛一週間前に申込のこ

と。
ク ロ フ 小 舎 一泊〇、七〇
神奈山東方中腹クログ尾根、寝具・燃料・食料備付あり。
笹ヶ峯スキー小屋 一泊
笹ヶ峯牧場、使用者は岡田長助宛一週間前に申込のこと。

北アルプス方面

乗鞍岳附近

乗鞍岳 南安曇郡 安曇村 (地圖乗鞍岳・高山)

北アルプスの南端に、端麗な曲線を畫いて聳える乗鞍は、盛夏の頃は頂附近に點在する碧潭と、お花畑によつて絢爛さを造り出すが、冬は一變して岩大な白銀のスキーの殿堂となる。頂近く展開する高原は、北の白馬と共に北アルプスのブレイクランドとして、大衆的な魅力を一驚いでゐる。北アルプス三、〇〇〇米級の山で、技術

を要さずに登れる山は乗鞍を以て外にはない。それだけに一般大衆のスキー登山界に於ける最高峯である。殊に鈴蘭小屋・冷泉小屋・乗鞍スキー小屋・肩ノ小屋等登山小屋の増設により、スキー登山・スキー練習として、その開發は目覚しきものがあり、今や乗鞍岳はスキー練習場の觀さへ呈して來てゐるが、山の危険は是等施設により全然解消されたものではない。山は輕視すべきではなく、十二分なる用意が必要である。
乗鞍岳登攀は冷泉小屋か、又は乗鞍スキー小屋、若しくは更に上つて肩ノ小屋あたりを根據地として、好天を見て頂上往復を志すのであれば、強て案内人は夏の地形を心得てゐる人にとつては要しないかも知れぬ。然し乍ら飛驒の平湯や或は大尾根を通つて飛驒へと山越しを試みる人にとつては、案内人の同行をお奨めしなければならぬ。乗鞍は頂附近に於ては特に平坦な地貌をなしてゐる爲吹雪の折など迷ひ易いから注意すべきである。
又頂上登攀を試みる人は、アイゼンが肩ノ小屋より上は其領分である爲必要でもあるし、平湯へ行くには大丹生岳あたりでステップを切る要があるので、ピッケルを携行した方がよい。勿論シールの携行は云ふ迄もない。
乗鞍は三、〇二六米の高山である。冬期は寒氣も風當りも激しい故、準備は心しなければならぬ。十二月中旬から滑れる乗鞍も十二月・一月頃人の雜踏する頃は、アルプス特有の吹雪の日が多いが、三・四月の頃は好天

の日が多く、頂上を極め又ツアーを試みるのに都合がよい。極寒の折のスキーの快味は男性的であるが、春山のスキーに背にほのかに陽の暖かさを感ずる頃の乗鞍は明るく愉しい。

乗鞍岳

積雪期の乗鞍に登山するには、交通・案内人・施設・物資等の諸點より、大野川が最も便利である。松本より松本電鐵に乗換へ烏々着、バスに乗り約一時間にして前川渡に至る。冬間に於てもバスは普通前川渡迄通じ、雪の少い折は小型自動車は大野川部落迄通ずるを得る。大野川部落には福島屋(乗鞍肩・鈴蘭小屋經營)と乗鞍名物の筒木音彌老人(冷泉小屋經營)が住んで居り、山の相談にのつて呉れる。大野川より番所へ緩い登りを約五十分、番所部落を通る。番所には乗鞍スキー小屋の持主菊屋がある。雪のある折は大野川からスキーは穿ける。鈴蘭小屋は金山平にあり、附近に恰好の練習場もある。乗鞍の嶺が此處に至ると大分近い。小屋より上原尾根へかけて少し登り、それより此のコース第一の峻坂鳥居尾根にかゝる。鳥居尾根を越える頃から森林帯に入る。筑摩山脈の山が望まれるのも暫時、指尋標に沿ひ二階建の冷泉小屋に達する。鳥居尾根より冷泉小屋迄は森林中を通過するので、相當強い吹雪の日でも森林の揺ぐ怒濤の音を聞くのみで、雪に對しては安全にスキーを進めることが出来るし、森林中には樹幹に丸い赤い指導板が吊

され行手を指示してゐる。冷泉小屋は筒木老人の經營で、三方を森林に圍繞され、一方が開けて淺間・其他の山が浮び、鈴蘭小屋は遙に下である。乗鞍スキー小屋は約一〇〇米許り上の森林中にある。

冷泉小屋から二時間で肩ノ小屋に着くが、途中位ヶ原の涯しなきまでに續く雪の原を通る。雪は北海道のそれと同じであると云はれる乗鞍に仰ぐ穂高や南アルプス・木曾駒・富士の銀の連峰は壓倒される迄に凄い。肩ノ小屋は雪の中に尾根だけ出してゐる。小屋でアイゼンに穿きかへて頂上に登れば、足の下は氷である。

小屋より略一時間のアルバイトで頂上に立つ。その展望は今迄の苦闘を露ほども思はぬ程に消し飛んで、歡喜が之に代る。厩大な白山、瑞麗な薬師・御嶽・笠・槍・穂高と、高さを競つて目に躍り込む。

肩ノ小屋より下りては快の一字に盡きる。痛快無比の滑降が、雪のある限り續く。

乗鞍には位ヶ原から鈴蘭小屋に下るダウン・ヒル・レースと、回轉競技が毎年三月末の土・日の兩日に互つて開かれて、知事杯・其他の優勝杯の爭奪戦が春雪を蹴立てて行はれる。

〔參考時間〕

松本 四十分
前川渡 三十分
大野川 一時間
番所 一時間
鈴蘭小屋 二時間
冷泉小屋 二時間
肩ノ小屋 上り一時間 下り

〔宿泊設備〕
一泊用 肩ノ小屋

小屋名	收容人員	宿 料	晝食辨當
鈴蘭小屋	九〇人	一四八〇錢	三〇錢より 七〇錢まで
冷泉小屋	一〇〇人	二四〇〇錢	〃
スキー小屋	九〇人	二四〇〇錢	〃
肩ノ小屋	夏季八〇人 冬季三〇〇人	二四二〇錢	〃

番人は鈴蘭小屋は四季常住、冷泉・肩ノ小屋は登山盛季以外は小屋を開放し使用料を申受ける場合と、鈴蘭より番人同行する場合と有り、鈴蘭・冷泉・肩ノ小屋又は案内人・其他に關しては、大野川福島清毅・筒木普彌宛照會すれば便宜が得られる。

〔スキー・ツアー・コース〕

A 冷泉小屋―白骨温泉
乗鞍の歸途を往路と同様に番所・大野川ととるならば格別のことはないが、路を換へて白骨温泉へ下ることも出来る。然しこの途中雪崩の危険も春先きの折は生ずるから、相當注意を要する。コースに就ての知識を得ることも必要だが、案内人を伴ふのが得策である。道は冷泉小屋より東北に、北海道の林の様に感ずる針葉樹の林を横断して湯峯(二、〇一四米)の尾根を越え、この山稜の

乗鞍岳附近略図



東北面を縫つて滑降し、湯川の流に沿つて下るのである。乗鞍の嶺から飛驒の平湯へ下るコースと、白骨に通ずる此コースは雪質に變化も少く、雪煙をあげてくれるので非常に愉快である。白骨は評判の通りなにかいゝ湯である。冬は番人も在住してゐる。ユツクリ湯に浸り、小梨平に遊んだ末槍峠を越え

て澤渡へ出るも、大野川、又は前川渡に滑降を樂しみ乍ら降つてもよいし、或は澤渡迄出て上高地へ足を向けるか、或は前川渡迄下ればバスの便がある。

B 冷泉小屋―鶴ヶ池乗越―里見ヶ原―平湯温泉

このコースは案内人を伴ふを要する。アイゼン・ピッケルの携行をお奨めする。冷泉を出て肩へのルートをとリ、途中より鶴ヶ池乗越えとスキーを進める。尾根附近では雪のクラストを成してゐることもある故、アイゼンを用意すると良い。鶴ヶ池は勿論積雪の下である。

この附近より桔梗ヶ原にかけては、霧、又は雪の折は迷ひ易く危険であるから、充分な注意を忘れて輕舉は慎しむことである。大丹生岳はこのコースでの最悪の難場で、ピッケルの初めて役立つ所で、一時間位のトラバース・アルパイトは覺悟せねばなるまい。里見ヶ原に出ればあとは樂で、姫ヶ原への滑降が始まる。ここで味はふ雪と廣野のシュブールの印象は、仰ぎ見る槍や穂高の連峰と共に、強く記憶される。

猿飛で一段落滑降も終り、夏道の傾斜を辿り乍ら鎮山跡附近の道は迷ひ易い故、注意して夏道を平湯へ長い滑降をつゞける。其の夜は静寂なこの温泉郷に留つて、翌日は平湯峠を越し、整然としたピラミッド型の笠岳の山容を振り返つて小京都高山に急ぐ。

〔参考時間〕

冷泉小屋 二・五時間 鶴ヶ池乗越 二時間 里見ヶ原 五時間 平湯

C 飛驒大尾根コース

信飛をつなぐ乗鞍縦断のコースとしては、途中雄大な眺望に恵まれて實に豪快なものであるが、圖上にそのコースを求めたのみで相當な複雑性を示してゐることが分かる。このコースは乗鞍肩ノ小屋より大尾根まで一二時間強を要する長距離であり、相當の困難が途中生じて來ることと思はれる。且乗鞍は地形が平坦な火山地形を形成するため、迷ひ易い箇所も多く、加ふるに一萬尺にも達する高山であるから、冬季の山岳氣象の變化等も激しい。案内人を伴ふことは勿論必要であるが、周到な用意と注意をせねばならない。季節は冬季は北アルプスの常として荒天が多いので、三月中旬から四月にかけての日を選ぶのが賢明な策であらう。

途中には千町ヶ原ヒュッテ(寝具・暖爐・米・味噌等の用意もあるが、一應高山市飛驒山岳會に照會する方がいゝ)。櫻根の小屋(避難小屋)・枯松平小屋(避難小屋、燃料の備付あり、飛驒山岳會所屬)・日影平ヒュッテ(燃料あり、飛驒山岳會所屬)があり、大尾根スキー場には大尾根ヒュッテ(番人在住)があり、ツアーに便を與へてゐる。

〔参考時間〕

肩ノ小屋 一時間 千町ヶ原ヒュッテ 一時間 櫻根小屋 三〇分 丸黒山 四〇分 枯松小屋 一時間 日影平小屋 二時間 大尾根ヒュッテ

テリ〇分 生井 白濁 高山

平湯温泉 岐阜縣吉城郡 上寶村 (地圖上高地)

平湯温泉は乗鞍岳の西麓三方を山に囲まれた盆地で、一方は開けて高原川の美濃に道を通じてある。海拔一、二二三米、土地はために高燥して静寂な温泉郷である。飛騨特有の建物の美しさと人情の濃やかさは、周囲の風光と温泉とを併せ有つことによつて、平湯温泉の名譽を高くしてゐる。

近年安房峠の開通により、上高地・高山の中間に位置して其の發展は期待されてゐる。冬季の平湯は交通の不便なため顧みられることが少いが、豊富な温泉と雪量は、交通の不便さを償つて餘りある住さがある。地形が盆地であるため、周囲の山麓が全部スキーの練習場になり、乗鞍へ、中ノ湯へ、上高地へとの足溜りとなる。

冬季外の季節もいゝ、然し冬季の屋内で圍爐裏火を圍んで聞く狐の話・山の話は、冬のみ味へる領域である。

〔交通〕

松本 前川渡——中ノ湯——安房峠——平湯
高山線高山——旗針——平湯

〔宿泊設備〕

村山館・船津屋・平湯館(以上二圓より)・中村屋・岩

田屋・植田屋・田中屋・中田屋・吉本屋・平田屋(以上一圓五〇錢より)

上高地 南安曇郡安曇村 (地圖上高地)

上高地は我國のツエルマツトで、その名は不朽である。夏季は登山者や遊覽者の溢れる上高地も、冬季にあつては殆ど一部の人のみしか顧みられない。積雪は案外に少なく、最も深い時でも大體一米程度で、嚴冬の折にあつても、梓川はその姿を白澤以下では見せてはゐるが、これ以上は殆ど雪に埋もれてゐるからスキーは思ひの儘のシュプールをつけることが出来る。大正池は湖尻附近に結氷を見るのみである。一・二月の所謂嚴冬期には、スキーよりもビツケルとアイゼンに重點を置く人達が出掛け、三月から五月へは春山の興味あるツアアを目的とした人が行く。この上高地に入る道として次の二つが選ばれる。

A 鳥々—中ノ湯—上高地

鳥々より中ノ湯を経て上高地に入る道は、徳本峠を越えるより稍易いといへる。十二月初旬頃迄は大體澤渡迄自動車は入ることは出来るが、それ以後にあつては前川渡迄が普通で、あとは梓川溪谷に沿つて歩かねばならないが、この沿道には雪崩が非常に多い故、充分な注意が必要とされる。バスが前川渡迄通ずる場合に

は、上高地に入ること一日の行程としてそれ程の困難はないが、途中の清水・釜のトンネルで豫想外の時間を消費することが多いから、二日の行程としてプランを樹てて途中中ノ湯に泊れば翌日は徳澤園か一ノ俣小屋迄迄スキーを延すことも出来る。

中ノ湯は冬季も夏季と同様に營業をして居り、萬目白鎧たる山中に女中さんまであてられて、遠來の客を心待ちに親切なサービスをして呉れるのは、湯の香と共に冷えきつた心に心地よい想ひ出として残るに違ない。

梓川の雪崩も産屋澤を過ぎる頃からはその心配より解放されて、美しい山の威容に接することが出来る。冬季此處で營業してゐる旅舎は、五千尺旅館と徳澤に徳澤園(收容一五〇・泊二圓五〇錢以上)がある。五千尺も徳澤園も、冬の穂高氷壁に挑む根據地として絶好である。清水屋・温泉ホテル・帝國ホテルには番人のみ在住してゐる。

冬の上高地に入る案内人・其他の相談に就ては、安曇村鳥々の西糸屋奥原英男に依頼すると便宜が得られる。

〔參考〕

前川渡 一時間 澤渡 一・五時間 中ノ湯 三時間 河童橋 一・五時間 徳澤 鳥々—徳本峠—上高地

省線松本驛にて松本電鐵鳥々行に乗換へて約四十五分程にして、終點たる鳥々驛に着く。ここよりバスにて鳥々宿へと至るも良く、歩いては大したことはない。鳥々の宿より留置の小屋までは約五時間半、一・二月の雪の多い候であればスキーは用ゐる事可能だが、雪の少ない十二月の中旬頃迄と、三月下旬の頃はト口道にスキーを擔がねばならない。留置の小屋には冬期は番人が在住してゐないから、その用意は必要である。留置から徳本峠への道は、霞澤岳の方に出ぬ様に注意して、夏道、又は南澤を進んで行く。ここはラツセルに相當なアルバイトを要し、峠頂附近に至つては急坂に煩はされる。

上高地側も同じく急坂で、豫想外の時間がかかる。雪崩は峠の兩側、南澤・上高地側共に危険であり、殊に春先を四月頃は甚だしい。雨の日は雪崩の發生し易い條件を増す故、通過は避くるのを得策とする。

〔參考〕

鳥々—五時間 留置 五時間 徳本峠 一・五時間 白澤渡 一時間 五千尺

大町と小谷温泉

大町(中山)スキー場 (地圖大町)

山の町大町の郊外にあるこの新興スキー場は、雄大なアルプスの麓・鹿島館・五龍等の岩稜の展望美に恵まれる上に、種類多いスロープを広い面積に互つてもつてゐる。

雪もよく、一米位の積雪ではあるが、手入のよく行届いたスキー場にはこれでも充分で、十二月下旬より三月下旬迄滑り廻ることが出来る。誰やらが、霧ヶ峯の縮圖だと云つた言葉が、或點ではこのスキー場の説明としてはよく當てはまつたものと謂へる。白馬山麓の往き、又は歸路にこのスキー場を豫定に加へることは、面白い時間を過ごすことが出来る。大町驛前より長野行バスで六軒、簡単にスキー場の真中に運んで呉れる。シャントエの設備もあり、立派なスキーホテルもあつて、安價に開放してゐるし、乾燥室・賣店・スキー用具等一切の物資を供給して萬々遺憾ない。

近年このスキー場を中心として、附近の山を巡るコースを開發する計畫が地元により進捗してゐるが、實現すれば興味あるシー・ワンダーリングが出来よう。

〔交通〕

大町(六軒) 大町スキー場 (二〇錢)

〔宿泊設備〕

大町スキー場ホテル・收容人員一五〇名・一泊一圓五〇錢より。

民家(スキー場より約一軒)・收容人員六〇〇名・一泊一圓一〇錢より。

小谷温泉

北安曇郡 中土村 (地圖妙高山・戸隠)

小谷温泉は近年大糸南線が中土まで開通したために、白馬山頂附近にスキーを樂しんだ人達が、歸路立寄る便を増した。中土驛から糸魚川街道と岐れて、小谷街道を辿つて豊富に滾々と湧く温泉と、三百年の長い歴史を有つ小谷温泉に着く。

温泉の附近一帯、即天狗山の裾より湯峠・大渚山に互る四十萬坪の山野は、緩急長短各種のスロープに富み、スキーの好適地で、温泉を根據地として天狗原山・雨飾山・大渚山・湯峠と一、〇〇〇米を上下する山岳へのスキーの快味はまた格別で、殊に千古斧鉞を知らぬ神祕を藏する大森林に、歸途の滑降を吾が物とすることは、息づまる壯快さを感じる。初心者の練習にも、亦熟達者の活躍にもスロープの選擇は自由で、ウインダー・スゴーツの殿堂たるの觀がある。

眺望の最も大なるものは壯麗無比な北アの連峯の堂々たる景觀で、之はこの温泉の獨特のものである。積雪量は非常に多く、飯山附近と匹敵し、粉雪で平均二米で、一・二月の極寒の候には五米にも及び、スキーは十二月中旬より四月下旬迄可能である。

〔交通〕

大糸線中土驛下車(三時) 小谷温泉

(積雪少きときは途中マキまで自動車の便あり)

〔宿泊設備〕

名	稱	收容人員	宿泊料
山田	旅館	三三〇	一泊三食付 二圓〇錢より
小谷温泉	スキーヒュッテ	一〇〇	一圓八〇錢より
浩	養館	八〇	二圓より

貸スキー・乾燥室・食堂・暗室・各種娛樂設備あり。案内人一日二圓五〇錢。スキーコート應需。

〔スキー・ツアー・コース〕

A 笹ヶ峯・田口コース

山の温泉と山麓の温泉、妙高を中にして表と裏を結ぶ信越國境の豪華なコースである。温泉から松尾川に沿つて乙見山峠まで登る。松尾川橋より峠迄は相當急激な登高箇所をもつてゐるが、附近は桐林で囲まれ、樹氷の美觀を呈する。笹ヶ峯牧場へ峠よりの下りは繊細な筆致で

描寫した雪模様のすべてを展開しつゝ急速なスピードの滑降の續行である。笹ヶ峯からは黒澤池・神奈山を経て關・蕪方面及び妙高外輪廻り池ノ平・赤倉へのコースの發着點でもある。牧場を中心としてスキー・ツアーやヒュッテ・ペンション、屋生活をするにはうつつけの場所、京大のスキーヒュッテがあり、牧場の事務所はスキーヤーの根城として親まれてゐる。池の峯から杉野澤へと、妙高の裾を縫つて下る滑降の快味は山黨にとつては堪まらない舞臺である。コースに指導標は完全に設けられてあるし、時折心配の種になる雪崩も解雪期の四月以前には不必要である。

小谷温泉(上) 〇・五時開通 軒乙見山峠(下) 一・五時開通 軒笹ヶ峯(上) 二・四〇分 軒飯綱高原(下) 二・四〇分 軒杉野澤(下) 四・〇分 軒池の平(下) 一・〇分 軒田口驛(下) 六・〇分

B 飯綱高原・戸隠コース

小谷温泉から乙見山峠を経て笹ヶ峯牧場西端で右折して、ニグロ川を渡りて水澤に出る。乙見山峠から東は小谷街道に沿つて平まで粉雪にスラロームを描き、一氣に下る氣持は唯「快」の一字である。

水澤には高田管林署事務所があり、宿泊の便を與へてくれる。この附近の大森林の水花櫻絡の美が、陽光に輝き出される壯觀はお伽の國である。水澤より傳説の山黒姫の西麓を越えて大橋へ出、戸隠の牧場の雪原を横切り神城戸隠に至る。中社・賣光社の部落にスキーを脱ぐも

よく、或は飯綱の高原の雪の廣野に、その廣大な展望を
態にするのも、何れもがスキーヤーに與へられた興趣で
ある。

小谷温泉 上リ二・五時間 下リ二・五時間 水澤 上リ二時間 大橋
上リ一時間 戸隠中社バス 長野市

〇 湯峠・糸魚川コース

大糸線の二驛、根知と中土を小谷温泉で結んだスキー
コースで、温泉から鎌池を經て湯峠に至る。梅林の樹水
の美觀、或は湯峠より粉雪にシユブールを印して山口方
面へ滑降を試みる快味は、山岳スキーの醍醐味を満喫出
來る。仙翁澤で雪橋を渡り、乗越を登ると此處から戸土
までは見渡す限りの雪原で雪質もいゝ。戸土の部落を過
ぎて根知に着けば、根知から糸魚川行列車の人となるこ
とが出来る。

小谷温泉 上リ一時間 湯峠 下リ二時間 分山口 下リ三〇分 根知驛

白馬山麓附近

白馬山麓 (地圖白馬岳)

白馬岳を北の盟主とする北アルプスの連嶺は、夏山の

王者として數萬の人を魅きつける。それは地上の樂園と
云はれるお花畑と、夏なほ消えることない大雪溪、それ
に加へて日の出・日の入に見る壯麗な山の展望がある。
然し白馬の連嶺は冬季に於ても、尙その白皚々たる偉容
はスキーヤーの憧れの的である。崇高雄大なこの連嶺の
魅力は、年々多くの山岳スキーヤーをその純白に化粧し
た肌引きつけてゐる。

白馬岳を第一に唐松・五龍・鹿島嶺と、冬季登山の目
的として取扱はれる山々が、所謂後立山の連嶺につゞく
ことと、その麓に落倉・若栗・細野・高ヶ入とスキー場
を持ち、その山腹に樽池・天狗原・乗鞍を中にした廣大
な山岳スキー場と、八方尾根に波の如くつゞく白銀の
峯、さては遠見に楽しむ粉雪と眺望と各特徴あるものを
有して十二月の下旬より四月下旬頃迄雪に親しまして呉
れる。

落倉スキー場 前に頸城アルプスと戸隠連嶺を眺め
背後には白馬の連嶺を眺めて廣い面積を占める落倉・
親の原のスキー場は、各種のスロープが火山の裾特有の
傾斜と變化を示して打ち續く。従つて初歩のスキーヤー
から、高等技術の修得まで申分ないスキー地といへる。
ここは白馬の樽池・天狗原へ向ふルートに當り、一日乗
鞍岳の斜面に遊んで歸るのは面白い日程である。積雪一
米半、期間十二月下旬より三月末。

〔交通〕

大糸線信濃森上驛 落倉 (橋の便あり)

〔宿泊設備〕

落倉村營ヒュッテ(山番常住、日用品整ふ)・收容人員
一〇〇名。

發電所社宅(收容人員百名)

若栗スキー場

若栗スキー場は鶴峯の裾に擴がる新
興のスキー場で、北安曇郡南小谷村にある藤平・親の
原スキー場と隣して居り、上越附近の小さなスキー場と
は比較にならぬものがある。大糸線が中土まで延びた昨
今、この沿線のスキー場が次第にその良さを認められて
來た。このスキー場より樽池へ行くコースもあり、前記
の落倉スキー場へも連絡出来る。糸魚川街道千國崎へ十
八軒にて達し、小谷温泉へ大糸線を利用して行けば、又
愉快なスキーを愉しむことも出来る。大糸線森上驛より
八軒、二時間三十分を要し、馬橋の便もある。スキーの
期間十二月下旬より三月下旬迄、積雪約二米に及ぶ。

〔宿泊設備〕

若栗ヒュッテ 收容人員五〇人 一圓五錢 乾燥室あり
藤平ヒュッテ 四〇人

細野スキー場

四ツ谷驛より西方坦道一里、八方山
の東麓、白樺の林に圍まれた中にスロープを據げてゐ
る。細野の部落より二〇分程にして達する。土地の人は
咲花スキー場と云つてゐて初心者向である。附近からは

白馬・杓子・鐘の白馬三山に眉を接して望むことが出来
る。又此のスキー場より日歸りて白馬の大雪溪や、八方
尾根にも遊びにゆける。八方山の黒菱小屋は八方山のテ
ラスにあり、素晴らしいスロープを曳いて居り、宿泊に
は黒菱小屋・池田小屋がある。

〔宿泊設備〕

細野村營ヒュッテ(山番常住)(收容人員四〇名)

高ヶ入スキー場

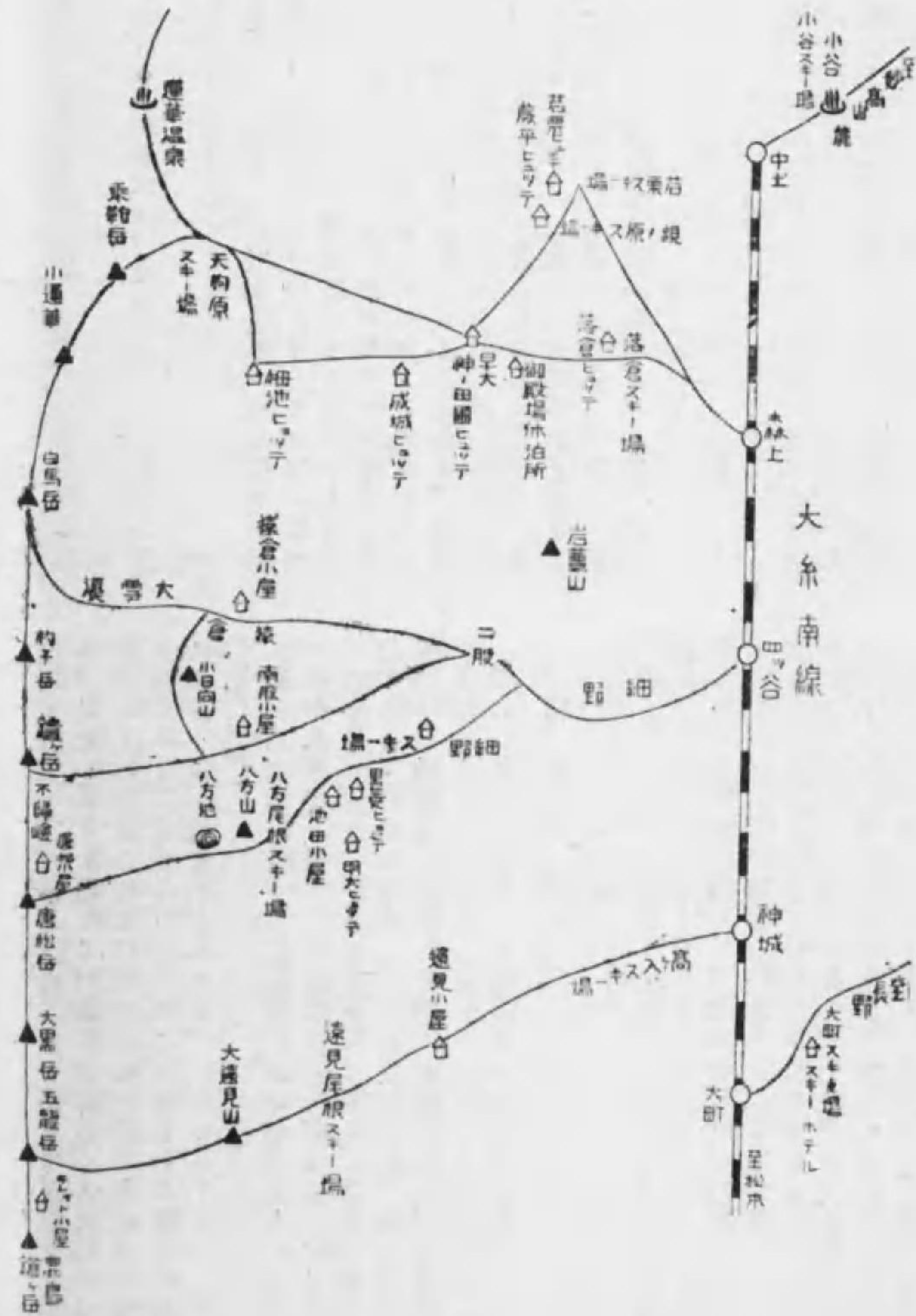
大糸南線神城驛より一軒、十五分
にて到達し得る。遠見尾根の麓にあり、廣汎な地域に緩
急とろく快適なスロープを有してゐる。初心者向であ
る。神城驛附近の民家にて宿泊の便を圖る。三食付一圓
二十錢位。

遠見小屋から唐松・五龍方面への連絡路に當る。

樽池附近

四ツ谷から樽池へ――
森上驛に下車、新田・切久保と雪の中の部落を通つて
落倉のスキー場に至る。落倉スキー場よりここを横切る
發電用の送水管を越えて、雑木と植林の尾根をジグザグ
して登れば、當分同様な山道を登行する。途中登り切つ
た平が御殿場といひ、傍に休泊所の設備があり、一休み
した連中が、熱いお汁粉をかき込んでゐる姿が見える。
離でも一服をやるこの小屋場附近は、乗鞍岳から天狗原
へかけて白一色の斜面が美しく望まれる。後に姫川の谷

白馬山麓附近路図



が落込で、頸城の山塊や戸隠の妙に塊まつた裏山が見え、悠然たる淺間の煙も蒼空に灰白い。左から落込んで来る鴨尾根を越える頃、白馬三山の姿も巖然と雪の鏝に装はれてゐる。程なく神の田圃に出て、早大ヒユツテの赤い屋根を見出す。このヒユツテへは早大山岳部の合宿期間外であれば、頼めば宿泊の便を興へてくれる。神の田圃は夏季は濕地で、白樺の美林と樺に取りかこまれて、池漕があり、閑適の感のする所であるが、冬は雪に埋もれてゐる。早大ヒユツテより二軒餘の赤い尾根、成城高校のヒユツテを経て針葉樹の林を通れば、三階建の樺池ヒユツテが現はれる。ヒユツテは白馬館の經營で、冬は大抵三階の中途迄を雪に埋めてゐる。正面に堂々たる杓子と鐘が見える。

樺池を根據地として乗鞍岳に登り、天狗原の斜面に滑り廻れば、スキーの妙味ここに集まるの感がある。乗鞍岳の頂附近はウインドクラストをし、シユカブラを呈してゐることが多い。ここからの展望は實に偉大で、誰しもがスキーを穿けたことを幸福と感ずるに違ひない。

樺池からは岩叢山附近に遠征を試みるのもよく、好天を覗つて天狗原—大池—小蓮華と白馬の登頂を行ふのもよいが、之は餘程の経験をもたねば危険である。特に小蓮華の尾根は、日本海方面よりの風衝が強く、變り易い冬のアルプスの天候の下では、樺池から頂上迄の距離が長きに過ぎる根みがある。白馬岳の登攀は稍雪崩の危険

はあるにしろ、猿倉大雪溪よりの登路をとることが効果を収め易い。

近年越後側の蓮華温泉と樺池を結ぶコースが宣傳されて、泊りで温泉に出掛ける人も増加する様であるが、悪天の折は十二分の注意が必要である。樺池よりの歸路は最も大きな楽しみで、神の田圃から御殿場を経て落倉まで一氣に走り下るか、或は鴨尾根に上り、東に尾根を山麓の親ノ原スキー場へ滑降するのもよい。このコースは昨年、地元スキークラブと東京日日新聞の主催で滑降競技を開催して、なか／＼の盛會であつた。

樺池は冬も良い、然し日も永くなり好天の續く春三・四・五月の候、所謂春山を愉しむ人にとつては、此上ないスキー場のパラダイスである。

〔交通〕

大糸線信濃森上—五時間 落倉スキー場—五時間 御殿場小屋
 神の田圃早大ヒユツテ—四〇分 樺池小屋

〔スキー・ツアー・コース〕

- A 樺池小屋—一時間 天狗原—二時間 蓮華温泉—三時間 木地屋—三〇分
 大所—二〇分 平岩—四〇分 小瀧驛
- B 樺池—一時間 天狗原—五時間 大池—二時間 小蓮華—三時間 白馬—
 大雪溪—猿倉—細野—四ツ谷

〔宿泊設備〕

名	稱	收容人員	料金	備考
早大ヒュッテ (神の田圃小屋)		三〇	二圓五錢	豫め使用前申込 まれたし
梅池ヒュッテ		九〇		
蓮華温泉		三〇〇		冬季使用適 寝具・燃料・食 料備付
白馬スキー小屋		三五		
南股スキー小屋		二五		
白馬頂上小屋		四五〇		自炊

八方尾根附近

四ツ谷驛に立つて目の前に牛の背にも似た尾根が、唐松岳と五龍岳の間より出て細野部落の上に蔽つて來てゐる。之が八方尾根で、スキーヤーの噂の的の山である。夏なれば頂上附近に池沼が点在し、ナンキン小櫻やコバイケイ草の花で蔽はれるのであるが、冬期は花に代つて雪が厚く積もる。爲に十二月下旬より四月下旬頃迄スキー可能である。八方尾根へは四ツ谷驛下車、細野部落へ道を取り、細野スキー場から八方山の裾、中黒澤に沿ひ夏道を辿つて登る。雑木林から梅の巨木に林が變る頃、黒菱小屋に着く。短距離の間に八〇〇米からの高巨を登るので相當にこたへるが、それだけに展望は優れてゐる。

唐松小屋 五龍岳 遠見小屋

〔宿泊設備〕

黒菱小屋 收容三〇名 料金二圓
池田小屋 三〇名 (食事・寝具黒菱小屋で供給)
唐松頂上小屋 一〇〇名 料金二圓五十錢(三食付)
小屋料二圓(白米・味噌・薪炭料共)
小屋番 十二月二十日―一月十日在住
三月十五日―四月十五日
小屋番不在時使用者は、四ツ谷白馬館又は神城村下川又寛宛照會のこと。

遠見尾根

遠見尾根は八方尾根と同様、姫川に沿ふ糸魚川斷層線の西方にある熔岩臺地で、未だ充分に浸蝕し切れぬ地貌を示し、圓味を帯びた尾根を形勢してゐる。之が冬期に於ては山スキーヤーを雀躍せしむる場所となる。
遠見尾根の冬の認められて來たのはつひ近年のことだ、従つて小屋の建設の歴史も未だ淺い。然し此の小屋が五龍・唐島館の登攀や、遠く唐松に登り八方尾根に至る、所謂遠見・八方兩尾根廻遊とも稱すべき、冬期登山に重要な足場となつてゐることは注目すべきである。
神城驛に下車、高ヶ入の澤を約二時間登り、尾根のつち根にとりつき、更に山腹にデグザツグを繰返すこと二

る。

黒菱小屋はこの八方尾根の、そして又唐松・五龍登攀の良き根據地である。附近にグレンデもあり、吹雪の日でも安心して雪に親しめる。黒菱小屋に接して池田小屋があり、稍離れて明大のヒュッテが建てられてゐる。黒菱小屋は地元の細野スキークラブの經營で、暮から一月上旬と三月の頃は相當混雑を豫想しなければならぬ。雪質は山麓と異つて完全な粉雪で、殆ど朝毎に見る樹氷や軒の氷柱は、スキーヤーにとつては美しい景物で、キヤマラの題材も多い。

唐松岳(二、六九六米)は黒菱小屋から其登攀を心掛ける人が多い。天候に恵まれれば日歸りも可能であるが、唐松岳附近では氷雪の部分もあるので、アイゼンの携行を要する。普通八方山(一、九七四米)や八方池の邊に遊び、後立山の眺望に山岳スキーの醍醐味を満喫するのは、スキーヤーにのみ許された領域であるだけに感激は大きい。

唐松岳頂上小屋は(二、五四〇米)四ツ谷より八時間にして達する。八方尾根の滑降はもとより、不歸嶮に挑戦し、或は五龍岳の頂上を極め、遠見尾根へ廻る等恰好の場所に位置してゐる。

〔交通〕

四ツ谷驛―四時間 細野部落―三時間 黒菱小屋―五時間 八方山―三時間

時間程にして小屋に達する。

小屋の附近は夏期に於ては、芝生と灌木の叢生であるが、十二月の初旬の聲をきけば、雪がすべてを蔽ふ。小屋は即ちこの遠見尾根の廣漠たる雪原にある。小屋より一時間許りして小遠見の頭に出ると、展望は又一段と深いものがあり、鹿島館のカクネ里、北アルプスに於ける最低の圓谷地形が現れる。小遠見より大遠見への尾根傳ひで大遠見に出れば、タンネの林もあり、一望無限の雪で、スキーヤーの理想郷である。

遠見小屋は東方の上信越の諸山は肥すに及ばず、白馬連峯・屋根形の不歸の嶮・五龍岳・鹿島館等を目前に捉へることが出来る。従つて此處より五龍岳頂上へ上り六時間、下り三時間、鹿島館のカクネ里へ七時間、唐松小屋へ十時間の行程である。

〔宿泊設備〕

遠見小屋 收容人員六〇名 三食付二圓
小屋料一圓二十錢
十二月二十日―一月十日 (此期間山小屋番常住)
三月十日―四月十日

霧ヶ峯・美ヶ原・蓼科高原

霧ヶ峯 一附、蓼科・鉢伏

(地圖諏訪・蓼科山・和田)

スケートと温泉で名高い諏訪町から八・四軒、バスで三十分にして清水橋に至る。此處から左手に大シャシツエを見て急勾配を上る事二十分、吾々は霧ヶ峯の玄關池ノクルミに至る。霧ヶ峯は既に知られてゐる通り八ヶ岳火山帯中の秀峯蓼科山コニーデ火山の美しい裾野と、本邦には珍らしい標式的なアスピーデ型火山獨特の和かな丘陵が重疊して、素晴らしい高原全部を抱擁してゐるので、到る處スキーに好適な斜面が連続し、初歩者向としては菅平・妙高等と共に他の追隨を許さない。然も其間蓼科・八子・車・大笹・鷲ヶ峯・焙焙等の高山が各々よい位置に點綴し、熟練者には山岳スキーの豪快さを提供して呉れる。其の展望の豪快さは定評のある處で、一、四〇〇米―

二、〇〇〇米の間に展開する。此の高原は何處に身を置いても自らパノラマ中の人物たるを感じしめる。南に富士・南アルプスの全貌、西に御嶽、更に北アルプスの全部、北方遙かに頸城アルプス・四阿・淺間、東に蓼科・八ヶ岳等、殆ど中部日本の名山高岳は一望の裡に收められる。雪質は乾燥した粉雪、一米餘に達し、草原の爲め危険は殆どなく、初心者・熟練者共に十二分に樂しめるスキーの聖地である。此のスキー場は地元の協力により早くより、全スキー場を通じてスキー・トレイルの計畫を樹て、此處を中心として他のスキー場との連絡等を考へ、各色を用いた標導標により、一日乃至數日に互るスキー・ツアー・コースの便に備へ好評を博してゐる。尙特に此の高原中に、全國で有數な好スケート・リンク場ノ海があることを附加へなくてはならない。期間は十二月―三月一杯。

(交通)

上諏訪(自動車)霧ヶ峯

上諏訪(自動車)蓼科海

上諏訪(バス)特設リンク

上諏訪(バス)清水橋(別)池ノクルミ

(スキー・トレイル)

霧ヶ峯を中心として八方に延びたスキー・トレイル

は、雪原の見易い場所に各々異つた色の指導標を建て、又別に夫れと同色の線を描入したトレイル圖を作り、案内人なしでも安全にツアー出来る仕組となつてゐる。

A 大環状トレイル (標識赤、全長四一軒)

池ノクルミ―蛙原―グライダー村―硯石―澤渡り―舊御射山―八島―星ヶ塔―和田峠―東餅屋―男女倉―藤平―追分―大門牧場―大門峠―萬仁武小屋―車小屋―車山―車山肩車澤―カボツチヨ―池ノクルミ

B 小環状トレイル (標識黄、全長二四軒)

池ノクルミ―蛙原―車山肩―車山―蝶々深山八島―大平―澤渡り―硯石―グライダー村―賽の河原―清水橋―池ノクルミ

C 蓼科山麓温泉トレイル (標識橙、全長二二軒)

池ノクルミ―萬仁武小屋南平―大石平峠―寺小屋―灰燒平―大久保―蓼科山麓温泉

D 蓼科山トレイル (標識橙、全長三六軒)

池ノクルミ―萬仁武小屋―六川道―番小屋―御泉水―九合目―頂上―九合目―大河原峠―大久保―蓼科山麓温泉

E 湯澤温泉トレイル (標識青、全長三二軒)

池ノクルミ―萬仁武小屋―六川道―夏季學校―蓼科牧場―マンタ小屋―七曲リ―協和牧場

F 屏鏡泉トレイル (標識綠、全長二九・五軒)

池ノクルミ―八島―男女倉―男女倉口―唐澤―屏峠―屏鏡泉

G 捷途及其他のトレイル (標識黄)

池ノクルミ―阿彌陀寺(唐澤山) (六軒)
蝶々深山―大門牧場 (五軒)
八島―男女倉 (四・五軒)
星ヶ塔―西餅屋 (三軒)
和田峠―樋橋 (八軒)
大平―萩倉 (四・五軒)

次に前記のトレイルを綜合したものを、代表コースとして選り掲げて見る。

(スキー・ツアー・コース)

A 車山・鷲ヶ峯コース (一日行程)

池ノクルミ―車山―八島―鷲ヶ峯―和田峠―中山道―下諏訪(全長二八軒)

池ノクルミ―一番人が集まる所で俗に霧ヶ峯銀座と云はれてゐる。此處を距てて向ひの蛙原の山裾の斜面を稱して新宿と呼ぶ。

車澤―池ノクルミを抜けて正面の車尾根を中に挟んだ右手の澤を一段登ると、カボツチヨ山に對峙して車の尾根下にカボツチヨ小屋がある。變化の多い練習

場である。

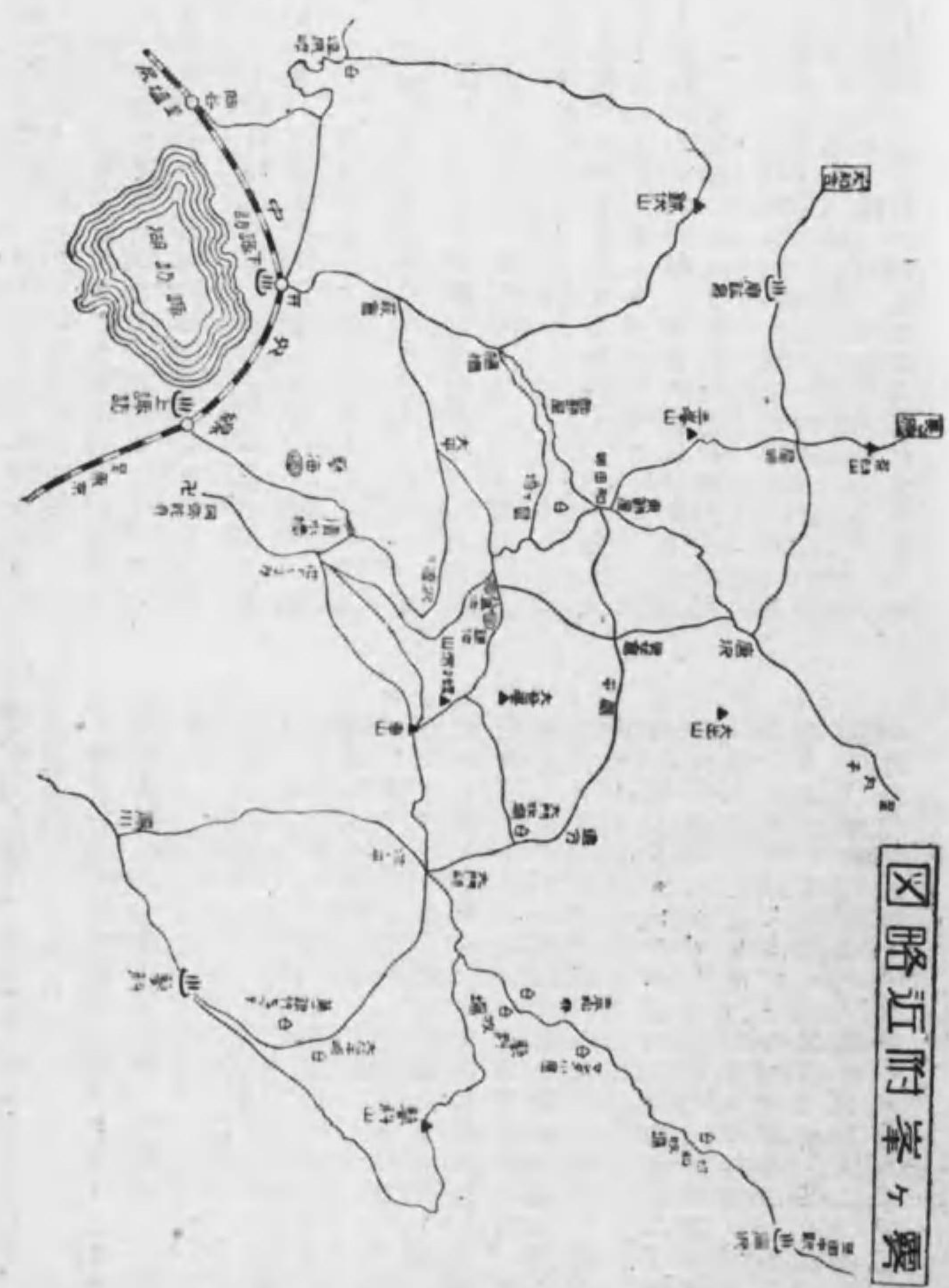
蛙 原——グライダー場からグライダー村を左手に見て、麥つきの池とさわらじこの間の尾根を登り、車澤と並行して原を突進むと車肩で車澤と交叉する。

車 山——車山肩から急峻な登りではあるが、距離は僅か。ドームの様な山が車である。頂上を取圍む斜面は、頗る優秀熟練者の天國であらう。

八 鳥——車肩から乗越え續くコースは車の北斜面を横切つてゐる。蝶々深山から山彦谷を右に、稜線を傳はつて八鳥に行く。一帶は湿地帯で、一面雪原となつてゐる。鷺ヶ峯の山裾に當つてゐる。下諏訪町へは空木澤と大平を経て中山道へ、奥鷺ヶ峯へは小屋の裏手を男女倉部落へ、何れも谷筋に副ふ。空木澤の下り口で分れて、右にとれば鷺ヶ峯の中腹を経て和田峠に出る。逆に雪原を横切れば、舊御射山を経て觀音澤へ下り、硯石からグライダー小屋・池ノクルミへの捷徑である。

鷺ヶ峯——風強く、西側はクラスト、東側は雪庇が多い。然し登攀の喜びは仲々多い。

和田峠——中仙道の要關和田峠、檜の木の連続である。史實に富んだ一帯で、省營バスは下諏訪・丸子へ別れて走る。樋橋に出て落合を過ぎ、官幣大社諏訪神社で名高い湯の街下諏訪町に達する。



〔参考時間〕

上諏訪驛(バス) 清水橋(二〇分) 池ノクルミ(二〇分) 蛙原(一時間) 車山肩(二〇分) 車山頂上(五分) 車山乗越(二五分) 蝶々深山(一時間) 八鳥(一時間) 鷺ヶ峯頂上(三〇分) 和田峠(バス) 下諏訪驛(四〇分)

B 蓼科山麓温泉コース (一日行程)
池ノクルミ—車山—大門街道—南平—大石平峠—蓼科山麓温泉(全長二二軒)

車の大斜面——頂きより車の小屋を目がけて滑降する。音無川沿ひの大門街道への斜面は素晴らしい。歌ヶ澤へふつとばして澤沿ひに降れば、三ノ橋と音無川發電所跡の中間で街道に出て柏原へ下る。又車小屋から標識について行けば諏訪隠しの鞍部へ出る。之を越えて澤を下ると三ノ橋小屋へ、左へ斜面を標識沿ひに横切れば萬仁武小屋へ出る。

大門峠・池ノ平——中仙道を落合で別れて大門村に入り、長い登りを詰めると峠になる。此處から音無川について降ると柏原へ、又峠附近の大門牧場から一きは登りつめた處が大門峠で、此處は池ノ平の一端でもある。南平から集まつた水流のほとり、街道沿ひに萬仁武小屋がある。此の小屋を中心として六川道を蓼科山・湯澤等へ、南平を行けば蓼科温泉へ、また峠を下つて佐久へ、又は茅野へ、鷺ヶ峯環狀線の中心である。

り、樞軸線の起點である。池ノ平附近は蓼科を背景とした絶好の景觀が、スキーヤーを驚喜せしめる。

南平・大石平峠——音無川を渡り、南平を登り、蓼科に差しかゝる。平原は次第に狭まり、左右に八子ヶ峯の外輪山と蓼科山が迫つて来る。此處を登りつめると大石平峠となる。

蓼科山麓温泉——此の峠を一気に降ると寺小場小屋があり、尙も谷に沿うて降れば蓼科温泉が人々を待つてゐる。

〔参考時間〕

上諏訪驛バス 清水橋二〇分 池ノクルミ二時間 車山五分 車
小屋一分 諏訪隠し三分 大門街道二時間 大石峠三分 大久保
温泉場五分 湯川五分 茅野驛

C 大門牧場コース (一日行程)

池ノクルミ—車山—蝶々深山—山彦谷—大門牧場—大門峠—相原—湯川—茅野驛(全長二一軒)
山彦谷——殿城山から大笹峠の稜線に圍繞された谷を山彦谷と云ふ。落葉松につままれた斜面の優秀さは定評がある。

大門牧場——前項大門峠附近の牧場で、山彦谷を下り、牧場を越えると牧場に入る。緩傾斜の牧場を二軒程滑つて大門街道に入る。峠へ登つて池ノ平に出る。
音無川——池のくろみを書頃登れば、萬仁武小屋は日暮れ方となる。此の街道は雪もよろしく、よく滑る。

〔参考時間〕

上諏訪驛バス 清水橋二〇分 池ノクルミ二時間 車山五分 大門牧場牧舎四分 萬仁武小屋一分 柏原三分 湯川五分 茅野驛

D 湯澤温泉コース (一日行程)

池ノクルミ—大門街道—六川道—蓼科牧場牧舎—龍ヶ峯尾根—萬太小屋—協和牧場—針ノ木立—グレンデ—湯澤温泉(全長三二軒)

六川道——池ノ平から赤沼平を距てて、龍ヶ峯の尾根筋に立木がある。此の目印を二本松と云ふ。蓼科道と別れて萬太小屋の上方を二本松目指して登行する。

蓼科牧場——路の左側に夏季學校がある。此處より牧舎を見てジグザグの途を龍ヶ峯の一端に登る。二本松は左手下方に在る。此處から尾根添ひに落葉松の間を降りマンタ小屋に降る。

協和牧場——マンタ小屋から七曲りを八丁地川へ降る。此附近のスロープも仲々よく、所謂協和牧場である。針ノ木立——之より唐澤を渡れば尾根が開けて、針ノ木立グレンデが人待顔である。湯澤温泉から三軒の地點で、右の境界線添ひの道は、龍ヶ峯の御泉水から来る徑で、鹿曲川を右に、尾根上を降つて来る。此の唐澤の道を暫し進むと、鹿曲の澤に入り、間もなく湯澤の

温泉へ着く。

湯澤温泉——古い湯治場、自動車によると翌月の町へ行く。夫れから田中驛へはバスもある。附加へる事は此のコースが三十二軒餘あるので、相當のエネルギーを要する。初歩向きではないが、其の千變萬化の興趣は熱達者を十二分に満足させる。

〔参考時間〕

上諏訪驛バス 清水橋二〇分 池ノクルミ二時間五〇分 萬仁武小屋一分 夏季學校一分 龍ヶ峯尾根四分 マンタ小屋二分 八丁地川五分 協和牧場四分 針ノ木立五分 湯澤温泉一分 田中驛

E 蓼科山コース (二日行程)

池ノクルミ—萬仁武小屋(泊)—番小屋—九合目—頂上往復—大河原峠—大河原—大久保—蓼科山麓温泉(全長三六軒)

六川道——萬仁武小屋を出發、蓼科を目前に仰ぎ乍ら大門峠の手前で、池ノ平沿ひに其北端から松林を抜けて六川道に入る。樽ヶ澤を渡つて樽ヶ澤温泉を右に軟かく降る。萬太小屋を左に道を外れ、番小屋へ眞直に登る。

番小屋——六川道を離れて間もなく、雜木に覆はれた蓼科山麓に入る。之からは森林中を一途に頂上に登行

する。小屋の庭から右へ、原生林の中を櫻谷への道へ進む。此のあたり原始林の爲め途は難しい。

御泉水——やがて左手に御泉水を木の間隙れに見る邊りから谷を避けて、蓼科牧場の木柵を越えて櫻谷の左の尾根、つまり龍ヶ峯の尾根の上方に當る御泉水頭へ登る。之を左に見て右手の枯木の尾根を攀ぢ上り、此處を右へとトラヴアスすると、再び原生林の根深い雪に入る。

九合目——天狗の露臺を過ぎて再び登行する事暫しで九合目、明るい尾根である。此處を基地として頂上へ往く。

頂上——圓い頂上の眺めのよさはさる事乍ら、此處から九合目の下りは天下一品、雪質は最上。

大河原峠——九合目から道を東の尾根にとる事暫し、主脈は眞北へ轉じ、下る事少々右へ一寸外れて密林に入り、段々下る。林間を抜けると廣い斜面に出る。目の下の鞍部が峠で、夫れから蓼科と横岳が合した所に峠道がついてゐる。此處から右斜面を大河原へ一気に滑降する。此のコース中の最も楽しい下りである。

山麓温泉——瀧ノ湯川の谷合を一〇軒、相當に急な迂曲した道を下ると、温泉の火が招く。

〔参考時間〕

(第一日) 池ノクルミ二時間 車山五分 萬仁武小屋(泊)

(第二日) 萬仁武小屋（一時間二分） 番小屋（一時間） 御泉水上（一時間）
 七合目（二〇分） 頂上（二〇分） 九合目（一時間） 大河原峠（三時間） 蓼科温泉（一時間） 湯川（五分） 茅野驛（五分）

F 鉢伏山コース（一日行程）
 下諏訪—樋橋—赤澁入り—二ツ山—鉢伏山—前鉢伏山—横峯—高ボツチ山—東山—鹽尻峠（全長二五軒）
 赤澁入り—樋橋部落の手前で砥川を渡り、赤澁澤の左岸をさかのぼる。進むにつれて尾根に突當るので、右の荒澤に入り、間もなく右手の炭焼小屋を見て尾根にとりつく。

二ツ山—三十分程で鳥居に着く。鳥居から正面の尾根を登ると二ツ山神社がある。之を拜して頂上に出ると視界が展げ、アルプス展望臺の稱ある美ヶ原が目前に展開する。

鉢伏山—二ツ山から見る此山は、西北に續く尾根の端に當り、一木もない丸い峯の續きは白く大きく横たはる。頂上近く社祠がある。此處から松本平が一望に收められる。前鉢伏山は、右手の廣い尾根を松本へ向けて降る。

横峯—鉢伏の大斜面をぶつとばして平らになつた所が前鉢伏で、此處から横峯との鞍部迄は稍々やせ尾根、降り切つて鞍部で松本側の腹をまいて行くと、右手の尾根に横峯の三角點がある。三角點から崖の揚へ

は四軒餘。再び尾根に出て横峯の小屋がある。高ボツチ山—横峯の小屋から尾根を前方に進む。登りつめた所は廣い平地で、之を越すと東山から鹽尻峠の尾根が目の下に續く。東山へ降る所は東斜面で雪は少ない。

東山—高ボツチを降り切つた所から、僅か松本側を巻いて頂上近く横河川沿ひに外れて、尾根添ひに御野立所から鹽尻峠に出る。

〔参考時間〕
 下諏訪驛（五分） 樋橋—一時間 尾根登り口—五分 二ツ山尾根（五分） 鳥居—三分 二ツ山頂上—一時間 鉢伏山頂上—五分 前鉢伏山—五分 横峯小屋—五分 東山鞍部—一時間 鹽尻峠—三分 岡谷

〔宿泊設備〕

名	稱	收容人員	宿泊料	備考
寺小湯	小屋	八	二、〇〇	一泊三食付
萬仁武	小屋	三〇	二、〇〇	〃
三ノ橋	小屋	二〇	二、〇〇	〃
車山	小屋	二〇	二、〇〇	〃
カボツチ	小屋	二〇	二、〇〇	〃
池のく	るみ	一五〇	二、〇〇	〃
グライダー	小屋	六〇	二、五〇	〃

作太	小屋	六〇	二、五〇	一泊三食付
蓼科	温泉	一、〇〇〇	四、五〇	一泊二食付
屏鏡	温泉	一五〇	一	〃
番小	小屋	二〇	二、〇〇	一泊三食付
七島	八島小屋	五〇	二、〇〇	〃
東餅	屋	三〇	二、〇〇	〃
碧水	莊ホテル	七〇	二、五〇	〃
樽ヶ	澤温泉	五〇	二、五〇	〃
上諏訪	温泉	二、五〇〇	七、〇〇	一泊二食付
下諏訪	温泉	八〇〇	一、八〇〇	〃

宿泊設備なき小屋 第一銀行ヒュッテ・夏季學校・協和牧場小屋・追分小屋・大門牧場事務所・殖産小屋

美ヶ原（地圖和田・諏訪）

美ヶ原の名が示す様に、此の原は實に美しい。四季を通じて此の原最大の特徴は、此處に在れば北アルプスを初め、北信の山々、南アルプス・中央アルプス等が手に取る様に望まれ、俗にアルプス展望臺の呼稱がある程、眺望に恵まれてゐる事である。通常美ヶ原と呼ばれてゐる範圍は、王ヶ鼻・物見石山・茶臼山の三山が鼎立して

みる廣大な高原—草原を云ふのであるが、近時漸く一般の興味を惹く様になつてからはコースが四方に延び、北は武石峯、南は三峯山・鉢伏山に至る迄の山群をも包含して美ヶ原と呼び度い。一般の登山路としては松本から石切場迄自動車、夫れから三城牧場に發行し、百曲りの急坂をよちて美ヶ原の臺地に達するのが普通である。之から武石峯に出るも可、茶臼山へ進んで和田へ下るもよい。更に自信のある人は、物見石や三峯山を傳ふも亦面白い。更に此處から霧ヶ峯に至る尾根は、熟達者に恵まれたコースともなる。又丸子鐵道の丸子驛で省營バスにより、和田峠から茶臼山に出る道も近時喧傳され、絶好のコースとして推奨される。更に松本口からすれば、此のコースを逆に進んで和田峠から霧ヶ峯—霧ヶ峯にも至る。期間は十二月下旬より三月中旬迄、粉雪。

〔交通〕

松本口
 松本驛（バス） 三反田（二軒） 美ヶ原
 松本驛（バス） 三反田（二軒） 美ヶ原
 九子口
 信越線大屋驛（九子驛） 九子驛（省營バス） 上和田（九軒） 美ヶ原
 A 松本・美ヶ原コース

〔A〕松本驛自他車 入山邊 — 三城牧場 — 美ヶ原 — 王ヶ
鼻 — 入山邊

〔B〕松本驛 — 三城牧場(泊) — 美ヶ原 — 茶白山 —
尻峠 — 和田

B 浅間温泉コース

大屋驛九子驛 丸子町宮野バス 上和田九 軒美ヶ原八 軒武
石峯一〇 軒 湯池四 軒 浅間温泉

C 霧ヶ峯・美ヶ原コース (霧ヶ峯の項参照)

霧ヶ峯 — 和田峠 — 三峯山 — 尻峠 — 茶白山 —
美ヶ原 — 三城牧場 — 三反田 (全長三五軒)

此のコースは霧ヶ峯と美ヶ原をつなぐ新興コースとし
て知られて来た。

和田峠 — 池ノクルミから此處迄二時間見れば充分で
ある。古事に富んだ峠も、今は省管バスの通過地であ
る。

三峯山 — 峠から境界線傳ひに尾根を通つて二三峯を
登降して行く。頂上は脊尾根で、北へ尻、南へ二つ
山、南へ和田の三つの尾根が延びてゐる。三峯山と稱
するのは、此の三つの尾根の頂點に當るのに因る。
峠 — 三峯から尻峠迄の降りには、右手に唐澤の谷
を下つて和田往環が佐久平に連り、霧ヶ峯を越えて蓼

科・八ヶ岳、遙かに荒船山の釣り尾根を望む。
茶白山 — 峠から茶白山へは、ひた向きの登り道であ
る。頂上より目前に陣ヶ坂峠を距てて、美ヶ原の丘が
東面に長く横がつて、南向きのゲレンデ。

鹽嶺岡谷スキー場

岡谷市西方鹽尻峠に連る一帯の高原地帯を鹽嶺スキー
場と稱し、近年漸く一般に知られて来た。網掛堂にはシ
ヤンツェも出来た。クラブ・ハウスは設備もよく、交通
は岡谷からバスで行かれる。初心者向には好適。殊に特
筆すべきは此處に本州では最初のボツプスレー・コース
が出来、毎冬関東選手権大会を行ひ、將來性のあるボツ
プコースとして知られるに至つた。

木曾谷 附近

木曾福島スキー場

木曾駒ヶ岳の山麓で、海拔一、〇〇〇米、木曾駒より
曳く八軒餘の大斜面の尾根より成る。春は一面の花園で
あるが、冬は粉雪と樹氷・霧氷に飾られる。

り。

蓼原スキー場 (西筑摩郡木曾村)

(地圖木曾福島・伊那)

蓼原スキー場は、東京の人達より寧ろその位置からし
て中京・關西方面の人士に愛好されてゐる。名嶽の山の
家が其處に經營されて人を集めてゐる。海拔一、三〇〇
米で奥峯の中腹にあり、東南に展開し、雪量も豊富で、
期間は十二月下旬より三月下旬迄。斜面も種々な變化に
富んでゐる。練習場は第一より第四迄あり、處々に山小
屋の設備もある。第四練習場の奥に奥峯があつて、山黨
の連中の喜悅するところであるが、山黨にとつて蓼原の
よさは、目前の木曾御嶽や木曾駒を指して、スキーの
快味に浸り得るところにある。

蓼原より大平、又は五月日の間、六・五軒のバスを
通じ、それよりスキー場まで交通は中央線約一軒、三十
分を要する。宿泊は鐵道省山の家と白樺家があり、其他
民家にも宿泊可能である。

〔スキー・ツアー・コース〕

A 蓼原—木曾福島

蓼原スキー場の中心をなすものは、標高一、六八〇米
の奥峯の有つ奥友平といつても過言でない。この蓼原
スキー場より十四軒の木曾福島へ通ずるスキー・コー
スは、一日を痛快に過ごすことが出来る。全コースを過

スキー場は蓼尾ヶ原と裏蓼尾ヶ原の二つに分れて居り
練習用シヤンツェもある。雪量は一米乃至二米を有し、
積雪期間も長く、十二月下旬より四月上旬迄に互つてゐ
る。蓼尾ヶ原のスキーは初心者向で、後者の裏蓼尾ヶ
原は二〇—四〇度の傾斜を有し、熟練者の練習によい。
スキー場よりは日本の屋根乗鞍・穂高の連なる巍然たる
姿や、柔かな裾を曳く御嶽の風光は魅惑的である。尙此
のスキー場を廻る木曾駒に登山するのも、山黨にとつて
は興味あるコースである。木曾駒の登路は雪崩の心配は
殆どなく、又福島には木曾特有の森林と風陰にあるため
雪の條件は素晴らしく、高度をとるに従つて眼界は開
け、北アルプスは白馬岳迄を望める。頂上及伊那方面の
雪は氷状となるから、アイゼンは携行した方が得策で
ある。頂上附近には木曾小屋・木曾福島町營小屋が冬季
使用に適し、燃料・食料の用意もある。使用の場合には經
營主に豫め申込むと便を得られる。早春四・五月頃スキ
ー無しの變つた雪中登山が出来、駒ヶ岳ならでは
である。

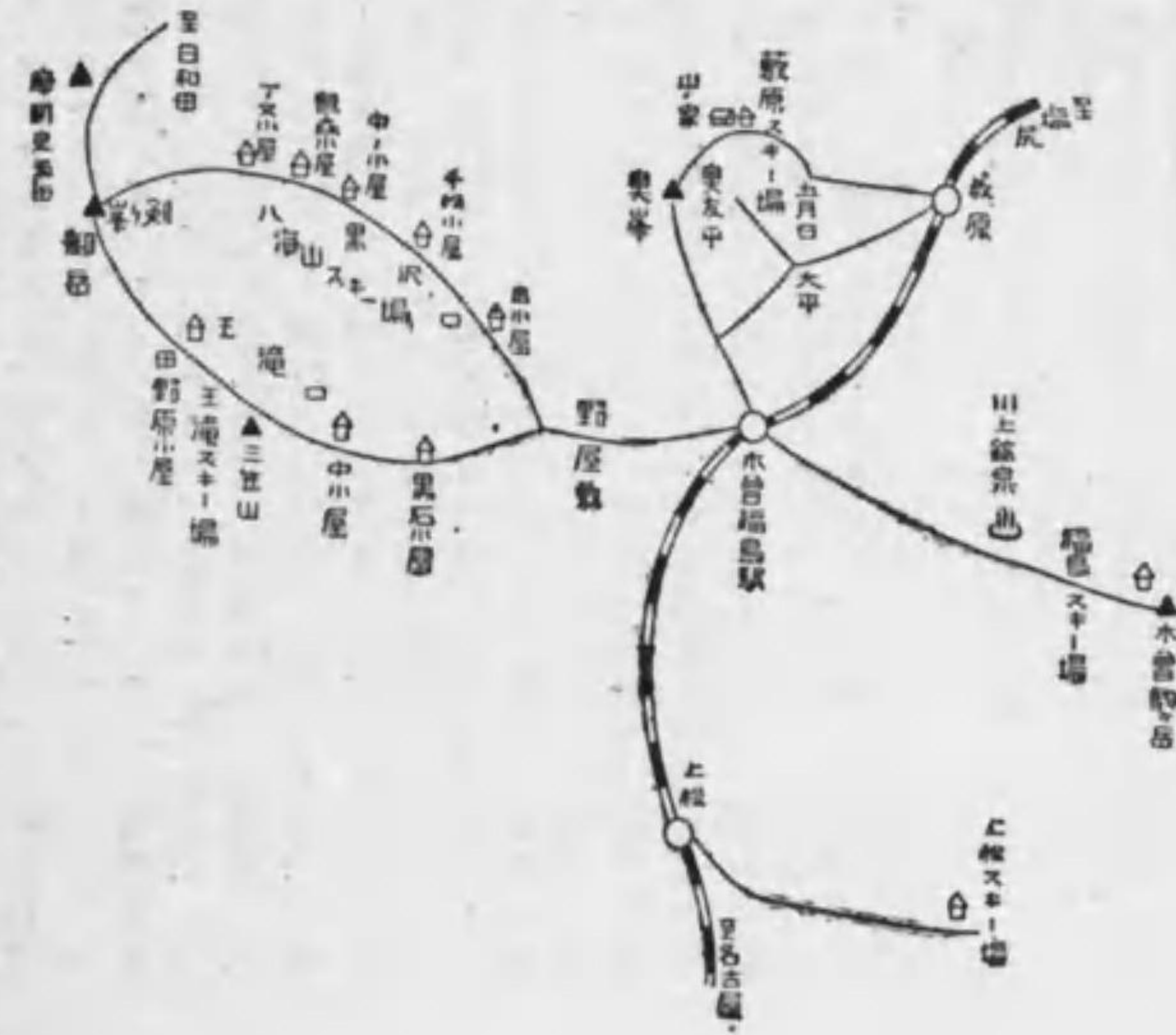
〔交通〕

木曾福島驛バス二〇分 川上鎮泉徒歩 スキー場

〔宿泊設備〕

川上鎮泉の湯・收容人員百五十名、外に民家もあ
り、宿泊料實費。
ヒュッテ四棟・賣店の設備あり。町營無料休憩所あ

本曾谷附近略図



じて好斜面の連続と云へる。藪原の好評たる所以も、この邊に原因があらう。

〔参考時間〕

本曾藪原驛——五月日——鐵道省山の家——奥友平

——奥峯——寺澤——本曾福島

B 藪原—寄合渡

藪原スキー場を左にして笹川に沿ひ進むこと約六・五軒にして境峠に達する。峠は海拔一、四八六米で、周圍は檜の森林帯を繞らしてゐる。峠より寄合渡まで七・五軒で、寄合渡には本曾路原と稱するスキー場もある。寄合渡から奈川峽に沿つて下れば、約四軒で大原スキー場に達する。夏季は安曇村島々(奈川渡乗換)よりバスを通じてゐるが、冬季は奈川渡までスキーを歩かせねばならない。寄合渡より往昔信飛の街道・野麥街道を行くのも興味あるコースである。

本曾御嶽附近 (地圖本曾福島・御嶽山)

本曾御嶽は信仰の山として、信者の尊崇をあつめてゐる。盛夏の候、信者・其他の数は素晴らしい數に上つてゐる。然し冬季にあつては登山の對象として省みられることが少い様であるが、果して御嶽は冬山として等閑視

さるべき山であらうか。

御嶽は名古屋方面よりの利用を考へる時は、その位置は白馬岳や乗鞍より遙に近く、冬季に於けるスキーの利用範圍を比較しても優劣を定め難い。唯に御嶽のみ目標とせずとも、その山麓に展く廣茫たるスキー場は、雪質・斜面・景觀等、いづれも良好な條件を具備して居る。高山線の全通と相俟つて、積雪期の御嶽附近を目指すものが、次第に増加してゆく傾向を示すことは嬉しい現象である。

積雪期の御嶽登山には、信州側に二つの登山口がある。黒澤口と王瀬口であるが、最も多く利用されるのは前者、即ち黒澤口である。利用される條件として挙げられるものは、交通の便のよいこと、冬季使用し得る小屋が登山道沿ひに多いこと、短距離であること、地形がスキーの利用に適合してゐること等がある。然し王瀬口も冬季登山に不適であるといふのではない、たゞ黒澤口が王瀬口に比して兄者たるの位置を占めてゐる。

黒澤口 本曾福島驛下車、冬季にあつても自動車は田中迄通じて居る。四軒にして大祓瀧小屋に着く。此處は第一スキー場で、初心者向である。約一軒上、通稱正小屋と稱する箇所は東南に面し、黒澤口最大のスキー場で、最も變化に富む第二スキー場がある。八海山小屋附近より南へ王瀬口の王瀬スキー場に接して、雄大な第三スキー場があり、スロープも變化に富み雪質も良好であ

る。千本松小屋より本曾の名物の森林の中を行けばこの附近は絶好の粉雪である。中ノ小屋は御嶽の山小屋中に於て設備の最も優秀なもので、上の一ノ又小屋と同様、冬季の營業はしてゐないが、小屋主に頼めば同行してくれる。六合目からの廣尾根を登れば飯森小屋があり、ついで滑川の源流上の行場の小屋がある。風・雪崩共に安全の位置を占めて、黒澤・王瀬兩口に於ける最高位の小舎である。八合目へは夏道と分れて、尾根を八合目の小屋を目標として電光形に登る。小屋北側を通過し、岳樺地帯を越えて九合目にかゝる。此附近迄スキーで登れることもあり、八合目下でアイゼンと代へることもある。愈々摩利支天の嶺を過ぎてウインドクラストをした登りで、終つて九合目の覺明堂小屋につけば山稜は緩かとなり、三、〇六三・四米の剣ヶ峯に登る。ここより四方の莊嚴な展望をすれば、中でも槍・穂高・本曾駒の冬の姿の偉容に打たれる。

歸路は二ノ池に下り、九合目・八合目附近では乗鞍の位ヶ原のやうな雪の樂園を味はつて、大祓瀧小屋まで快走を續けられる。

雪崩の危険は殆どないが、森林帯を出ると風當りが強い故、天候・其他に注意がいる。又歸路登つて来た折のルートを失はぬことと、ともすれば滑降の愉快さにルートを失つて迷ふことも生じる。特に八合目下の尾根は最も廣い尾根を下ることである。

雪の御嶽は乗鞍・立山に劣らぬ快味が満喫出来る。王滝口にも途中第一・第二・第三と練習場があり、初心者にも熟練者にもよいスロープがある。又飛騨側岳ノ湯より登る道もあるが、森林帯を出てからは信州側以上に惱まされる。

〔参考時間〕

木曾福島 二軒 田中 五軒 野屋敷野神社前 二軒 松尾瀧 四〇分
 一・五軒 スキー場小屋 三〇分 八海小屋 五〇分 一七三一米臺地 一・二軒
 中ノ小屋 一・五軒 飯森小屋 二軒 八合半 (スキーデ 三〇分) 一・五軒 頂上 一・五軒

三、スケート場案内

松原湖・諏訪湖・蓼ノ海

松原湖

長野縣南佐久郡北牧村

八ヶ岳東北麓にあり、猪名湖・長湖の二つに人工の貯水池を加へて成る。海拔一、二二三米の湖の總稱である。水は極めて清澄、周囲は鬱蒼とした樹林を繞らし、殊に八ヶ岳の大觀を背景とし風景明媚、湖畔の林叢は天然紀念物に指定されてゐる。輕井澤より一八一米も高い爲、空氣冷涼、且つ清淨な好適な避暑地でもある。新緑・紅葉の期も亦佳く、佐久平より八ヶ岳の表支關で、上り八時間程度で達する。猪名湖は長湖より大であるが、湖底も淺いため冬季間に於てはよく結氷し、些の危険箇所もなく、スケートの適地である。ために多數の學校の合宿や競技等も催される。結氷は十二月下旬より三月末日迄で、例年結氷は平均六〇糎(油氷)に及ぶ。湖畔に宿屋並に民家があり、宿泊に便してゐる。

〔交通〕

小海線松原湖驛より二五分、驛より賃切一圓五〇錢。

〔宿泊施設〕

名 稱 客 間 收容人員 料 金

萬屋旅館 二五 一三〇 一、七〇

佐久屋 三〇 二三〇 〇

田島鑛泉 八 五〇 〇

乾燥室の設備あり。氷上にて公魚釣をすることが出来る。附近民家宿泊は一圓三〇錢程度。

諏訪湖

諏訪湖は周圍一、八一八・九米。東西の二斷層崖間にあつる斷層湖で、面積五〇四、一〇八平方米・深度平均四米餘で、海拔七五九米の高地にある。水は生物・腐蝕物の多いため清澄を缺くが、鮒・鯉・公魚などが多く繁殖せられて、殊に冬の結氷期にあつては屋敷と稱する特殊の漁法に依り、年産額十餘萬圓をあげてゐる。

湖は八ヶ岳・芙蓉等を始めとして、諸峯を接して望むため、風光は明媚である。冬季は湖面十二月末より結氷を始め、三月末迄、約三〇糎の油氷の凍結を見、神渡

リ後は人馬の交通が自由に行はれるが、一方天然氷とし

て近縣に多量に移出されてゐる。附近一帯にスケートの盛んなことは日本一で、各種の氷上大會が催され、湖面は一大運動場となる。湖水を中心としての史蹟・傳説等多く、殊に神渡及八重垣姫に纏はる情話は有名である。諏訪湖畔一帯に温泉の湧出し、旅舎も多く宿泊の設けも完備してゐる。

〔交通〕

中央線上諏訪驛(徒歩二十分)諏訪湖

岡谷驛(徒歩一十分)諏訪湖

向上諏訪驛より徒歩約三丁六分程にして町營の特設スケート・リンクがあり、夜間滑走の設備もあり、岡谷市には秋宮リンク(下諏訪より半軒・岡谷驛より四軒)があり、共に貸スケート(一日十五錢以上)の便もあり、浴客

其他のスケート場

スケート場	下車驛	驛よりの距離	交通機關及運賃	旅館・宿泊料・其他
小坂田公園	鹽尻(中)	三軒	バス二二錢	鹽尻町：旅館三軒：一圓一圓二圓
照月湖	輕井澤(信)	前	バス二〇錢・貸切一圓	北輕井澤：旅館一軒：一圓五〇錢
田子池	吉田(信)	〔吉田四軒 長野八軒〕	バス二五錢・貸切一圓五〇錢	民家：三食付一圓：貸スケートあり 長野市：旅館：一圓五〇錢一五圓
芦ノ田池	松本(中)	淺間温泉より四軒		芦田莊：收容四〇人

に悦ばれてゐる。

蓼ノ海

蓼ノ海は、スキーで名にし負ふ霧ヶ峯の麓に一萬坪程の面積を有する湖で、夏期はボートに魚釣りと暑熱を忘れる別天地であるが、冬季は優秀なスケート・リンクとして我國スキー界に君臨する我國第一の良質な氷と、比類ない自然的環境を有するため利用されることも多く、毎年各種のスケート大會が開催される。

此所へは上諏訪より六キロ、徒歩にて約二時間、バスを利用すれば霧ヶ峯へ通ずる道を約五軒、中折して左へ約百米程にして達する。期間は十二月末より三月末迄、油水平均三〇厘の結氷を見る。湖畔に碧水莊旅館あり、收容力九〇名、宿泊二圓五十錢以上。

四、スキー用品一覽

A 一般スキー用具

- スキ 店舗につき身長・體重とに適合せるものを選ぶ事
- 杖 中級者以上は補助具を用意する事
- 靴 毛靴下二枚穿いても窮屈でない程度のものでよい
- 防風具 頭巾のついている方がよい
- 上 古服でよい
- チヨツキ ボケツトの多いものが便
- ズボ 特別にニットカー・ボツカーなど作る必要はなし、サイチが可
- 下 肌には毛物でなしに、夏用綿シャツを用ふる事
- 手袋 軍手及び毛製手袋(少し大き目のがよい)を用意の事
- 靴 薄手のもの及び厚手の毛製を理想とする。

アザラシ皮巻 特別の必要はない
〔中級者以上ツアー・コース用に必要〕

B 一般携帯用具

- 雪 紫外線除けとして必須
- 眼鏡 陸地測量部五萬分ノ一
- 磁石 腕時計より普通時計がよい
- 時計 フィルムは携帯の時は鑑入りが便
- 寫眞機

ルニツク・サツク	大型及び小型
水筒	魔法壺
懐中電燈	豫備用電池用意の事
小刀	濕氣を避ける様に入りとする事
靴紐	
針	
風呂敷	
齒磨子	
日焼止	高山の春山登山等に必要
石鹼	
手拭	
ハンカチーフ	
紙・手帳	
鉛筆	
救急薬	

〔備考〕 Aの中○印の用具は初級者に必要のもの。Bは中級者のツアー用具。Cは高級者の登山用具。

C スキー登山用具

ビツケル	ビツケル・バンドは必ずつける事
アイゼン	締紐を忘れぬ事
輪カンデキ	
ザイル	
寝袋	冬季は羽根入りがい
炊事具	コツフェル・其他
石油	高山に於ける燃料として相當豊富に用意の事
揮發油	
酒	
箸・スプーン	
食器	
寒暖計	
天幕一式	
小型シヨベル	
下敷	

五、雪質とリツクス (スキー類)

云ふ迄もなく、スキーは雪上を滑走する事を目的とする。よく滑走する爲めには、よく登行しなくてはならない。よく登行し、よく滑走するにはスキーそのものの裏面、即ち雪に接觸する部に何等かの工作を必要とする。登行の努力を少くし、滑降のスピードを快適ならしめる爲めに現はれたのが、スキー・ワツクスである。其處でワツクスの効用に俟つものは何かと云ふと、

- 一 滑降を専門とするもの
- 二 滑降・登行兩様のもの
- 三 登行を専門とするもの

に大體區別される。然し雪質は常に一定してゐるものならば、此の三種類でよいが、外界の氣温と共に、雪質は千差萬別に變化する。其雪質によつてワツクスの性質も變へてかゝらねばならぬ。ワツクス塗布の妙味と困難は此處にある。次に大體の雪質を區分し、之に適當せるワツクスの使用法を記して見る。併し之とて絶対的のものではなく、後は各自の研究に任すべきであらう。

1 乾燥新雪 (粉雪)

- A 零下十度以下——ミツクスを極めて薄く塗るがよい。或はクリスター・ボツクスを極めて薄く、又はテントを薄く下塗りとしてミツクスを薄く布く。
 - B 零下十度より零下五度位——ミツクスを薄く塗る。又テントの下塗りにクリスター・ボツクス、或はミツクスを薄く塗布する。五度に近づくときと濃くする。
 - C 零下五度より零下三度位——ミツクスを厚くし、上にメデウムを薄くする。クリスター・ボツクスでもよい。
 - D 零下三度より零度位——メデウム、或はクリスター・ボツクスを用ふ。又はクリスターを薄く下に塗り、メデウムを薄く塗るもよし。
- 〔註〕 クリスター・ボツクスを萬能ワツクスと云ふ。
- 2 濕性新雪
- A 零度より三度位——メデウムを厚く、萬能ワツクス

六、スキー地案内一覽

信越線方面

場名	スキー場	交通	施設	積雪期間	備考
高峯	小諸驛下車、驛より一〇軒、徒歩二時間三〇分	乙女ヒュッテ一〇名	自一二月下旬粉雪三〇糎	大里村迄一時間、旅館二軒、一泊二、〇〇より、山案内人二名一日、一、五〇〇貸スキー一日	
御牧ヶ原	田中驛下車、驛より二六軒、望月迄一二軒、バス片道三〇		自三月中旬粉雪四〇糎	望月旅館五軒、一泊一、二〇より、三〇〇名	
大(北佐久)平	田中驛下車、驛より九軒、峯ノ茶屋迄七軒、バス片道五〇	峯ノ茶屋一泊、五〇より、五〇名	自三月中旬粉雪二米	湯澤温泉旅館二軒、一泊一、二〇より、三〇〇名	
浅間山麓	香掛驛下車、驛より九軒、峯ノ茶屋迄七軒、バス片道五〇	峯ノ茶屋一泊、五〇より、五〇名	自三月中旬粉雪二米	星野温泉旅館、一泊一、二〇より	
六里ヶ原	草津電鐵北經井澤驛下車、驛より〇・三軒、スキー	家二度上驛雪の	自三月中旬粉雪一米	北經井澤旅館一軒、一泊一、五〇より、五〇名	
草津温泉	草津電鐵、草津温泉〇・一軒、〇・五軒スキー		自三月中旬粉雪一米	草津温泉旅館二七軒、一泊一、五〇より、六、〇〇〇名	
鹿澤温泉	田中驛下車、驛より一七軒、二一軒、新張迄四軒、バス片道二五		自二月中旬粉雪三米	鹿澤温泉旅館一軒、一泊二食付二、〇〇・三食付二、五〇、二五〇名	

- スは稍々厚く。又クリスターを下塗りとし、メデウムを上塗りする。
- B 三度より五度位——萬能ワックス稍々厚く、クリスターを下塗りし、メデウムを厚く上塗りす。
- 3 潤 潤
- A 濕性新雪より濕潤雪にならうとする時に用ゐる。クリスター・ボツクスを厚く、或はクリスターを薄く塗る。
- B 氣温昂り、水分が多くなる時、クリスター、或はグリーン・クリスターを厚く塗る。
- 4 粒 雲
- A 風を強く受け寒温なる時はメデウムを厚く、又スカーレーは薄く用ゐる。
- B 日光の作用を受け、氣温零度以上の時はクリスター、或はグリーン・クリスターを厚く、氣温高まるにつれて更に厚くする。零度以下の時はスカーレーを用ふ。氣温低き程薄くなる。
- 5 中 間 雲
- A 粉雪より舊雪にならんとする時。
- B 風の作用により粉雪よりベタ雪にならんとする雪。
- A・B共に下塗りにミツクスを用ゐ、メデウムを上塗りする。共に厚目にする事。
- C 日光により粉雪よりベタ雪、或は舊雪にならんとする時はクリスター、或はグリーン・クリスター、又はスカーレーを薄目に塗る。
- 以上は大體登行・滑降共によろしき場合を想定してのワツクスの使用法であるが、其他の特殊な場合は、次のワツクスを使用する方がよい。
- 滑降用ワツクス
- A 滑るだけならば、パラフィンでよい。初心者には之で充分。質は融解點の低い軟質のものがよく、スキーから水氣をとり去り、アイロンでパラフィンを融かし乍ら、凸凹のない様に綺麗に引延す。但し溝には蠟の流れ込まぬ様に注意をする。零下十度以下になると性能は悪くなる。
- B ナンセン蠟は一般山岳滑降用として粉雪に用ゐられ、效が多い。
- C 其他にスキーオリオン・白ラツク・ホツプ・レコー・ド赤など滑降専門用は當相種類が多い。
- 尙登行用にはシール(アザラシ皮)のある事を附加へて置く。

志賀高原	柏原	戸隠	飯縄	地蔵峠
<p>山田・萬座温泉方面</p> <p>長野電鉄須坂下車、驛より二軒、バス片道六分、徒歩二時間三十分</p>	<p>柏原驛下車、驛より一軒</p>	<p>長野驛下車、驛より二軒、バス片道七分、銚子口迄一七軒、バス片道七五分</p>	<p>長野驛下車、驛より一〇軒、徒歩二時間</p>	<p>關屋迄一六軒、バス片道四五分、往復七五分、四〇分</p> <p>長野電鉄松代下車、驛より八・五軒、關屋迄五軒、バス片道二〇分、往復三五分、一〇分、バス片道より徒歩一時間三十分、バススキー客五割引</p>
<p>彌米ヒユツテ (燃料のみ) 徳販賣をなす</p>			<p>大平スキー場 迄二軒、ヒユツテ、三食付、五〇名</p>	<p>地蔵峠ホテル 〇泊九〇、五</p>
<p>自一月中旬 至三月中旬 粉雪 一米</p>	<p>自一二月下旬 至三月中旬</p>	<p>自一月中旬 至三月中旬 粉雪 一米</p>	<p>自一月上旬 至三月中旬 粉雪</p>	<p>自一二月下旬 至三月中旬 粉雪</p>
<p>山田温泉旅館七軒、三食付二、三〇より、一〇〇名</p> <p>五色温泉旅館一軒、三食付二、三〇より、五〇名</p> <p>七味温泉旅館一軒、三食付二、三〇より、五〇名</p> <p>萬座一泊二食付、二、三〇より、八〇〇名</p>	<p>旅館五軒 一泊一、〇〇より、二〇〇名</p>	<p>寶光社旅館七軒 一泊二食付一、五〇一三、〇〇、四〇〇名</p> <p>中社旅館二軒 一泊二食付一、五〇一三、〇〇、六〇〇名</p>	<p>鐵嶺泉・富士見茶屋 一泊一、五〇より、一五〇名</p> <p>賣店四軒・寶光社迄六軒、スキー</p>	<p>松代町迄八軒、旅館五軒、一、二〇一、二〇〇、二〇〇名</p> <p>民家三軒、實費、二五名</p>

菅平	新鹿澤温泉
<p>上田電鉄眞田驛下車(三六分、四〇分)、驛より一六・五軒、バス片道四分、省營バス(一五分、一〇分、それより菅平迄六軒、馬場三〇(下りは二五))</p> <p>長野電鉄須坂下車、驛より二軒、仙仁迄一〇軒、バス片道二〇分</p> <p>篠ノ井驛下車、驛より一五軒、關屋迄一五軒、バス片道三五分、往復五五分、三〇分</p> <p>長野驛下車、驛より一九・五軒、</p>	<p>上田電鉄眞田驛下車(三六分、四〇分)、驛より一六・五軒、バス片道四分、省營バス(一五分、一〇分、それより菅平迄六軒、馬場三〇(下りは二五))</p> <p>長野電鉄須坂下車、驛より二軒、仙仁迄一〇軒、バス片道二〇分</p> <p>篠ノ井驛下車、驛より一五軒、關屋迄一五軒、バス片道三五分、往復五五分、三〇分</p> <p>長野驛下車、驛より一九・五軒、</p>
<p>ホテル一泊二食付二〇名</p> <p>山の家一泊一八〇〇名</p> <p>食付一、八〇〇名</p> <p>名より、一八〇〇名</p>	
<p>積雪量及雪質・期間 等は新鹿澤温泉と同</p>	<p>自一月中旬 至三月中旬 粉雪 一米</p> <p>自一月中旬 至三月中旬 粉雪 一米</p> <p>自一月中旬 至三月中旬 粉雪 一米</p> <p>自一月中旬 至三月中旬 粉雪 一米</p>
<p>旅館一五軒、一泊二食付二、〇〇一、二、五〇、辨當三〇</p> <p>民家・宿舍三九軒、一泊二食付一、八〇、辨當三〇、日歸席料一〇〇</p> <p>體協スキー學校(青年講習所)三食付一、三〇より、一〇〇名</p> <p>文部省體育研究所 貸スキー各宿舍に約二〇〇名、一日四〇、貸靴六〇〇名</p> <p>スキーコーチ一日二、〇〇〇名</p>	<p>新鹿澤温泉旅館四軒 一泊二食付二、〇〇より三〇、一、五〇〇名</p> <p>スキーコーチ旅館にて幹旋一日二、五〇</p>

妙高温泉	稻子	桑名川	飯山	野澤温泉
田口驛下車、驛より〇・六軒、徒歩一五分	小海線松原驛下車、驛より八軒、貨切三、五〇、徒歩二時間三〇分	飯山鐵道桑名川驛下車、驛より二軒、スキー	飯山鐵道飯山及北飯山驛下車、驛より五軒、スキー一五分	飯山鐵道野澤温泉驛下車、驛より四軒、野澤温泉迄バス片道三・五・馬橋五〇 長野電鐵木島驛下車、驛より三軒、野澤温泉迄バス片道四五 (但し積雪多量の場合は運轉休止)
賣店 四			分道ヒユツテ 一泊三食付 四〇名より、	集場ヒユツテ 一泊一、五〇、三〇名 上ノ平ヒユツテ 一泊一、五〇、二〇名 上ノ平食堂二軒・ユートビ・ア食堂一軒・第一スキー場食堂六軒
自一二月下旬 至四月中旬 二米	自一月中旬 至四月上旬 二米六〇糶以上	自二月下旬 至三月下旬 二米以上	自二月下旬 至三月下旬 二米以上	自一二月下旬 至四月上旬 二米八〇糶粉雪
各温泉旅館八軒、一、〇〇〇、一、七五〇、スキー場へ一五分 山案内人二、〇〇一、三、〇〇〇 貸スキー一日三〇一、五〇〇	一八〇名 稻子温泉一泊一、五〇より、	旅館二軒、一泊三食付一、〇〇〇名 民家一軒、一泊三食付八〇より、一〇〇名	飯山町旅館九軒、一泊三食付一、八〇より(五〇〇名) 山案内人二〇名無料・貸スキー無料	旅館二六軒、一泊三食付二、〇〇一、五〇〇、二、五〇〇名 民家一泊二食付一、〇〇より、三、〇〇〇名 貸スキー一臺三五

高社山麓 木島	高社山麓 夜間 瀧	志賀高原
長野電鐵木島驛下車、驛より四軒、スキー	長野電鐵夜間瀧驛下車、驛より二軒、馬橋片道二〇・往復三〇	熊ノ湯・丸池方面 長野電鐵湯田中驛(但し志賀高原) 下野電鐵湯田中驛 原列車は湯田中に 直通三軒、上林温 泉迄三軒、バス片 道二〇、馬橋上林 より九池 馬橋上林より九池 ヒユツテ迄二時間 三人乗四、五〇
高社ヒユツテ 一泊三食付 一、五〇名より、	高社ヒユツテ 一泊三食付 一、五〇名より、	志賀高原ホテルスキーヤ 表三、五〇・裏三、〇〇 朝食三、〇〇・夜食三、〇〇 中食三、〇〇・夕食三、〇〇 丸池ヒユツテ一〇〇名 琵琶ヒユツテ一〇〇名 志賀ヒユツテ一〇〇名 横手山ヒユツテ一〇〇名 石ノ湯ヒユツテ一〇〇名 熊ノ湯ヒユツテ一〇〇名 笠岳ヒユツテ二、二〇〇名 鐵道省の家二、二〇〇名 宿泊三食付一、五〇 龍王山遊藝所(龍王山)薪炭の用意あり
自一二月下旬 至三月中旬 一、五〇糶	自一二月下旬 至三月中旬 一、五〇糶	自一二月下旬 至三月中旬 粉雪 二米
飯山町旅館九軒、一泊三食付一、五〇より	湯田中温泉四軒(電車)、一六軒、一泊二食付二、五〇より、八〇〇名 其他安代・澁・角間各温泉一泊二食付二、五〇より	上林温泉 ホテル一泊二食付三、五〇より 他は一泊二食付二、五〇 湯田中・澁・安代温泉各旅館一泊二食付二、五〇より 發哺温泉二軒 一泊二食付二、二〇より

北アルプス方面

中 山	乗鞍山麓 (金山麓 平原)	上 高 地
大糸南線信濃大町下車、驛より五軒、スキー場バス片道二〇分、往復三〇分	松本電鐵島々驛下車、驛より二六軒、大野川迄二〇軒、貸切バス片道七〇分、前川渡迄一八軒、バス片道七〇分	松本驛下車乗換、松本電鐵島々驛下車、驛より三九軒(河童橋迄)、冬季は前川渡までバス一八軒片道七〇分
中山ヒュッテ、三泊、食付、食費、四〇名	一泊、食付、食費、一〇名、乗鞍スキー小屋、一泊、食付、食費、一〇名、肩小屋、一泊、食付、食費、一〇名、八〇名	中ノ湯旅館、一泊、食付、食費、一〇名、五千尺旅館、一泊、食付、食費、一〇名、徳澤園、一泊、食付、食費、一〇名、二、五〇名、穂高小屋、一泊、食付、食費、一〇名、米、味、噴、公、徳、販、賣
自一二月下旬粉雪、至三月下旬粉雪、一米	自一月中旬粉雪、至四月中旬粉雪、二米	
大町旅館二軒、一泊、食付、一、五〇名、照會先、大町觀光協會	大野川・番所原旅館各一軒、一泊、食付、一、五〇名、白骨温泉旅館三軒、一泊、食付、一、五〇名、照會先、安曇村、筒木音彌、福島清毅、齋藤安市	照會先、安曇村、役場、安曇村、奥原英男、徳澤園、上條喜藤次、五千尺旅館、丸山、尙、穂高小屋、岐阜縣吉城郡、上賣村、今田重太郎

池ノ平温泉	赤倉温泉	新赤倉温泉	關温泉	燕温泉	笹ヶ峯
田口驛下車、驛より二・六軒、徒歩五五分	田口驛より五軒、徒歩一時間二〇分	田口驛下車、驛より三軒、徒歩一時間	關山驛下車、驛より六・五軒、徒歩二時間	關山驛下車、驛より八軒、徒歩二時間五〇分	田口驛下車、驛より一三・六軒、徒歩時間四時間三十分
縣營ヒュッテ、一泊、一、五〇名、賣店、一軒、食費、一〇軒	大谷ヒュッテ、食費、三〇名				岡長小屋、一泊、一、五〇名、加藤小屋、二〇名
同右	同右	同右	同右	同右	自一二月下旬粉雪、至四月中旬粉雪、二米
各温泉旅館八軒、二、〇〇名、スキー場、一、八〇〇名、山案内人、二、〇〇名、貸スキー、一、三〇〇名	各温泉旅館一〇軒、二、〇〇名、スキー場、一時間二〇分、スキー場、食費、賣店、數、一、四〇〇名、山案内人、二、〇〇名、貸スキー、一、三〇〇名	各温泉旅館五軒、二、〇〇名、スキー場、一時間、一、〇〇名、山案内人、二、〇〇名、貸スキー、一、三〇〇名	各温泉旅館一泊、二、〇〇名、山案内人、二、〇〇名、貸スキー、一、三〇〇名	各温泉旅館一泊、一、八〇名、山案内人、二、〇〇名、貸スキー、一、三〇〇名	各温泉旅館一泊、一、八〇名、山案内人、二、〇〇名、貸スキー、一、三〇〇名

中央線方面

上松	小谷温泉	遠見尾根	親ノ原	蕨平	若栗
上松驛下車、驛より四軒スキー	大糸南線中土驛下車驛より一〇軒、スキー三時間	大糸南線神城驛下車、驛よりスキーにて三・五時間	大糸南線南小谷驛下車、驛より四・五軒、徒歩一時三〇分	大糸南線小谷驛下車、驛より四軒、徒歩一時二〇分	大糸南線南小谷驛下車、驛より四軒、徒歩一時二〇分、馬橋三
ヒュッテ一泊 名二〇、五〇泊	小谷温泉スキー 泊、一、八〇〇名	遠見小屋一泊 三食付二、二〇〇名 自炊一、二〇〇名	蕨平ヒュッテ 一泊一、五〇名	若栗スキー ヒュッテ一泊 一、五〇、五〇名	
自一二月下旬 至三月下旬 七〇糶	自一二月下旬 至四月上旬 粉雪 三米	自一月中旬 至四月下旬	同 右	自一二月下旬 至四月上旬 粉雪 一米五〇糶	自一二月下旬 至三月下旬 粉雪 一米五〇糶
上松町旅館二軒、一泊一、五〇より、二〇〇名	温泉旅館四軒、一泊二、〇〇より四〇〇名 山案内人六名、一日二、五〇〇 貸スキー一日五〇〇	照會先 神城村 下川又寛	同 右	旅館三軒、スキー場迄一時 間、一泊一、八〇より、一 三〇名 山案内人五名、一日一、八〇〇 貸スキー一日五〇〇	

白馬山麓入	高方尾根	細野	白馬山麓倉	落倉	樽池
大糸南線神城下車驛より〇・六軒、スキー	大糸南線信濃四ツ谷驛下車、驛より六軒、細野スキー場迄四軒、馬橋三〇	大糸南線信濃四ツ谷驛下車、驛より四軒、スキー場迄四軒、馬橋三〇	大糸南線信濃四ツ谷驛下車、驛より八・五軒	大糸南線信濃森上驛下車、驛より四軒、スキー場迄馬橋三五	大糸南線信濃森上驛下車、驛より一〇軒、落倉スキー場迄四軒、馬橋三五
旅館二軒、ヒュッテ一軒、ヒュッテ一、五〇、〇〇名	村營ヒュッテ一泊三食付八付	黒菱ヒュッテ一泊二、八〇〇名 唐松頂上小屋一泊二、五〇〇名	猿倉小屋一泊二、〇〇〇名 白馬スキー小屋三〇名 南殿スキー小屋二五名	村營ヒュッテ一泊三食付一〇〇名	樽池ヒュッテ一泊二、〇〇〇名 御膳場休泊所
自一二月下旬 至四月上旬 粉雪 二米以上	自一二月下旬 至四月上旬 粉雪 二米以上	自一月中旬 至五月中旬 粉雪 二米以上	同 右	自一二月下旬 至四月上旬 粉雪 一米	自一二月下旬 至五月上旬 粉雪 二米
照會先 神城村 下川又寛	照會先 細野スキークラブ	照會先 神城村 下川又寛	照會先 北城村 白馬役場	照會先 細野スキークラブ	照會先 北城村 白馬館

袴ヶ越	美ヶ池原	東山	鹽嶺岡谷	鉢伏・横峯・高ボツチ	猿ヶ番場
松本驛下車、一・五軒、藤井温泉迄四軒、バス片道一五	松本驛下車、驛より六・五軒、藤井温泉迄四軒、バス片道一五	岡谷驛下車、鹽尻峠迄一〇軒、バス片道一五	岡谷驛下車、驛より二軒、徒歩四〇分、省營バス一・二・バス一五、一五分	湯迄六軒、バス片道三〇、往復五〇、鹽尻驛下車、驛より一・二軒、欠ノ湯迄一〇軒、バス片道四〇	篠ノ井線麻績驛下車、驛より六軒、市野川迄四軒、貸切一、〇〇
東山荘一泊三食付一、五〇、四〇名	〇一〇二山五泊三 〇五〇〇本〇三 〇〇食付一、二〇食付一、 〇〇食三、二〇泊名 〇一〇食二、一〇泊 〇五〇食三、一〇〇泊			鉢伏ヒユツテ 賞費	〇ヒユツテ、三〇名
		自一二月下旬粉雪 至三月下旬粉雪 六〇糶	自一二月下旬 至三月中旬 六〇糶	自一二月下旬 至三月上旬 一米	
案内人二〇名、一日一、八 貸スキー 一日五〇	浅間温泉旅館一泊二、〇〇 より	岡谷市旅館三軒、一泊一、 五〇より	岡谷市旅館三軒、一泊一、 貸スキー 一〇〇名、 一〇〇名、 一日三〇	欠ノ湯旅館四軒、一泊一、 二〇一、二〇、一〇〇名	民家二〇軒、一泊三食付 一、二〇、一〇〇名

奈川	藪原	王ヶ瀧	木曾御嶽山	木曾福島
松本電鐵島々驛下車、驛より二六軒、寄合渡迄二五軒、バス片道一、六〇(路原) 藪原下車、驛より一七軒、バス片道三五、五月日迄六軒、バス片道三五、往復六〇、それより山の家迄一・五軒	藪原驛下車、驛より七・五軒、大平迄六・五軒、バス片道四〇、往復七〇 五月日迄六軒、バス片道三五、往復六〇、それより山の家迄一・五軒	木曾福島驛下車、驛より二三軒、王瀧迄一三軒、バス片道一、五〇	木曾福島驛下車、驛より一八軒、田中迄一二軒、バス片道九〇、往復一、六〇	木曾福島驛下車、驛より五軒、駒ノ湯迄四軒、バス片道二五、往復四〇、貸切一、五〇
	〇七半五泊一 〇〇泊二〇食付一、 〇〇料朝食 中食三	山小屋一泊三食付一、五〇、五〇〇名	山小屋一泊三食付一、五〇、三〇〇名	山の家宿泊五〇、朝食二〇、 食二五、夕 食四〇、四八
自一二月中旬粉雪 至四月中旬粉雪 二米	自一二月下旬粉雪 至三月中旬粉雪	同 右	自一二月下旬粉雪 至四月上旬粉雪	自一二月下旬 至四月上旬 一米一、一米五〇糶
寄合渡旅館四軒、一泊三食付一、〇〇より 民家賃費 黒川渡旅館四軒、一泊三食付八〇より、食二五 民家賃費	旅館三軒、一五〇名、藪原八軒、二五〇名、一泊一、二〇より 民家は賃費	田中に旅館あり 山小屋を開放するも木曾福島観光協會に照會の事 王瀧に旅館あり	駒ノ湯一泊二食付一、五〇、 民家賃費 民家賃費 福島町旅館一五軒、一泊二、 〇〇、五〇、三〇〇名 食五〇より 貸スキー 一日二五	

信濃ガイドシリーズ

- 温泉案内 (1) 拾 銭 (既刊)
- 雲艇行脚 (2) 參拾銭 (◇)
- 神社詣て (3) (近刊)
- 車窓案内 (4) (◇)
- 信濃年中行事 (5) (◇)
- 登山案内 (6) (◇)
- ハイキングの栞 (7) (◇)

信濃ガイド・シリーズ (2)

雲艇行脚 (定價參拾銭)

昭和十四年十二月十五日印刷
昭和十四年十二月二十日發行

編纂者 長野縣土木部監理課内 長野縣觀光協會

代表者 下平廣惠

印刷者 長野市大門町南二二番戶 清水與助

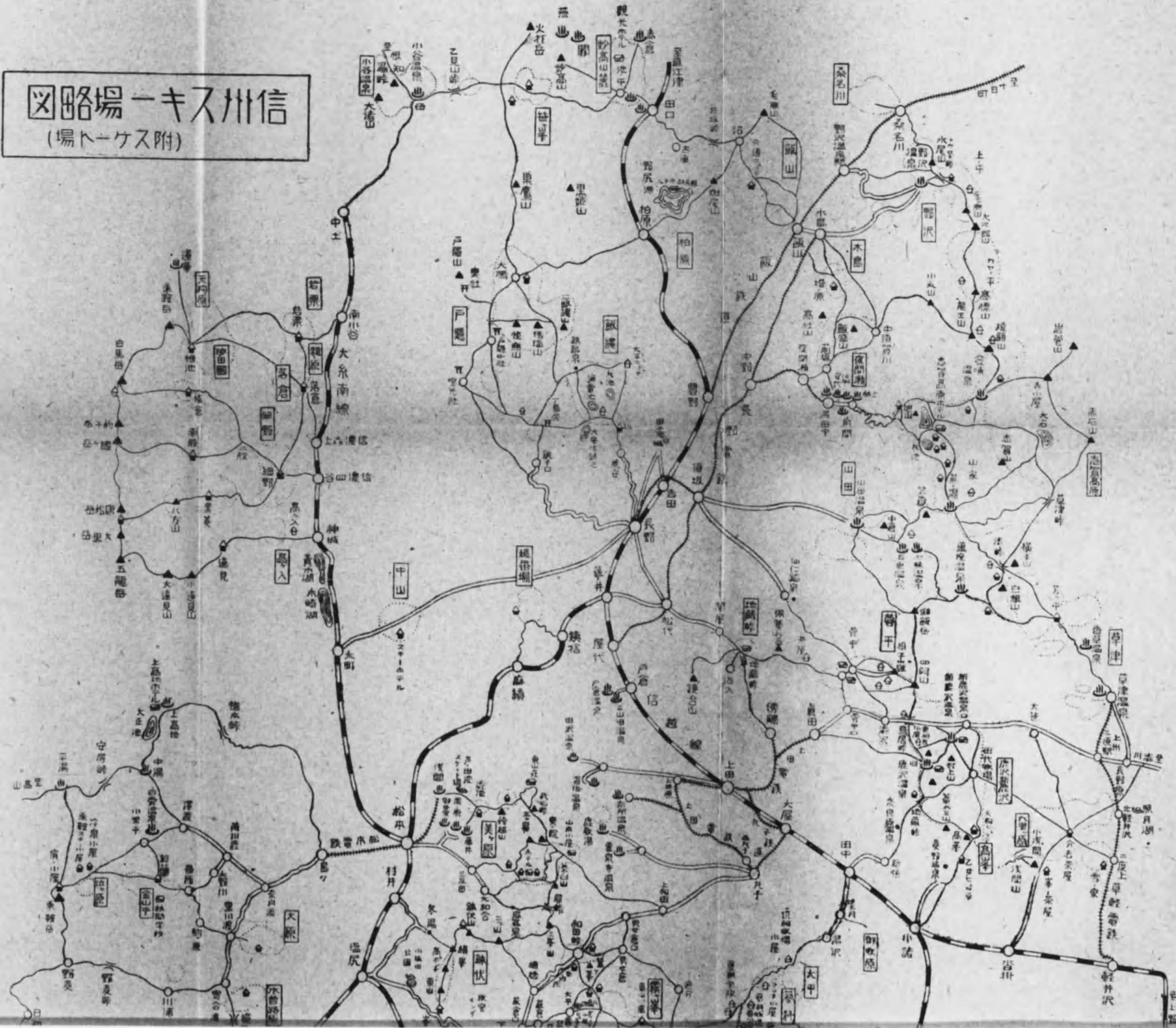
印刷所 長野市大門町南二一番戶

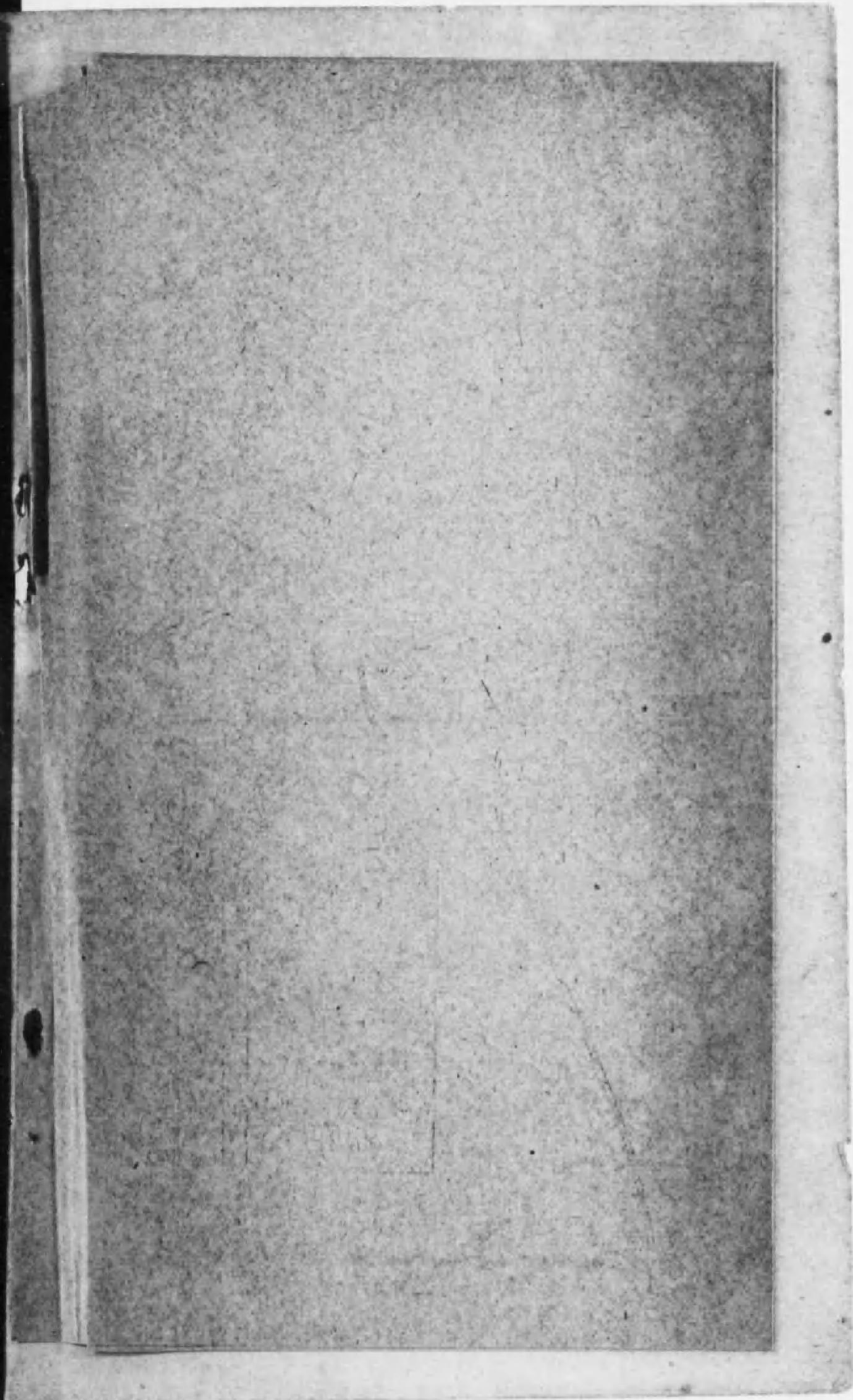
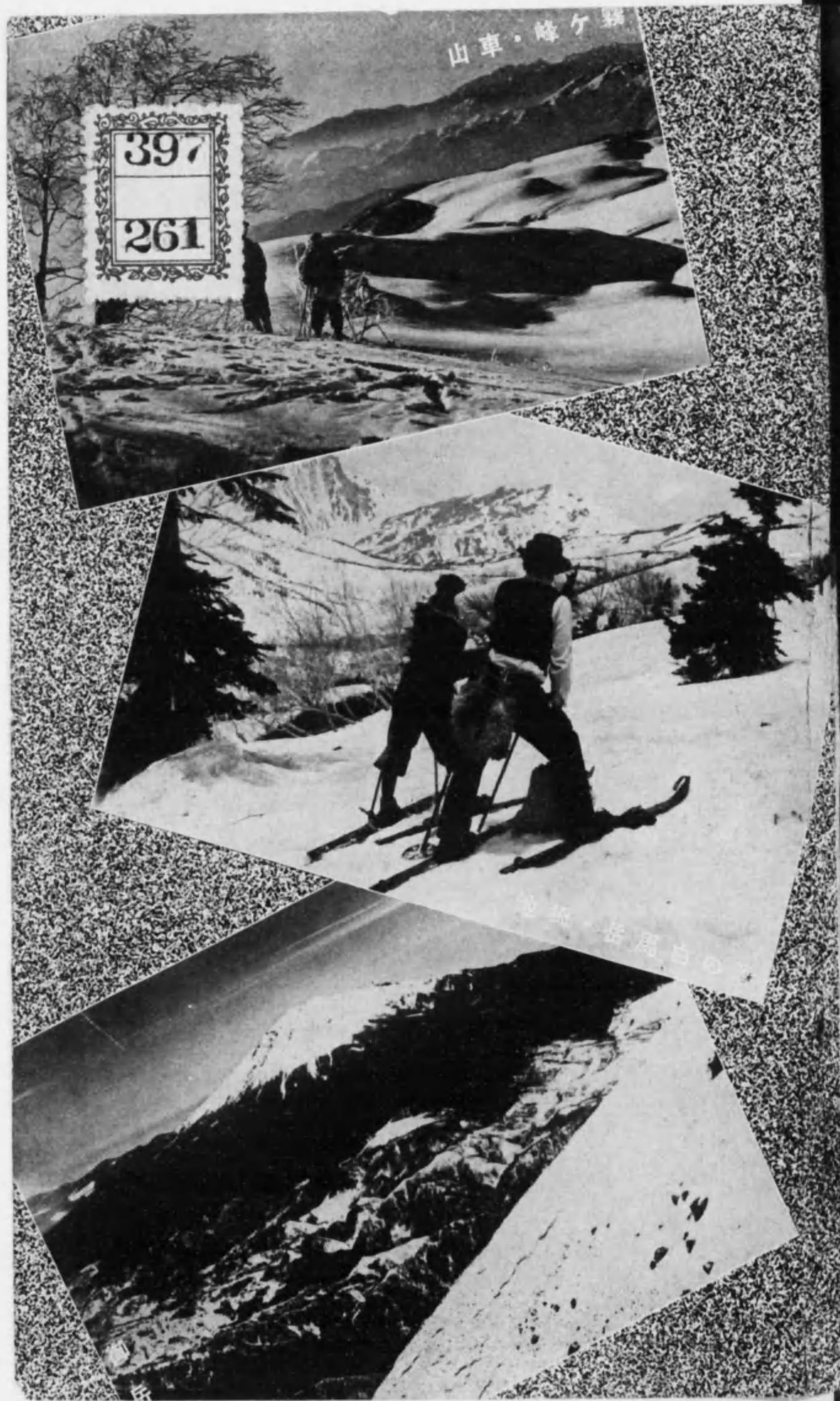
發行所 長野市大門町一六番戶 柏與印刷合名會社

發行所 金華堂書店

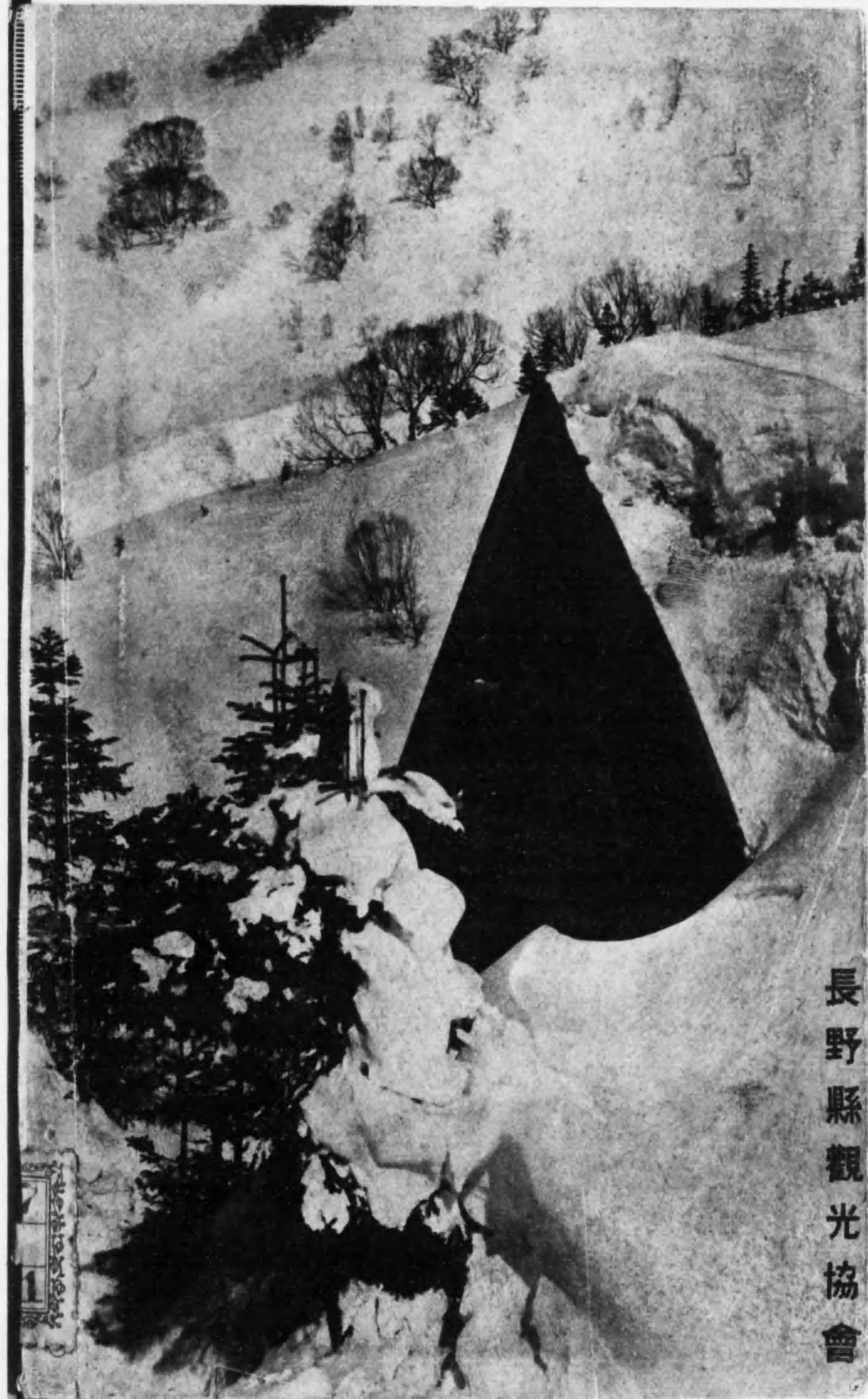
電話三、〇二〇番

信州キス一略図
(附キス一)





終



長野縣觀光協會